

宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第112集

しもにしはらいせき
下西原遺跡

令和5年3月

宇都宮市教育委員会

しもにしはらいせき
下西原遺跡

令和5年3月

宇都宮市教育委員会

序

下西原遺跡は、上籠谷町に所在する遺跡で、周辺には鳥井戸遺跡や下上遺跡など縄文時代から平安時代にかけての集落跡が所在する地域であります。

今回の発掘調査は、国道408号と鬼怒テクノ通りを連絡し都市間交通の円滑化を図ることを目的に計画された市道5340号線の道路改良工事に先立って行われました。

本遺跡については平成19年度～20年度と平成28年度の2回の調査が行われ、その結果、縄文時代中期の竪穴住居跡21軒や土坑140基、古墳時代中期から終末期にかけての竪穴住居跡が10軒確認され、この遺跡が大規模な集落跡であることを知る貴重な資料となりました。

本書は、それらの成果をまとめたものであり、多くの方々に様々な面でご活用いただければ幸いです。

最後になりますが、埋蔵文化財の取り扱い協議から発掘調査、そして報告書作成・刊行にいたるまで多大なるご協力とご理解をいただきました関係各位、関係機関に対しまして、厚く御礼申し上げます。

令和5年3月

宇都宮市教育委員会

教育長 小堀 茂雄

例言

- 1 本報告書は、栃木県宇都宮市上籠谷町3330他に所在する下西原遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、宇都宮市道5340号線（みずほの通り）整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査として実施したものである。
- 3 本調査は2次に渡ったが、調査期間・調査面積等は以下のとおりである。

調査次	調査期間	調査面積
第1次調査	平成19年11月26日～平成20年7月2日	2,746㎡
第2次調査	平成29年2月15日～3月28日	809㎡

- 4 発掘調査における測量及び写真撮影等は、第1次調査を前原義之・君島直人が、第2次を竹下亘・近藤真がそれぞれ担当した。また報告書作成に伴う遺構・遺物の整理及び写真撮影等は、永岡亜紀・森千鶴子の協力を得て、田嶋麻友子・梁木誠がこれにあった。
- 5 本書の編集・執筆は、星野治彦との協議を踏まえ、梁木と田嶋がこれにあたった。
- 6 本遺跡出土の遺物及び図面・写真等の記録類は、宇都宮市教育委員会が保管している。
- 7 発掘調査の関係者は次のとおりである。

〔指導助言〕

宇都宮市文化財保護審議委員会委員 橋 静夫（平成20年9月30日まで）

〃 竹澤 謙（平成20年10月1日から）

〃 橋本澄朗

〔事務局〕

〈平成19年度〉

教育長：伊藤文雄、教育次長：高井 徹、文化課長：篠崎 茂、文化課長補佐：篠原 豊
文化財保護係長：大塚雅之、文化財保護係：富川 努、神野安伸、今平利幸、君島直人、
須田浩太郎、前原義之、井上俊邦、黒須 寛、寛 芳子

〈平成28年度〉

教育長：水越久夫、教育次長：篠塚茂夫、文化課長：松本邦夫、文化課長補佐：板倉英伸
文化財保護グループ係長：今平利幸、文化財保護グループ：江川尚美、石川和弘、君島直人、
近藤 真、竹下 亘、星野治彦、仲沢 隼、清地良太、高橋 慧

〈令和4年度・報告書作成時〉

教育長：小堀茂雄、教育次長：梓澤昌徳、文化課長：山口道雄、文化課主幹：今平利幸
文化課長補佐：井上俊邦、文化財保護グループ係長：近藤 真、文化財保護グループ：星野治彦、
田中宏迪、中野貴之、小曾戸祥彦、柳川実咲、松本尚樹、土田創太、中村 雅、高橋良子（再任）、
梁木 誠（会職）、田嶋麻友子（会職）、永岡亜紀（会職）、森千鶴子（会職）

〔発掘調査補助員〕

阿久津キヌ、石川義夫、入江晴江、入江通子、大塚啓子、大根田ノブ、郷岡久男、篠崎安子、篠原信子、鈴木智子、住谷 昭、日高澄子、堀中國代、村上アイ、山口佳久、渡辺重夫、山口 郁子、菊池芳弘、菊池千恵子

- 8 発掘調査の実施並びに本書の作成にあたっては、栃木県教育委員会の指導を受けるとともに、次の諸機関及び諸氏のご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表する。(敬称略、順不同)

栃木県立博物館、(財) 栃木県文化振興事業団

凡 例

- 1 挿図の縮尺は、原則として竪穴住居跡を1/60、遺物は土器を1/4、石器を1/3もしくは1/2で示した。また、遺物実測図番号は遺構平・断面図の番号及び図版の番号と一致する。
- 2 断面図基準線は標高であり、平面図の方位は磁北を示す。
- 3 遺構実測図の土層説明においては、次の略号を使用した。
ローム粒：LR、ロームブロック：LB、焼土：SY、焼土粒：SYR、焼土ブロック：SYB、鹿沼バミス：KP、今市バミス：IP、七本桜バミス：SP、炭化物：C、炭化物粒：CR、カクラン：K
- 4 遺構においては次の略号を使用した。
竪穴住居跡：SI、土坑：SK、溝：SD
- 5 竪穴住居跡平面図の網掛けは焼土を示す。

目次

・序	
・例言、凡例	
I はじめに	
1 調査の経過	1
2 遺跡の環境	3
II 遺構と遺物	
第1節 縄文時代	
1 竪穴住居跡	6
2 土坑	14
第2節 古墳時代	
1 竪穴住居跡	20
2 溝状遺構	24
III おわりに	
1 縄文時代集落跡の様相	89
2 古墳時代集落跡の様相	90
・写真図版	
・報告書抄録	

挿図目次

第1図 遺跡位置図	1	第13図 SI08	33
第2図 計画路線図と遺跡の配置	2	第14図 SI06・SK51・54	34
第3図 周辺の遺跡分布図	4	第15図 SI09	34
第4図 遺構配置図	25・26	第16図 SI10	35
第5図 SI01・SK39～42・50(1)	27	第17図 SI11・SK58・59・67～70	36
第6図 SI01・SK39～42・50(2)	28	第18図 SI12・SD01・SK66	37
第7図 SI02・23・SK98～101・121(1)	29	第19図 SI13～16・SK73～77・80・81・84・87(1)	38
第8図 SI02・23・SK98～101・121(2)	28	第20図 SI13～16・SK73～77・80・81・84・87(2)	39
第9図 SI02・SK13～15・21～24・26・29・31～37・45・46	30	第21図 SI24・SK92・97	40
第10図 SI03・SI07・SK02～11・16・30	31	第22図 SI29・SK107・125	40
第11図 SI04・SK17～20・27・28	32	第23図 SI22・25～27・SK109～118・120	
第12図 SI05・SK25・43・44・52・53	33		

	122·124 (1)·····41	第58图	土坑出土石器 (1)·····57
第24图	SI22·25 ~ 27·SK109 ~ 118·120· 122·124 (2)·····42	第59图	土坑出土石器 (2)·····58
第25图	SI22·25 ~ 27·SK109 ~ 118·120· 122·124 (3)·····43	第60图	土坑出土石器 (3)·····59
第26图	SI28·····44	第61图	土坑出土石器 (4)·····60
第27图	SI30·SK137·139·140·149·····44	第62图	土坑出土石器 (5)·····61
第28图	SI31·SK138·142·····45	第63图	土坑出土石器 (6)·····62
第29图	SI32·SK146·····46	第64图	土坑出土石器 (7)·····63
第30图	SI34·SK135·136·····46	第65图	土坑出土石器 (8)·····64
第31图	SI33·SK143 ~ 145·····47	第66图	遺構外出土石器 (1)·····65
第32图	SK01·····48	第67图	遺構外出土石器 (2)·····66
第33图	SK55·····48	第68图	SI01出土石器·····67
第34图	SK56·····48	第69图	SI02出土石器·····67
第35图	SK57·60·····48	第70图	SI03出土石器·····67
第36图	SK71·····49	第71图	SI04出土石器·····67
第37图	SI20·SK89·90·····49	第72图	SI05出土石器·····67
第38图	SK91·····49	第73图	SI06出土石器·····67
第39图	SK102·····49	第74图	SI09出土石器·····67
第40图	SK94 ~ 96·····50	第75图	SI11出土石器·····67
第41图	SK93·108·····50	第76图	SI10出土石器·····68
第42图	SK104·105·····50	第77图	SI12出土石器·····69
第43图	SK123·130·132 ~ 134·····51	第78图	SI13出土石器·····69
第44图	SK126 ~ 129·····52	第79图	SI15出土石器·····70
第45图	SK61 ~ 65·····52	第80图	SI20出土石器·····70
第46图	SK147·148·····52	第81图	SI22出土石器·····70
第47图	SI17·18·SK82·83·85·····53	第82图	SI23出土石器·····71
第48图	SI03出土石器·····54	第83图	SI30出土石器·····71
第49图	SI05出土石器·····54	第84图	SI24出土石器·····72
第50图	SI06出土石器·····54	第85图	SI25出土石器·····72
第51图	SI11出土石器·····55	第86图	SI26出土石器·····72
第52图	SI12出土石器·····55	第87图	SI31出土石器·····72
第53图	SI14出土石器·····56	第88图	SD01出土石器·····72
第54图	SI15出土石器·····56	第89图	土坑出土石器 (1)·····73
第55图	SI16出土石器·····56	第90图	土坑出土石器 (2)·····74
第56图	SI17出土石器·····56	第91图	土坑出土石器 (3)·····75
第57图	SI27出土石器·····56	第92图	遺構外出土石器 (1)·····75
		第93图	遺構外出土石器 (2)·····76
		第94图	遺構外出土石器 (3)·····77

第95図	出土土製耳飾	77	第101図	SI10出土土器	81
第96図	SI01出土土器	78	第102図	SI13出土土器	81
第97図	SI02出土土器	79	第103図	SI23出土土器	82
第98図	SI04出土土器	78	第104図	SI31出土土器	82
第99図	SI08出土土器	80	第105図	SD01出土土器	82
第100図	SI09出土土器	80	第106図	紡錘車・玉製品・土製品	82

表目次

第1表	周辺の道跡一覧表	5	第19表	SI09出土石器計測表	86
第2表	SI01出土土器観察表	83	第20表	SI10出土石器計測表	86
第3表	SI02出土土器観察表	83	第21表	SI11出土石器計測表	86
第4表	SI03出土土器観察表	84	第22表	SI12出土石器計測表	86
第5表	SI04出土土器観察表	84	第23表	SI13出土石器計測表	86
第6表	SI08出土土器観察表	84	第24表	SI15出土石器計測表	86
第7表	SI09出土土器観察表	84	第25表	SI20出土石器計測表	86
第8表	SI10出土土器観察表	85	第26表	SI22出土石器計測表	86
第9表	SI13出土土器観察表	85	第27表	SI23出土石器計測表	86
第10表	SI23出土土器観察表	85	第28表	SI24出土石器計測表	87
第11表	SI31出土土器観察表	85	第29表	SI25出土石器計測表	87
第12表	SD01出土土器観察表	85	第30表	SI26出土石器計測表	87
第13表	SI01出土石器計測表	86	第31表	SI30出土石器計測表	87
第14表	SI02出土石器計測表	86	第32表	SI31出土石器計測表	87
第15表	SI03出土石器計測表	86	第33表	SD01出土石器計測表	87
第16表	SI04出土石器計測表	86	第34表	土坑出土石器計測表	87
第17表	SI05出土石器計測表	86	第35表	遺構外出土石器計測表	87
第18表	SI06出土石器計測表	86	第36表	縄文時代土坑一覧	87

図版目次

P L 1	調査区完掘状況（西から）、調査区完掘状況（東から）	SI11土層断面、SI11完掘状況	
P L 2	SI05完掘状況、SI05磨製石斧出土状況、SI06遺物出土状況、SI06完掘状況、SI07完掘状況、SI07伊跡確認状況、	P L 3	SI12遺物出土状況、SI12完掘状況、SI14遺物出土状況、SI14完掘状況、SI15完掘状況、SI15伊跡完掘状況、SI16及び周辺完掘状況、SI16伊跡完

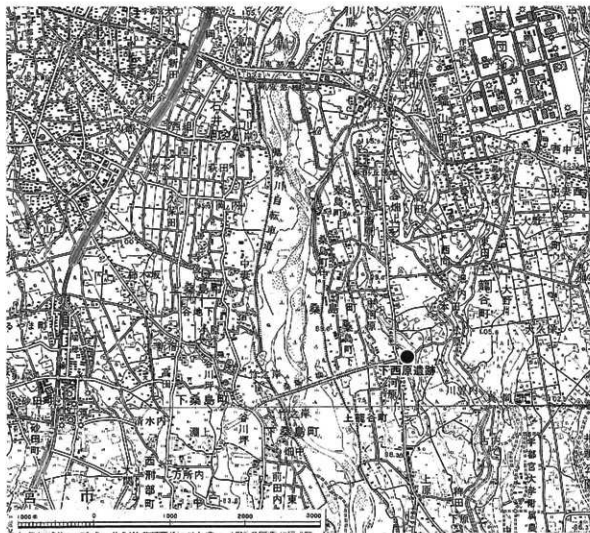
- 掘状況
- P L 4 SI17完掘状況、SI18及び周辺完掘状況、SI19完掘状況、SI19戸跡完掘状況、SI22土層断面及び遺物出土状況、SI22遺物出土状況、SI22完掘状況、SI22戸跡完掘状況
- P L 5 SI23土層断面及び遺物出土状況、SI24完掘状況、SI25・26遺物出土状況、SI25・26完掘状況、SI25戸跡完掘状況、SI26戸跡土層断面、SI27戸跡完掘状況、SI28完掘状況
- P L 6 SI29完掘状況、SI29戸跡完掘状況、SI30完掘状況、SI30戸跡完掘状況、SI33遺物出土状況（南から）、SI33遺物出土状況（中央西部）、SI33遺物出土状況（中央東部）、SI33完掘状況
- P L 7 SK01完掘状況、SK04遺物出土状況、SK04縄文土器出土状況、SK05完掘状況、SK06完掘状況、SK06縄文土器出土状況、SK08完掘状況、SK09完掘状況
- P L 8 SK11遺物出土状況、SK11完掘状況、SK13完掘状況、SK13縄文土器出土状況、SK24縄文土器出土状況、SK27完掘状況、SK32遺物出土状況、SK36遺物出土状況
- P L 9 SK38・41・42・50完掘状況、SK39完掘状況、SK40完掘状況、SK52縄文土器出土状況、SK56土層断面、SK57遺物出土状況、SK58・59・70完掘状況、SK71土層断面
- P L 10 SK73・74・75完掘状況、SK76・80・81完掘状況、SK78完掘状況、SK84完掘状況、SK86・88完掘状況、
- SK93・108完掘状況、SK99土層断面、SK107土層断面
- P L 11 SK113完掘状況、SK113縄文土器出土状況、SK114完掘状況、SK125土層断面、SK130～132完掘状況、SK130～134完掘状況、SK133完掘状況、SK135土層断面
- P L 12 SK138完掘状況、SK138縄文土器出土状況（1）、SK138縄文土器出土状況（2）、SK142完掘状況、拡張部調査区全景、SK150遺物出土状況、SK150完掘状況、SK151土層断面
- P L 13 SI01遺物出土状況、SI01完掘状況、SI02完掘状況、SI04完掘状況、SI08遺物出土状況、SI08完掘状況、SI09完掘状況、SI09カマド
- P L 14 SI10遺物出土状況、SI10完掘状況、SI10カマド、SI13遺物出土状況、SI13カマド、SI31完掘状況、SI32完掘状況、SI32カマド
- P L 15 出土縄文土器（1）
- P L 16 出土縄文土器（2）
- P L 17 出土縄文土器（3）
- P L 18 出土縄文土器（4）、出土石器（1）
- P L 19 出土石器（2）
- P L 20 出土石器（3）
- P L 21 出土石器（4）
- P L 22 出土土製耳飾、SI01出土土器、SI02出土土器
- P L 23 SI04出土土器、SI08出土土器、SI09出土土器
- P L 24 SI10出土土器、SI13出土土器、SI23出土土器、SI31出土土器、SD01出土土器、出土紡錘車、出土玉頸

I はじめに

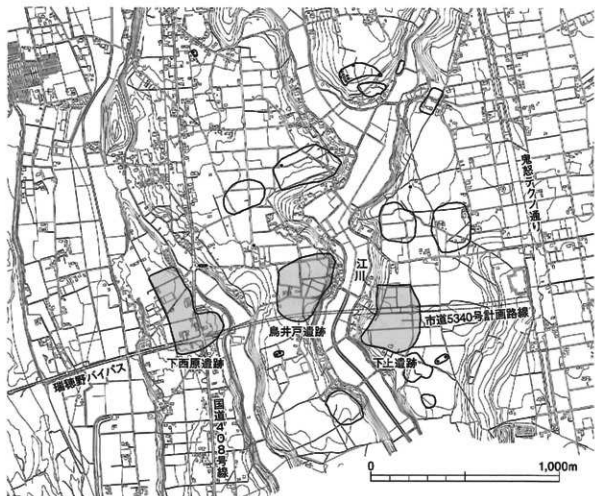
1 調査の経過

下西原遺跡は宇都宮市街地の南東約10km、宇都宮市上籠谷町3330他に所在する埋蔵文化財包蔵地（栃木県遺跡番号3376）である。今回の調査は、本遺跡内に計画された宇都宮市道5340号線（みずほの通り）の改良工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査である。

市道5340号線改良工事は、宇都宮環状道路から東進する瑞穂野バイパス（国道121号線）と鬼怒テクノ通り（国道408号線バイパス）を結び、市街地の交通渋滞緩和や物流の効率化等を図ろうとするものである。この計画路線上には西から下西原遺跡（栃木県遺跡番号3376）・烏井戸遺跡（栃木県遺跡番号3377）・下上遺跡（栃木県遺跡番号3378）の3遺跡の所在が確認され、工事により影響を受ける部分については順次記録保存のための発掘調査を実施することとなった。なお、各遺跡の発掘調査は、区間の工事工程に先行し、下西原遺跡が平成19年度、烏井戸遺跡が平成20年度、下上遺跡が平成22年度にそれぞれ着手している。



第1図 遺跡位置図



第2図 計画路線図と遺跡の配置

下西原遺跡の発掘調査は平成19年度に着手し、平成28年度まで2次に渡って実施しているが、年次ごとの概要は以下の通りである。

第1次調査 国道408号線と瑞穂野バイパスの交差点を起点とする区間で、計画される市道5340号線（みずほの通り）の西端に位置する調査区である。東西約100mの区間を対象地区としたが、実際の調査は中央に現道（生活道路）が存在したため、A（現道南側）・B（現道北側）の2地区に分けて実施することとした。調査面積はA地区が770㎡（南北20～10m・東西67m）、B地区が1010㎡（南北11m・東西92m）で、総面積は1780㎡である。調査は平成19年11月26日に開始し年度内の終了を目指したが、縄文時代と古墳時代の複合遺跡で遺構密度も高いことが判明したことから翌年度も継続し、平成20年7月2日まで約7か月間を要した。確認された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡11軒、土坑約90基および古墳時代の竪穴住居跡8軒等で、南東斜面部を除きほぼ全面に広がっていた。

第2次調査 現道部分及び北側に新設する側道に関わる調査区であり、調査面積は側道部分が675㎡（南北9m・東西75m）、現道部分が75㎡（南北3m・東西24m）で、合計750㎡である。なお、現道部分については配管や掘削等による攪乱が著しく、西側交差点寄りの一部のみの調査となったものである。調査期間は平成29年2月15日～3月28日の約1か月半で、第1次調査から新たに縄文時代の竪穴住居跡10軒、土坑約60基及び古墳時代の竪穴住居跡2軒が確認されている。特に

縄文時代の遺構群の広がりも顕著で、北西側に大規模な集落の展開が予想される。

2 遺跡の環境

宇都宮市は関東平野の北端に位置し、北西部には日光・足尾の山地帯から延びる丘陵地が連なり、中南部から東部にかけては関東ローム層の台地が発達する。これらは南流する河川によって区切られ、西から鹿沼台地・宝木台地・岡本台地・宝積寺台地などと呼ばれている。本遺跡が立地するのはこの内最も東に位置する宝積寺台地上で、鬼怒川の左岸に形成されたものである。さらにこの台地内部は小河川や開析谷による樹枝状の地形の発達が特徴的であるが、本遺跡も江川の支流である南原用水によって形成された細長い台地の東縁辺りに立地している。ちなみに本遺跡周辺は標高103m前後で、南原用水の通る低地面とは12～13mの比高差がみられる。

次に周辺の遺跡の分布状況であるが、最も多いのは本遺跡近辺の江川沿岸で、右岸・左岸ともに密集度が高い。これに続くのが東の刈沼川沿岸であるが、密集度はそれほど高くないようである。なお江川と刈沼川の間には台地が幅広く連なるが、中央部にはほとんど遺跡が確認されていないのが特徴的である。以下時代毎に遺跡の状況を概観してみたい。

旧石器時代 確認されているのは僅かに宇都宮大学農学部付属農場地内遺跡(38)1遺跡のみで、ナイフ形石器1点が出土している。

縄文時代 前代に比べると遺跡数は大きく増加し、特に江川の沿岸部には分布が多くみられる。本遺跡から南原用水・江川を挟んで東方約1kmに位置する下上遺跡(3)では、平成22年度の発掘調査により、後期の集落跡が発見され、竪穴住居跡4軒、敷石住居跡及び土坑多数が確認されている。

弥生時代 遺跡数は3カ所と非常に少なく、時期や内容なども不明な点が多いが、井頭遺跡(39)では昭和48年の発掘調査で後期の集落跡が発見され、竪穴住居跡4軒等が確認されている。

古墳時代 古代に次いで遺跡の多い時代である。またその分布をみると、縄文時代が江川沿岸中心であったのに対し、東の刈沼川沿岸にも拡大している様子が確認される。この内古墳そのものがみられるものは大杉神社古墳(8)はじめ7遺跡あるが、いずれも小規模な円墳又は円墳群である。また、本遺跡の東方約500mに位置する島井戸遺跡では平成20・22・27年度の発掘調査により、竪穴住居跡を中心とした集落跡が確認されている。

奈良平安時代 各時代を通じて遺跡数が多い。分布は古墳時代とほぼ同様で、多くが継続して発展的に営まれていた様子が伺われる。前述の井頭遺跡(39)では、奈良時代から平安時代前半にかけての集落跡が発見され、多数の竪穴住居跡とともに掘立柱建物跡もまもって確認されている。

中・近世 中世の遺跡は確認することはできないが、近世とみられる供養塚・高塚等が一定数散見される。

(参考文献)

栃木県教育委員会 1975 『井頭』

宇都宮市教育委員会 1983 『宇都宮の遺跡—宇都宮市埋蔵文化財等遺跡詳細分布確認調査報告書—』

宇都宮市教育委員会 2017 『宇都宮市遺跡分布地図』



第3図 周辺の遺跡分布図

第1表 周辺の道跡一覧表

No	道跡名	所在地 (代表地番)	種別	時代	内容その他
1	下西原道跡	宇都宮市上籠谷町3183	集落跡	縄文・奈良平安	2007・2017年発掘
2	鳥井戸道跡	宇都宮市上籠谷町1542-1	集落跡	縄文・奈良平安	2008・2010・2015年発掘
3	下上道跡	宇都宮市上籠谷町4598	集落跡	縄文・奈良平安	2009・2010年発掘
4	草倉坂下道跡	宇都宮市籠山町673	集落跡	縄文	
5	根木内道跡	宇都宮市籠山町617	集落跡	奈良平安	1996年確認調査
6	籠山東原道跡	宇都宮市籠山町146-3	集落跡	縄文・奈良平安	
7	臼内道跡	宇都宮市水室町1026-2	集落跡	縄文・奈良平安	
8	大杉神社古墳	宇都宮市水室町1671-3	古墳	古墳	円墳1基
9	家内神道跡	宇都宮市水室町1667-4	集落跡	弥生・奈良平安	
10	上籠谷西原庚申塚群	宇都宮市上籠谷町2035	塚	近世	塚2基
11	夕顔内道跡	宇都宮市上籠谷町1169-5	集落跡	縄文・奈良平安	
12	中極高塚群	宇都宮市上籠谷町1100	塚	近世	
13	東田南道跡	宇都宮市上籠谷町1050-1	集落跡	奈良平安	
14	東田道跡	宇都宮市上籠谷町1039	集落跡	縄文	
15	シドミ久保道跡	宇都宮市上籠谷町723-1	集落跡	縄文・古墳	
16	千波稲荷神社古墳	宇都宮市水室町2923-5	古墳	古墳	円墳1基
17	おひじり塚古墳	宇都宮市水室町1599-10	古墳	古墳	円墳1基
18	小松原高塚	宇都宮市水室町1596-1	塚	近世	塚13基
19	小松原道跡	宇都宮市水室町1587-7	集落跡	奈良平安	
20	中台道跡	宇都宮市水室町1137	集落跡	古墳	
21	矢畑道跡	宇都宮市水室町323-3	集落跡	古墳・奈良平安	
22	上籠谷笹塚古墳	宇都宮市上籠谷町4408	古墳	古墳	円墳1基
23	西向道跡	宇都宮市上籠谷町4445	集落跡	縄文・古墳・奈良平安	
24	番匠塚道跡	宇都宮市上籠谷町4461-1	集落跡	古墳・奈良平安	
25	坂下古墳	宇都宮市上籠谷町705-1	古墳	古墳	円墳1基
26	小泉庚申塚群	宇都宮市上籠谷町1194	塚	近世	
27	上籠谷和尚塚	宇都宮市上籠谷町4480	塚	近世	
28	鴛内ノ上道跡	宇都宮市上籠谷町4638	集落跡	縄文・奈良平安	
29	上籠谷坂下道跡	宇都宮市上籠谷町699-1	集落跡	古墳・奈良平安	
30	下原古墳群	宇都宮市上籠谷町1832	古墳群	古墳	円墳2基
31	下山上道跡	宇都宮市上籠谷町1923-4	集落跡	縄文・奈良平安	
32	対ノ内道跡	宇都宮市上籠谷町68	集落跡	奈良平安	
33	無宗古墳群	宇都宮市上籠谷町104	古墳群	古墳	円墳2基
34	川内道跡	宇都宮市上籠谷町62	集落跡	弥生	
35	星の宮道跡	宇都宮市水室町69-51	集落跡	古墳	
36	北原道跡	真岡市下籠谷町	集落跡	古墳・奈良平安	
37	塚原道跡	真岡市下籠谷町	集落跡	縄文	
38	宇大農場地内道跡	真岡市下籠谷町	集落跡	旧石・縄文・奈良平安	
39	井頭道跡	真岡市下籠谷町	集落跡	弥生・古墳・奈良平安	1974年発掘調査

II 遺構と遺物

今回下西原遺跡においては、第1次・2次合わせて3,555㎡(東西約100m・南北約50m)が発掘調査の対象となった。地形的には台地東縁辺部上の緩やかな傾斜地(標高差約2m)で、調査前の土地利用は宅地と畑が主であった。発掘調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡21軒・古墳時代の竪穴住居跡10軒及び150基を超える土坑等が重複して確認された。これらの遺構群は調査区南東の斜面寄りを除いてほぼ全面に密集して確認され、北西の台地中央部へと大規模に展開する様相を窺わせていた。

なお土坑については、土器等の遺物を伴わないものも多いが、埋土の状況や配置等から大部分を縄文時代のものとして取り扱った。

第1節 縄文時代

1 竪穴住居跡

S103 (第10図、第48図、第70図)

概要: 調査区南東部の緩斜面沿いで、炉のみで確認されたものであり、S107・SK12等と重複する。
規模・構造: 南北58cm、東西47cmの楕円形を鍋底状に掘りくぼめたもので、中心部の深さは16cm程である。
出土遺物: 遺物は少なく、炉周辺から出土した縄文土器片5点、石器1点を図示した。1～3は内湾する口縁部片である。いずれも沈線と隆帯による文様が展開するもので、3には渦巻文がみられる。4・5は底部片で、4には3条一組とみられる沈線文が重下する。なお2・3は胎土に金雲母片が含まれる。石器は石鏃1点である。

S105 (第12図、第49図、第72図)

概要: 調査区南西部の遺構群中で確認された竪穴住居跡であり、S101(古墳時代)及びSK40・44と重複する。
規模・形状: 南北5.34m、東西推定4.75mの楕円形で、主軸方位はほぼ南北である。
壁・壁溝: 壁はS101によって切られた南西部以外は良く残っており、確認面からの深さは南側で6cm、北側で22cm程である。壁溝は確認されていない。
床面: ほぼ平坦で、中央部炉周辺はよく踏み固められている。
柱穴: 竪穴内からは5個のビット(直径30～45cm)が、炉跡を囲むような位置で確認されている。この内P3とP4は深さ60～70cmと深く、主柱穴と考えられる。またP1は深さは20cmとやや浅いが、S101の北東コーナー部で切られた位置にビットを想定すれば、P3・P4と4本主柱を組んでいた可能性も考えられる。なお、この場合P2・P5は浅め(15～20cm)ではあるが位置的に棟持ち柱であったものと思われる。
覆土: 自然堆積で5層に分層され、下層には焼土・炭化物粒が含まれていた。
炉跡: 南北103cm、東西67cmの楕円形の地床炉で、床面中軸線上やや北寄りに位置している。底面は鍋底状で、中心部の深さは14cm程である。
出土遺物: 遺物は少なく、図示し得たのは縄文土器片4点と石器2点である。1～3は口縁部の破片である。1は口縁直下に隆帯が巡り、胴部にはR・Lの縄文が施されている。3は口縁端部が肥厚し、直下交互刻突文と刻目が巡らされている。4は沈線と隆帯による文様がみられる胴部片で、胎土に金雲母片が含まれる。石器は掻削器1点と磨製石斧1点である。

S106 (第14図、第50図、第73図)

概要：調査区の西端やや南寄りで確認された竪穴住居跡であり、西壁一部が調査区外となっている。また南壁部がSK51と重複する。規模・形状：南北4.73m、東西推定4.54mのほぼ円形の竪穴住居跡である。壁・壁溝：壁は全体的に残りがよく、確認面から15～22cmの深さで緩やかに立ち上がっている。壁溝は確認されていない。床面：ほぼ平坦で、中央部炉周辺はよく踏み固められている。

柱穴：竪穴内からは11個のピット（直径28～55cm）が確認されている。この内P2とP10は直径50cmを超え、深さも50～70cm前後と深く、主柱穴と考えられる。しかしこの二つに組む柱穴はみられず、全体にはP1～P5、P8～P11のように壁際に弧状に配された感じが強い。これらは直径30～40cm、深さ20～30cmのものが主体で、壁柱穴を構成していたものと思われる。覆土：自然堆積で7層に分層され、下層には焼土・炭化物粒が含まれていた。炉跡：後世の攪乱により西半分が破壊されているが、南北130cm、東西推定100cmの楕円形の地床炉とみられる。床面中心よりやや北寄りに位置し、底面は浅い鍋底状で深さ16cm程である。出土遺物：遺物は床面から覆土下層にかけて出土したもので、縄文土器12点、石器2点を図示した。1はキャリパー状の深鉢型土器で、口縁部には幅広い隆帯と沈線により渦巻栴円状の区画を配する。胴部は単節Lを施文後に沈線による直状・波状の懸垂文を交互に垂下させている。胎土には金雲母片が含まれる。2は頸部から口縁部にかけてゆるやかに外反する小型の深鉢型土器で、口唇部に山形の小突起を有する。単節LRを全体に施した後に、半裁竹管による2本一組の懸垂文が施文される。3～6は内湾する口縁部片で、いずれ隆帯と沈線による渦巻文が施され、4・6は地文が縦位の集合沈線である。7は無文帯を有する口縁部片で、胎土に金雲母片を含む。8・9は山形の小突起を有する口縁部片で、胴部には沈線による文様がみられる。10は波状口縁の破片で、やや肥厚した口唇部には沈線が施され、波頭部には小さな渦巻文が描かれる。11・12は底部片で、11には単節LRの縄文、12には条線文が施されている。石器は小型の磨製石斧1点と打製石斧1点である。

S107 (第10図)

概要：調査区南東部緩斜面沿いの遊積群中で炉跡と壁柱穴の一部のみが確認された住居跡で、SK06・12・16・30等多くの土坑と重複する。規模・形状：壁の立ち上がり方が確認できなかったため壁柱穴と炉跡からの推定となるが、直径4m程の円形と思われる。壁・壁溝：いずれも確認されていない。床面：部分的な確認であるが、ほぼ平坦で炉周辺はよく踏み固められている。柱穴：炉跡の西側で弧状に確認されたP1～P4は、いずれも直径30cm前後、深さ10cm程の小規模なものであり、配置的にも壁柱穴と考えられる。炉跡：南北122cm、東西116cmの楕円形の地床炉。深さは25cm程で底面は鍋底状に窺われている。なお南側の立ち上がり部からは長さ42cmの細長い川原石が確認されている。出土遺物：なし。

S111 (第17図、第51図、第75図)

概要：調査区の中央部から確認されたやや小型の竪穴住居跡で、SK58・59・67・68等と重複する。規模・形状：南北推定3.85m、東西3.84mの円形竪穴住居跡であるが、正円形ではなく南側がやや膨れた形状となっている。壁・壁溝：壁は土坑との重複や後世の攪乱等により断片的ではあ

るが、確認面から9～17cmの深さで緩やかに立ち上がっている。壁溝は確認されていない。
床面：後世の擾乱による損傷が激しく全容は不明であるが、炉周辺はよく踏み固められている。
柱穴：確認されていない。 **覆土**：自然堆積で5層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。 **炉跡**：南北67cm、東西48cmの楕円形の地床炉で、床面中心よりやや北寄りに位置している。底面は浅い鍋底状で深さ22cm程である。なお炉跡のすぐ西側の覆土下層からは長さ40～50cmの大きな川原石が出土している。 **出土遺物**：遺物は少なく、覆土中より出土した縄文土器5点、石器1点を図示した。1は内湾する口縁部片で幅広い沈線で区画された中に集合沈線が施される。胎土に金雲母片が含まれる。2は波状口縁の破片、3は口唇直下に円形刺突文が施される。4は深鉢の底部で、単節RLが施文される。5は有孔鏝付土器の口縁部片で、内外とも丁寧に磨かれている。石器は石皿1点である。

S112 (第18図、第52図、第77図)

概要：調査区のほぼ中央から確認された竪穴住居跡で、SD01・SK106・井戸等と重複する。なお北側の一部が調査区外となっている。 **規模・形状**：南北推定6.55m、東西6.54mのほぼ正円形の竪穴住居跡である。 **壁・壁溝**：壁は全体にやや浅めであるが、確認面から4～9cmの深さで緩やかに立ち上がっている。壁溝は確認されていない。 **床面**：全体にはほぼ平坦に仕上げられているが、北東から南西にかけて緩やかな傾斜（比高差7～8cm）で下っている。中央部炉跡周辺はよく踏み固められている。 **柱穴**：竪穴内からは大小22個のピットが確認されている。この内P1・P3・P4・P5・P9などは直径40cm前後で、深さも30～80cmと深く、主柱穴と考えられるが、配置的には組み合わせを求めがたいものである。一方壁の直下から確認されているP13～P22の小型ピット（直径20～30cm・深さ12～30cm）は壁柱穴とみられ、ほぼ等間隔（1.5～1.8m）に配されている。 **覆土**：自然堆積で13層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。 **炉跡**：南北88cm、東西71cmの楕円形の地床炉で、床面中心よりやや西寄りに位置している。底面は浅い鍋底状で深さ23cm程である。 **出土遺物**：遺物はすべて覆土下層からの出土で、縄文土器5点、石器8点を図示した。1はキャリパー状深鉢型土器の口頸部片である。口縁部には隆帯と沈線による渦巻文と楕円形区画文が展開し、頸部以下には2条の沈線による懸垂文が施され、その間は地文の縄文が磨り消される。2は口縁部が大きく外反する深鉢型土器片で、単節RLの縄文を地文とし、磨消を伴う懸垂文が施文される。3は沈線による区画文が施された口縁部片である。4・5は口縁部がくの字に外反する浅鉢型土器である。いずれも無紋であるが、4は口縁部外面が赤彩されている。石器は石鏃5点、石匙1点、磨製石斧2点である。

S114 (第19図、第53図)

概要：調査区の北西部から確認された竪穴住居跡で、南部の一面は古墳時代のS113によって切られている。 **規模・形状**：南北推定4.80m、東西4.10mの楕円形竪穴住居跡で、主軸方向はN-34°-Wである。 **壁・壁溝**：壁は全体に残りがよく、確認面から12～18cmの深さでほぼ垂直に立ち上がっている。壁溝は確認されていない。 **床面**：全体にはほぼ平坦で、中央部炉跡周辺はよく踏み固められている。 **柱穴**：竪穴内からは12個のピットが確認されている。この内P1は直径42cm・深さ86cmで主柱穴と思われるが、これに組むようなものはみられない。P3～P12は壁

からやや内側であるものの竪柱穴とみられる。全体には小型で浅いもの（直径20～30cm・深さ10～20cm）が中心であるが、P4・P11・P12等は40～60cmの深さがみられる。 覆土：自然堆積で7層に分層され、下層には焼土粒・炭化物粒等の混入がみられた。 炉跡：南北71cm、東西62cmの楕円形の地床炉で、床面中心よりやや南寄りに位置している。底面は浅い鍋底状で深さ17cm程である。 出土遺物：遺物は覆土下層から中層にかけての出土で、図示し得たのは縄文土器6点である。1は浅鉢型土器で、口唇部の平坦部には沈線による渦巻状のモチーフが施文される。2・3は口縁部の破片で、3は口唇直下に円形刺突文が施される。4は深鉢形土器の胴部片で、沈線による懸垂文が施されている。5は器台形土器で、器受部が僅かにくぼみ、脚部には円孔が穿たれている。

S115（第19図、第54図、第79図）

概要：調査区の北西部から確認された竪穴住居跡で、東側は古墳時代のSI13によって切られ、南部は調査区外となっている。 規模・形状：残存する北東側の形状及び炉跡の位置等から、直径5.0m程の円形の竪穴住居跡と考えられる。 壁・壁溝：残存する北西側の壁は残りがよく、確認面から8～17cmの深さでほぼ垂直に立ち上がっている。壁溝は確認されていない。 床面：全体にほぼ平坦で、中央部炉跡周辺はよく踏み固められている。 柱穴：残存する竪穴内からは11個のピットが確認されている。この内P1・P2・P3（直径40cm前後・深さ40～50cm）等は主柱穴と思われるが、対応するものが不明である。P4も直径30cm・深さ40cmであるが、炉跡に付随する柱穴とみられる。その他は小規模なもの（直径20～30cm・深さ10～30cm）ばかりであるが、P10・P11は位置的に竪柱穴とみられる。 覆土：自然堆積。 炉跡：南北66cm・東西94cm・深さ18cmの楕円形の地床炉状であるが、北西壁部に残された川原石（長さ30cm）や竪穴内に散乱していた川原石（長さ50～60cm）等の状況から、石囲炉であったものと思われる。 出土遺物：遺物はほとんどが覆土下層からの出土で、縄文土器6点、石器2点を図示した。1は深鉢型土器の口縁部で、前面に単節R.Lの縄文が縦位に施される。2・3は内湾する口縁部片で、いずれも隆帯と沈線による文様がみられる。4はくの字に内傾する口縁部片で、口縁直下に交互刺突文が2段に施文され、胴部には集合沈線がみられる。5・6は底部片で、いずれも沈線による懸垂文がみられる。石器は、搦副器1点と打製石斧1点である。

S116（第19図、第55図）

概要：調査区の北西部から確認された竪穴住居跡で、北西部はSI14と重複し、西側は古墳時代のSI13によって切られている。 規模・形状：残存する炉跡や竪柱穴等の位置関係から、直径5.2m程の円形の竪穴住居跡と考えられる。 壁・壁溝：壁、壁溝ともに確認されていない。 床面：遺存状況は部分的であるが、ほぼ平坦で炉跡周辺はよく踏み固められている。 柱穴：推定される竪穴範囲内からは13個のピットが確認されている。この内P1～P8（直径20～40cm・深さ20～50cm）については間隔は不揃いであるもののほぼ弧状に配列することから、本住居跡の竪柱穴と考えられる。またP10・P13（直径30～45cm・深さ45～55cm）等は位置的にも主柱穴と考えられるが、対応するものは不明である。 覆土：ほとんど確認されない。 炉跡：南北推定65cm・東西87cmの楕円形で、東端に2個の川原石（長さ30cm前後）が残されていたことから石囲炉であったものと思われる。底面は浅い鍋底状で深さ17cm程である。 出土遺物：遺物は縄文

土器1点で、炉近くの床面から出土したものである。深鉢形土器の胴部で、単節R Lの地文とし、沈線による磨消を伴う懸垂文と波状文が交互に施文される。

S117 (第47図、第56図)

概要：調査区の北西部から確認された竪穴住居跡で、S118等と重複している。

規模・形状：残存する炉跡や壁柱穴等の位置関係から、直径5.5m程の円形の竪穴住居跡と考えられる。壁・壁溝：壁、壁溝ともに確認されていない。床面：踏み固められたような床面は確認されていないが、平坦だったものと思われる。柱穴：推定される竪穴範囲内からは18個のビットが確認されている。この内ほぼ円形に配列するP1～P8(直径30～40cm・深さ10～40cm)が、本住居跡の壁柱穴と考えたものである。またP9・P14・P16はいずれも直径40～50cm・深さ50cm前後で、位置的にも主柱穴とみられる。これらに対応するP18(直径37cm・深さ22cm)はやや小ぶりではあるが、4本主柱であったものと思われる。覆土：ほとんど確認されない。

炉跡：南北58cm・東西65cmの楕円形の地床炉状で、床面のほぼ中心に位置したものと思われる。底面は浅い鍋底状で深さ16cm程である。出土遺物：遺物は炉近くの床面から出土した縄文土器1点である。口縁部が内湾気味に開く鉢形土器で、内外とも磨きで仕上げられている。

S118 (第47図)

概要：調査区の北西部から確認された竪穴住居跡で、S117等と重複している。規模・形状：残存する炉跡や壁柱穴等の位置関係から、直径5.5m程の円形の竪穴住居跡と考えられる。壁・壁溝：壁、壁溝ともに確認されていない。床面：面の確認は困難であったが、全体に平坦で炉跡周辺は踏み固められていたと思われる。柱穴：推定される竪穴範囲内からは9個のビットが確認されている。この内P1～P6(直径20～40cm・深さ20～50cm)については間隔は不揃いであるもののほぼ弧状に配列することから、本住居跡の壁柱穴と考えられる。なお炉跡周辺で確認されたP7～P9(直径40cm前後・深さ15～20cm)はいずれも浅く、主柱穴とは考えられない。覆土：ほとんど確認されない。炉跡：炉1は南北64cm・東西50cmの楕円形の地床炉状で、床面のほぼ中心に位置したものと思われる。底面は浅い鍋底状で深さ15cm程である。炉2は南北56cm・東西67cmの石垣炉とみられ、炉1の南約1.5mに位置する。掘り込みは15cm程で、東から南の縁部には数個の川原石(10～15cm)が残されている。出土遺物：なし。

S122 (第23図、第81図)

概要：調査区の中央部北よりから確認された竪穴住居跡で、S127及び複数の土坑と重複する。北側の一部が調査区外となっている。規模・形状：南北推定5.45m、東西5.42mのほぼ正円形の竪穴住居跡である。壁・壁溝：壁は全体に残りがよく、確認面から7～14cmの深さでほぼ垂直に立ち上がっている。壁溝は幅15～25cm・深さ5～7cmのものが、北側の一部を除きほぼ全周していたものとみられる。床面：北から南に向かって5cmほど傾斜するが、全体にほぼ平坦で、中央部炉跡周辺はよく踏み固められている。柱穴：竪穴内からは大小合わせて17個のビットが確認されている。この内主柱穴と考えられるのはP1～P4(直径40～50cm前後・深さ35～55cm)の4本で、炉跡を囲むようにきれいに配置されている。なお、やや小ぶりながらP5・P6(直

径30～35cm・深さ30～60cm)も補助的に組み合わせて6本主柱であった可能性も考えられる。またP11～P17(直径30～50cm・深さ20～70cm)は壁柱穴と思われる。覆土:自然堆積で6層に分層され、下層には炭化物や焼土電が確認された。炉跡:南北115cm・東西87cm・深さ18cmの楕円形の石囲炉で、竪穴のほぼ中心に位置している。石材は大小様々な川原石(10～40cm)で、西側は組まれた状態がよく残されている。なお北側の奥部には石皿が転用されている。また掘り込みは鍋底状で、深は20cm程である。出土遺物:出土遺物は少なく、覆土下層から出土した石器3点を図示した。1は打製石斧、2は磨石、3は石皿である。

S124 (第21図、第84図)

概要:調査区の北西部から確認された竪穴住居跡で、SK92-97等と重複する。北半分が調査区外となっている。規模・形状:南北1.55m以上、東西3.17mの円形の竪穴住居跡とみられる。壁・壁溝:壁は全体に残りがよく、確認面から6～9cmの深さで緩やかに立ち上がっている。壁溝は認められない。床面:全体にほぼ平坦で、中央部はよく踏み固められている。柱穴:竪穴に関わるピットは僅かに2本(P1・P2)である。いずれも小ぶり(直径20cm前後・深さ15～20cm)で、主柱穴の可能性は低いものである。なおP3(直径26cm・深さ27cm)は壁柱穴と思われるが、対応するものが他にみられない。覆土:自然堆積で6層に分層され、下層には焼土粒が多く含まれていた。炉跡:今回調査した竪穴範囲内から炉跡は確認されていないが、調査区外のやや北寄りに存在する可能性は高い。なお、屋外ではあるが本竪穴住居跡のすぐ南1m程の地点から地床炉が確認されている。南北82cm・東西80cmの不整形円形で、掘り込みの深さは15cm程である。出土遺物:遺物は少なく、図示し得たのは覆土下層から出土した石鏃1点である。

S125 (第23図、第85図)

概要:調査区の中央部北よりから確認された竪穴住居跡で、SI26に切られ、複数の土坑と重複する。規模・形状:南北推定5.1m前後、東西5.23mのほぼ正円形の竪穴住居跡とみられる。壁・壁溝:壁は全体に残りが悪く、確認面から2～7cmの深さで緩やかに立ち上がっている。壁溝は認められない。床面:全体にほぼ平坦で、中央部炉跡周辺はよく踏み固められている。柱穴:竪穴内からは15個のピットが確認されている。この内P1・P2(直径30～40cm・深さ25～30cm)は主柱穴の可能性も考えられるが、その他はいずれも直径20～30cm・深さ10～20cm前後と小ぶりで、対応するものはみられない。なお、南西壁沿いのP11～P14は壁柱穴の可能性が考えられる。覆土:自然堆積で5層に分層され、下層には炭化物や小ロームブロックが含まれていた。炉跡:長軸78cm・短軸65cmの長方形の石囲炉で、竪穴のほぼ中心に位置している。石材は大小様々な川原石(15～40cm)で、小口側には35～40cmの大きなものを1個ずつ使用し、長辺部は複数の石で組まれている。主軸方位はN-59°Eで、掘り込みの深さは20cm程である。出土遺物:遺物は少なく、図示し得たのは覆土下層から出土した石鏃1点である。

S126 (第23図、第86図)

概要:調査区の中央部北よりから確認された竪穴住居跡で、SI25を切り、複数の土坑と重複する。規模・形状:南北3.38m前後、東西4.83mのほぼ東西方向に長い不整形楕円形の竪穴住居跡である。

壁・壁溝：壁は全体に残りが悪く、確認面から4～8cmの深さで緩やかに立ち上がっている。壁溝は認められない。床面：大型の土坑SK116と重複しているため南東部は不明瞭であるが、他はほぼ平坦で炉跡周辺はよく踏み固められている。柱穴：竪穴内の壁近辺からは7個のビット(P1～P7)が確認されている。これらはいずれも直径20～30cm弱・深さ12～35cmと小ぶりであり、竪柱穴と考えられる。主柱穴と思われるものは確認されていない。覆土：自然堆積で6層に分層され、下層には小ロームブロックが含まれる。炉跡：長軸66cm・短軸60cmの長方形の石囲炉で、竪穴の中心からやや北寄りに位置している。石材は大ぶりの川原石4個で、長軸側には長さ50cm近いもの、短軸側には長さ40cm程のものが使用されている。なお主軸方位はN-32°-Eで、掘り込みの深さは20cm弱である。出土遺物：遺物は少なく、図示したのは打製石斧1点と石皿1点である。

S127 (第23図、第57図)

概要：調査区の中央部北よりから確認された竪穴住居跡で、SI22・SK113等と重複する。なお北半分は調査区外となっている。規模・形状：南北2.0m以上、東西推定5.0mの円形もしくは楕円形の竪穴住居跡と思われる。壁・壁溝：残された壁は南側の一部であるが、確認面から4～5cmの深さで緩やかに立ち上がっている。壁溝は認められない。床面：確認できた床面は僅かであるが、ほぼ平坦で炉跡周辺はよく踏み固められている。柱穴：竪穴内から確認されたビットはP1・P2の2個である。いずれも小ぶり(直径20cm前後・深さ12～19cm)で、位置的にも竪柱穴と考えられる。なお、SI22内で確認されたP7・P8はこの延長上の竪柱穴の可能性が高い。覆土：遺構面が残く、ほとんど確認されていない。炉跡：長軸62cm・短軸60cmのほぼ円形の石囲炉で、大小の川原石(長さ15～35cm)が使用されている。掘り込みの深さは17cm程である。出土遺物：遺物は少なく、炉跡内から確認された縄文土器1点を図示した。深鉢型土器の胴底部片で、単節RLを施した後、沈線による懸垂文を施し、間を磨り消している。

S128 (第26図)

概要：調査区の西端部近くから確認された竪穴住居跡で、複数の土坑と重複する。なお南部は調査区外となっている。規模・形状：南北2.8m以上、東西4.04mのほぼ円形の竪穴住居跡と思われる。壁・壁溝：壁は比較的残りがよく、確認面から5～7cmの深さで緩やかに立ち上がっている。壁溝は西側のみに確認され、幅15～20cm・深さ9～10cmで50～80cm程度に塗切れている。床面：全体にほぼ平坦で炉跡周辺はよく踏み固められている。柱穴：竪穴内からは10個のビットが確認されている。このうちP1～P3(直径35～40cm・深さ30～60cm)は主柱穴と思われるものであるが、対応関係が不明瞭である。他はいずれも直径20～30cm・深さ10～20cmと小ぶりであるが、P8～P10は竪柱穴とも考えられる。覆土：自然堆積で6層に分層され、下層には小ロームブロックが含まれていた。炉跡：長軸60cm・短軸43cmの楕円形の石囲炉で、大小の川原石(長さ10～25cm)が使用されている。掘り込みの深さは15cm程で、主軸方向はN-2°-Wである。出土遺物：なし。

S129 (第22図)

概要：調査区の西端部近くから確認された竪穴住居跡で、複数の土坑と重複するとともに古墳時代の竪穴住居跡(S102・23)が隣接する。なお南部は調査区外となっている。規模・形状：南北推定2.4m、東西推定3.6mのほぼ楕円形の竪穴住居跡と思われる。壁・壁溝：壁は確認されていないが、西側外周部を中心に短い壁溝が3カ所確認されている。いずれも長さ50～60cm・幅20cm前後で、深さは5～9cmと浅めである。床面：全体にほぼ平坦で炉跡周辺はよく踏み固められている。柱穴：竪穴内からは11個のピットが確認されている。このうちP1～P4(直径28～45cm・深さ7～17cm)は位置的に主柱穴の可能性がみられるが、いずれも非常に浅めである。またP7～P11(直径20～30cm・深さ7～15cm)は、ほぼ壁溝の配列上にあり壁柱穴と考えられる。なお、P5・6はともに10cmに満たない深さである。覆土：ほとんど確認されていない。炉跡：長軸63cm・短軸55cmの楕円形の石囲炉で、大小の川原石(長さ15～35cm)が使用されている。掘り込みの深さは12cm程で、主軸方向はN-31°-Wである。出土遺物：なし。

S130 (第27図、第83図)

概要：調査区の北東部から確認された竪穴住居跡で、SK137・139・149等の土坑と重複する。規模・形状：南北3.72m、東西推定4mでやや東西方向に長い楕円形の竪穴住居跡である。壁・壁溝：壁は全体的に残りがよく、特に西側では確認面から14～15cmの深さでほぼ垂直に立ち上がっている。壁溝は確認されていない。床面：全体にほぼ平坦で炉跡周辺はよく踏み固められている。柱穴：竪穴内からは8個のピットが確認されている。このうちP1～P3(直径28～37cm・深さ26～34cm)は主柱穴と思われるものであるが、全体に東側寄りに対応関係が不明瞭である。他はいずれも深さ8～20cmと小ぶりであるが、P4以外は壁柱穴とも考えられる。覆土：自然堆積で5層に分層され、全体に焼土粒が多く含まれていた。炉跡：長軸118cm・短軸96cmの楕円形の石囲炉で、中央よりやや西寄りに位置している。石組は西側部分のみの残存であるが、大型の川原石(長さ30～40cm)を内側に配し、外側を小型の川原石(10～15cm)で補強した様子が窺われる。掘り込みの深さは20cm程で、主軸方向はN-58°-Eである。出土遺物：遺物は少なく、下層から出土した石器2点を図示した。いずれも磨石である。

S133 (第31図)

概要：調査区の北東部から確認された竪穴住居跡で、SK144・145等の土坑と重複し、北部は調査区外となっている。縄文時代の竪穴住居跡としては最も東寄りで東側谷部に面している。規模・形状：南北5m以上、東西4.38mで、南北方向に長い楕円形の竪穴住居跡と思われる。壁・壁溝：壁は全体的に残りがよく、特に西側では確認面から40cm前後の深さでほぼ垂直に立ち上がっている。壁溝は確認されていない。床面：全体にほぼ平坦で炉跡周辺はよく踏み固められている。柱穴：竪穴内からは10個のピットが確認されている。このうちP1～P4(直径30～40cm・深さ20～50cm)が主柱穴と思われるが、SK145と重複したP5も床面からの深さは70cmを超えることから主柱穴の一つと思われる。他はいずれも深さ6～17cmと浅めである。覆土：自然堆積で2層に分層され、下層には焼土粒・炭化物が含まれていた。炉跡：長軸55cm・短軸38cmの楕円形の地床炉で、ほぼ中央に位置していると思われる。底面は浅い鍋底状で深さは15cm程である。出土遺物：なし。

S134 (第30図)

概要：調査区の中央部や北よりで確認された竪穴住居跡で、SK135・136等の土坑と重複している。また北部は攪乱により失われ南部は調査区外となっている。規模・形状：南北1.2m以上、東西2.8mで、恐らく円形もしくは楕円形の竪穴住居跡と思われる。壁・壁溝：残存している壁は西側の一部であるが、確認面から10cm程の深さで緩やかに立ち上がっている。壁溝は確認されていない。床面：一部分ではあるが、ほぼ平坦に仕上げられている。柱穴：やや西寄りの位置から2個のビット（P1・P2）が確認されているが、いずれも深さ10cm前後の浅いものである。覆土：自然堆積で5層に分層され、全体に焼土粒・炭化物が含まれていた。炉跡：西壁寄りの位置から長軸56cm・短軸52cm・深さ5cmの不整形の地床炉とみられるものが確認されているが、中心的な炉は他に他にあるものと思われる。出土遺物：なし。

2 土坑

今回の調査区内においては、縄文時代と考えられる土坑が140基ほど確認されているが、ここでは数紙の都合上、記述は遺存状態が良好であったものや出土遺物が多かったものなどにとどめ、他は規模・形状等を一覧表（第36表）にまとめることとした。

SK04 (第10図)

調査区南部中央の土坑密集地から確認されたもので、SK02・03等の土坑と重複する。東半分は攪乱で消滅しているが、開口部は直径218cm、底面は直径216cmの円形と思われる、確認面からの深さは52cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。また底面の北西部壁寄りには、直径40cm・深さ21cmの小ビットがみられる。

出土遺物は縄文土器4点（第58図4～7）である。4は底面のほぼ中央から出土したキャリパー状の深鉢形土器で、口縁部には沈線による重弧文が施される。胴部は単筋RLを施文後、沈線による頸部区画と波状・直状の懸垂文が施される。5は深鉢の底部で、単筋LR施文後に3本一組の沈線による懸垂文を描き、内部を磨り消している。6は渦巻文をモチーフとした突起状の破片で、口縁部に貼付されたものとみられる。7は内湾する口縁部片で、幅広い隆帯と沈線による渦巻文・楕円区画文が施される。

SK06 (第10図)

調査区南部中央、SK04のすぐ西隣で確認された土坑で、SI07・SK16等と重複する。開口部は218×215cm、底面は262×253cmのほぼ円形で、確認面からの深さは75cmを測る。壁はオーバーハングして立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は自然堆積で10層ほどに分層されたが、下層には小ロームブロック・ローム粒が多く含まれていた。

出土遺物は縄文土器6点（第58図13～18）である。13は胴部中程に膨らみを有する深鉢形土器で、短く直立気味に屈曲する口縁部には穿孔された山形状把手が一对配される。口唇直下には交互刺突文が配され、把手上には細かなキザミを伴う隆帯と沈線による渦巻文が施される。胴部上

半は単節 R L の縄文施文後、沈線による渦巻をモチーフにした重弧文が描かれる。14は眼鏡状把手の破片である。15は直立する口縁部片で、キザミを有する隆帯と沈線で区画された内部に集合沈線が施される。18は浅鉢型土器の底部、19は深鉢形土器の底部である。

SK11 (第10図)

調査区南部中央の土坑密集地で確認されたもので、SK09と重複する。開口部は305×299cm、底面は288×277cmの大規模な円形土坑であるが、確認面からの深さは29cmとやや浅い。残存する壁はほぼ垂直に立ち上がっているが、上部の構造は削平のため不明である。底面はほぼ平坦で、南東壁寄りに直径61cm・深さ67cmの小ピットが穿たれている。

出土遺物は縄文土器 8 点 (第59図33～40) である。33は浅鉢形土器で、口縁部内面に線を有する。胴部に焼成後の穿孔が2か所認められる。34は波状口縁の突起部の破片で、沈線と隆帯によるクラク文が施されている。胎土には金雲母片を多く含んでいる。36は深鉢型土器の口縁部で、単節 R L 施文後に隆帯貼付による渦巻文モチーフの区画文が描かれる。37は深鉢形土器の口縁部で、口唇に中空突起を有する。2本一組の隆帯で口縁部文線帯を区画し、内部に縦位の沈線列が施される。胎土には金雲母片を含んでいる。38は中空把手の破片である。40は深鉢形土器の胴部で、単節 R L の縄文施文後、3本一組の沈線によりクラク文・渦巻文・剣先文等が描かれる。

SK13 (第9図)

調査区南東部の土坑密集区で確認されたもので、SI02・SK22等と重複する。開口部は165×162cm、底面は194×191cmの円形で、確認面からの深さは75cmを測る。壁はほぼ平坦な底面から緩やかにオーバーハングして立ち上がっている。

遺物は縄文土器 3 点 (第59図43～45) で、いずれも覆土下層からの出土である。43はキャリパー状の深鉢形土器で、高さ60.5cm・口径50.8cmの大型の完形品である。口縁部は幅広い隆帯と沈線により渦巻楕円状の区画を施文後に内部に単節 L R を施す。胴部は単節 L R を施文後、2本一組の沈線による頸部区画、3本一組の沈線による懸垂文・棘状文を施し、沈線間は磨り消される。44は内湾する口縁部片、45は底部片で沈線による懸垂文がみられる。

SK16 (第10図)

調査区南部中央の土坑密集地で確認されたもので、SK06・10等の土坑と重複する。南側の一部が調査区外であるが、開口部は152×124cm、底面は220×195cmの楕円形で、確認面からの深さは92cmを測る。壁はほぼ平坦な底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、袋状を形成している。

出土遺物は縄文土器 3 点 (第60図46～48) と石器 1 点 (第89図1) である。46は深鉢形土器の口縁部から胴部上半にかけての破片である。口縁部は2本一組の隆帯による渦巻楕円状区画が施され、胴部は沈線による懸垂文が施される。47は波状口縁の破片で、波頂部には隆帯と沈線による渦巻文が施される。48は深鉢形土器の胴部下半で、単節 R L 施文後に沈線による懸垂文が施される。石器は磨製石斧 1 点である。

SK24 (第9図)

調査区南東部の土坑密集地で確認されたもので、SI02・SK14と重複する。北側の一部が調査区外であるが、開口部は直径159cm、底面は直径222cmの円形で、確認面からの深さは77cmを測る。壁は特に西側で大きくオーバーハングして立ち上がっている。底面はほぼ平坦で、南東壁寄りに直径52cm・深さ35cmの小ピットがみられる。

出土遺物は縄文土器3点(第60図49～51)である。49は深鉢形土器の口縁部片で、幅広の隆帯と沈線による渦巻楕円状区画が施文され、50の胴部片・51の底部片は49と同一個体とみられ、胴部は単節RL施文後に3本一組の沈線による懸垂文が施される。

SK27 (第11図)

調査区南部の中央付近に位置し、東側がSI04に切られている。開口部は直径110cm、底面は232×218のほぼ円形で、確認面からの深さは60cmを測る。壁は大きくオーバーハングして立ち上がり、袋状を形成している。底面はほぼ平坦で、西壁寄りに直径78cm・深さ58cmの小ピットがみられる。

出土遺物は縄文土器3点(第60図59～61)である。59はくの字に外反する口縁部片で、胴上部には櫛歯状工具による糸線文を施した後、沈線による波状文がみられる。60は深鉢形土器の口縁部から胴上半の破片で、内湾気味に開く胴部から口縁部がくの字に外反する。口縁部には隆帯によるS字状モチーフが施文され、胴部も隆帯で区画される。61は中空把手を有する口縁部片で、ここから派生する隆帯による楕円状区画文が巡る。地文は単節RLで、胎土には金雲母片が多く含まれている。

SK32 (第9図)

調査区南東部の土坑密集区で確認されたもので、SK33・37等の土坑と重複する。開口部は156×154cm、底面は218×214cmのほぼ円形で、確認面からの深さは93cmを測る。壁は西側を中心にオーバーハングして立ち上がっている。底面はほぼ平坦で、西壁寄りに直径43cm・深さ35cmと直径38cm・深さ19cmの2つの小ピット、また東壁寄りに直径58cm・深さ37cmの小ピットがみられる。

出土遺物は縄文土器11点(第61図74～84)と石器2点(第89図8・9)である。74はキャリパー状深鉢形土器の口縁部片で、単節RL施文後に口縁部には隆帯と沈線による渦巻文、また胴部には沈線による懸垂文が施される。75～77・80は内湾する口縁部片で、いずれも隆帯と沈線により渦巻文等が施される。82は深鉢形土器の口縁部片で、口唇直下に隆帯を巡らし、胴部には沈線による渦巻文モチーフが施される。83は有孔鈿付土器の破片である。84は胎土や色調から83の口縁部片とみられ、内外に赤彩がみられる。石器は打製石斧1点と凹石1点である。

SK36 (第9図)

調査区南東部の土坑密集地で確認されたものであるが、重複する遺構はみられない。開口部は131×128cm、底面は113×112cmの円形で、確認面からの深さは26cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面南壁寄りに直径28cm・深さ18cmの小ピットがみられる。

SK38 (第5図)

調査区南東部の土坑密集地で確認されたもので、SI01・SK41等と重複する。上部をSI01によつ

て削平されているが、開口部は148×141cm、底面は267×220cmのほぼ円形で、確認面からの深さは54cmを測る。壁は大きくオーバーハングして立ち上がり、底面には中央から東側にかけて、直径58cm・深さ9cm、直径49cm・深さ29cm、直径46cm・深さ14cmの計3個の小ピットがみられる。

出土遺物は縄文土器2点(第62図92・93)である。92は波状口縁の波頂部片で、隆帯による渦巻文が施され、外面は赤彩される。93は深鉢の口縁部片で、幅広い隆帯と沈線による渦巻文がみられる。

SK52 (第12図)

調査区南東部の土坑密集地で確認されたもので、SI05・SK44等と重複する。開口部は134×128cm、底面は158×155cmのほぼ円形で、確認面からの深さは68cmを測る。壁は北側だけ若干オーバーハングするが、他はほぼ垂直に立ち上がっている。底面はほぼ平坦で、オーバーハングする北壁寄りに直径40cm・深さ28cmと直径37cm・深さ37cmの2つの小ピットがみられる。

出土遺物は壁寄りの底面から出土した縄文土器1点(第62図103)である。キャリバー状の深鉢形土器で、口縁は緩やかな波状を呈する。波頂部はいずれも欠損するが、それぞれ円孔が貫通したものとみられる。口縁部文線隙は隆帯と沈線による渦巻文楕円区画が施される。胴部は磨り消しを伴う沈線による懸垂文が施され、一部にH字状の磨り消し縄文がみられる。地文は単節LRの縄文である。

SK107 (第22図)

調査区東部の中央付近で確認されたもので、SI29とぎりぎり重複する。北側約半分が調査区外であるが、開口部は直径121cm、底面は直径136cmのほぼ円形とみられ、確認面からの深さは66cmを測る。壁は底面から20cm程の高さまでは軽くオーバーハングするがそれ以上はほぼ垂直に立ち上がっている。底面はほぼ平坦であるが、中央部が心持下がっている。覆土は自然堆積で、13層に分層され、最下層にはロームブロックの混入が見られた。

出土遺物は縄文土器2点(第63図137・138)と石器1点(第90図18)である。137は深鉢形土器の胴部片で、縄文施文後に半截竹管による直状・波状の懸垂文が施される。138は深鉢の底部で、中程に横位の沈線文がみられる。石器は石錐1点である。

SK113 (第23図)

調査区北部の遺構密集地で確認された土坑で、SI25・27・SK120等と重複する。北側の一部が調査区外となっているが、開口部は146cm以上×118cmの楕円形、底面は直径228cmのほぼ円形とみられ、確認面からの深さは89cmを測る。壁はほぼ平坦な底面から大きくオーバーハングして立ち上がり、袋状を形成している。覆土は自然堆積で9層に分層され、下層には大小のロームブロックの混入が多く見られた。

出土遺物は縄文土器4点(第63・64図139～142)である。139・140はキャリバー状深鉢形土器の口縁部から胴部上半にかけての破片である。139は口縁部には隆帯と沈線によるクランク文が施され、地文は単節LRの縄文である。140は単節RL施文後に、口縁部に隆帯と沈線による渦巻文楕円区画が施される。141は波状口縁の深鉢形土器で、渦巻モチーフ状の突起を有する。胴部は単節LR施文後に、粗く蛇行する沈線による懸垂文が施される。

SK114 (第23図)

調査区北部の遺構密集区で確認された土坑で、SI25・26等と重複する。開口部は127×118cm、底面は211×205cmのほぼ円形で、確認面からの深さは138cmを測る。壁は底面からオーバーハングして立ち上がり、きれいな袋状を形成している。底面はほぼ平坦で、南西壁寄りに口径65×57cm、深さ47cmの小ピットがみられる。覆土は自然堆積で8層に分層され、底面近くにはロームブロックを多く含む層が見られた。

SK116 (第23図)

調査区北部の遺構密集区で確認された土坑で、SI26・SK115と重複する。開口部は262×184cm、底面は224×167cmの楕円形で、確認面からの深さは59cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土は自然堆積で11層に分層され、全体に小ロームブロックの混入が見られた。

SK130 (第43図)

調査区北部の遺構密集区で確認された土坑で、SK132・134等と重複する。開口部は186×145cm、底面は294×257cmの楕円形で、確認面からの深さは106cmを測る。壁は全体的にはオーバーハングして立ち上がるが、SK132と重複する北西側は不明瞭である。底面はほぼ平坦であるが、周縁部が若干高くなっている。覆土は自然堆積で14層に分層され、下層には小ロームブロックの混入が目立っていた。

SK135 (第30図)

調査区北東部で確認された土坑で、SI34と重複しSK149と近接する。南側の一部が調査区外であるが、開口部は207×178cm、底面は270×231cmの楕円形で、確認面からの深さは91cmを測る。壁は大きくオーバーハングして立ち上がり、袋状を形成する。底面はほぼ平坦で、西壁寄りに直径39cm・深さ22cmの小ピットがみられる。覆土は自然堆積で11層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。

出土遺物は磨石1点(第90図20)である。

SK137 (第27図)

調査区北東部で確認された土坑で、SI30・SK139と重複する。開口部は133×128cm、底面は109×107cmのほぼ円形で、確認面からの深さは49cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がるが、中程で僅かなオーバーハングがみられる。覆土は自然堆積で10層に分層され、上層には焼土の混入がみられた。

出土遺物は縄文土器1点(第64図143)である。深鉢形土器の口縁部から頸部にかけての破片で、隆帯貼付による横S字状モチーフの橋状把手を連結し(推定10単位)、間に縦位の沈線列を充填している。また口唇部は欠損するが、くの字に外反していたものとみられ、直下には交互刺突文が残る。胴部地文は捺糸文である。

SK138 (第28図)

調査区北東部で確認された土坑で、SI31と重複する。開口部は119×98cm、底面は213×184cmの

楕円形で、確認面からの深さは107cmを測る。壁は大きくオーバーハングして立ち上がり、袋状を形成する。底面は平坦で、壁寄りには3個の小ピット（直径50～60cm、深さ60cm前後）がほぼ等間隔に配されている。覆土は自然堆積で7層に分層され、下層にはロームブロックの混入が多くみられた。

出土遺物は縄文土器3点（第64・65図144～146）である。144は胴部下半を欠損する深鉢形土器で、口縁部に大小4単位の眼鏡状把手が配され、隆帯上にはキザミが施される。口縁部文様帯は結節沈線等による波状・渦巻文が描かれ、胴部には地文として燃糸文が施される。145はキャリパー状の深鉢形土器で、底部を欠損する。口縁部文様帯は一本の隆帯による大きな波状文が描かれ、縦位の集合沈線が地文として施される。頸部に二本の隆帯が巡り、胴部文様帯と区画される。胴部は単節R Lの縄文を施文後に、三条の横位沈線で区画され、上部にはU字状文、下部には長楕円状の懸垂文がそれぞれ沈線で施される。146は胴部を欠損する深鉢形土器で、口縁部は隆帯と沈線による渦巻文が施され、間には半裁竹管による沈線文が充填される。頸部は半裁竹管による三条の結節状沈線によって区画され、胴部にはやはり半裁竹管による渦巻文や懸垂文が施される。

SK149（第27図）

調査区北東部で確認された土坑で、SI30と重複する。開口部は210×199cm、底面は183×168cmのほぼ円形で、確認面からの深さは66cmを測る。底面は平組で、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は自然堆積で5層に分層され、最下層は大小のロームブロックを主体とした層であった。

出土遺物は縄文土器1点（第65図147）である。口縁部から胴部上半にかけての深鉢形土器破片で、口唇直下に隆帯と沈線による渦巻文が施される。胴部とは三条の沈線により区画され、半裁竹管による連弧文、曲線文等が施される。胎土には金雲母片が多く含まれる。

第2節 古墳時代

1 竪穴住居跡

S101 (第5図、第96図)

概要:北壁にカマドを有する比較的規模の大きい竪穴住居跡で、主軸方位はN-4°-Wである。

位置:調査区の南西隅に位置し、縄文時代の竪穴住居跡S105を切る。 **規模:**南北7.64m、東西7.68mの正方形で、確認面から床面までの深さは20～36cmである。 **覆土:**自然堆積で、全体にローム粒が多量に含まれている。 **床面:**ほぼ平坦で、中央部からカマド前面にかけてはよく踏み固められている。 **柱穴:**主柱穴はP1～P4(直径45～60cm・深さ61～92cm)の4本で、柱間距離は南北4.82m・東西4.95mと東西が僅かに長い配置である。P6・P7及びP15等は30～50cm前後の深さがあり、位置的にも主柱の付け替えか支柱であった可能性が高い。 **壁溝:**幅15～20cm・深さ5～8cmの周溝が、ほぼ全周している。 **入口ピット:**南壁下のほぼ中央から確認されたP5は深さ27cmのやや方形(一辺50～60cm)に掘られたものであり、位置的に入口ピットと考えられる。 **貯蔵穴:**北西コーナーとカマドの中間付近から確認された不整形円形(南北75cm×東西90cm・深さ39cm)の穴で、土器なども多く出土している。 **カマド:**北壁ほぼ中央に位置し、煙道は壁を大きく1mあまり凸字状に掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、奥行き約90cm、幅約1.2mほどの大きさである。燃焼部は12cmほど掘りくぼめられたもので、焼土・炭化物等が多量に確認されている。 **出土遺物:**出土遺物は比較的多く、図示し得たのは土師器杯11点、同埴1点、同壺4点、同甗1点、須恵器蓋1点、同高坏1点である。1・2の土師器杯は床面直上、他は覆土中層から下層にかけての出土である。なお覆土中からはこの他に縄文期の打製石斧1点と搔削器1点が出土している。

S102 (第7・9図、第97図)

概要:北壁にカマドを有する比較的大型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-9°-Eである。 **位置:**調査区の西寄りに位置し、S123及び多数の土坑と重複する。なお中央部が調査区外となっている。 **規模:**中央部が未調査であるが、南北7.05m、東西7.18mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは30cm前後である。 **覆土:**自然堆積で概ね3層に分かれ、下層の暗褐色土から床面には多数の土器が出土している。 **床面:**ほぼ平坦で、カマド周辺はよく踏み固められている。 **柱穴:**P1(直径46cm・深さ51cm)とP2(直径22cm・深さ59cm)が位置的に主柱穴とみられる。東側では柱穴が確認されていないが、4本主柱であったものとみられる。 **カマド:**北壁ほぼ中央に位置し、煙道は壁を40cmほど掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、奥行き約90cm、幅約1.3mほどの大きさである。燃焼部は10cmほど掘りくぼめられたもので、焼土・炭化物等が多量に確認されている。 **出土遺物:**出土遺物は比較的多く、図示し得たのは土師器杯6点、同小型壺2点、同壺5点、同甗2点、須恵器杯1点である。10・13の土師器、14・15の甗は床面直上、11・12の壺はカマド内、他は覆土中層から下層にかけての出土である。なお覆土中からはこの他に縄文期の小型磨製石斧1点及び杵状の土製耳飾2点が出土している。

S104 (第11図、第98図)

概要:北壁にカマドを有する比較的規模の大きい竪穴住居跡で、主軸方位はN-7°-Eである。
位置:調査区の南端部に位置し、地形的には南東緩斜面部へと面している。縄文時代の土坑が複数重複するともに南東部が大きく攪乱を受けている。また南辺部は調査区外である。規模:南北推定7.0m、東西7.04mの正方形で、確認面から床面までの深さは34~43cmである。覆土:自然堆積で概ね4層に分かれ、中~下層には小ロームブロック・ローム粒が多く含まれる。床面:ほぼ平坦で、特にカマド前面はよく踏み固められている。柱穴:P1は直径43cm・深さ65cmで、位置的にも主柱穴と思われる。P2・P3(直径45cm前後・深さ40cm前後)と規模的には主柱穴の可能性もあるが、位置的にはP1との距離が短い。またP4~5は土坑下で確認されたため直径は小さいが、床面からの深さは60cmを超えるものであり、位置的にもいずれかが主柱穴である可能性が高い。なおP7は深さ26cmと浅く、補助的なものである。壁溝・入口ピット・貯蔵穴:いずれも確認されない。
カマド:北壁ほぼ中央に位置し、煙道は壁を75cmほど凸字状に掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、奥行き約80cm、幅約1.2mほどの大きさである。燃焼部は15cmほど掘り上げられたもので、焼土・炭化物等が多量に確認されている。出土遺物:図示したのには土師器坏7点、同埴1点、同鉢2点、同高坏1点、須恵器蓋1点である。いずれも覆土中層から下層にかけての出土である。なお覆土中からは他に縄文期の打製石斧1点が出土している。

S108 (第13図、第99図)

概要:北壁にカマドを有するやや小型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-3°-Wである。位置:調査区の東端付近に位置し、立地的には南東緩斜面部に面している。規模:南北3.67m、東西3.64mの正方形で、確認面から床面までの深さは16~32cmである。覆土:自然堆積で概ね3層に分かれ、下層にはローム粒が多量に含まれている。床面:ほぼ平坦で、中央部からカマド前面にかけてはよく踏み固められている。柱穴:P1~P5(直径20~25cm・深さ10~20cm)はいずれも小規模な柱穴であるが、位置的には主柱穴の可能性も考えられる。P6~P10は(直径25~30cm・深さ7~11cm)はいずれも浅く、位置的にも主柱穴とは考えられない。壁溝:幅15~20cm・深さ5~7cmの周溝で、東壁及びカマド東を除きほぼ全周している。入口ピット:南壁下中央から約20cmの位置で確認されたP11は深さ16cmの楕円形(東西35cm・南北30cm)の穴であり、位置的に入口ピットと考えられる。貯蔵穴:北東コーナー付近から確認された隅丸方形(南北83cm×東西68cm・深さ52cm)の穴で、近くからは土器も多く出土している。カマド:北壁のやや西寄りに位置し、煙道は壁を約40cm掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、奥行き65cm、幅約1.1mほどの大きさである。燃焼部の掘り込みは浅く、僅か数cm程である。出土遺物:図示したのは土師器坏1点、同鉢1点、同甕5点、同甔1点である。4・5の土師器甕及び8の甔はカマド内、その他は覆土中層から下層にかけての出土である。

S109 (第15図、第100図)

概要:北壁にカマドを有する小型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-2°-Eである。位置:調査区の東寄りに位置する小型の竪穴住居跡であり、大型のS10等に近接している。規模:南北3.57m、東西3.20mの南北にやや長い長方形で、確認面から床面までの深さは13~18cmである。覆土:自

然堆積で概ね3層に分かれ、下層には土器片・ローム粒等が多く含まれている。床面：ほぼ平坦で、全体によく踏み固められている。柱穴：P1・P3・P4・P8（直径20～30cm・深さ7～14cm）はいずれも小規模な浅い穴であるが、位置的には四隅にあり主柱穴とみられる。また同規模のP2・P7も加えて6本主柱であった可能性も考えられる。入口ビット：南壁下中央から約60cmの位置で確認されたP9（直径32cm・深さ10cm）は、位置的に入口ビットと考えられる。

貯蔵穴：カマド西脇から確認された不整形の穴（南北42cm×東西36cm・深さ29cm）で、内部からは多くの土器が出土している。カマド：北壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を約20cm掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、奥行き約70cm、幅約1mほどの大きさである。燃焼部の中央には長さ18cmほどの川原石の支柱が出土している。出土遺物：図示し得たのは土師器坏4点、同壺1点、同甌1点である。1・4の土師器坏・5の壺・6の甌は床面直上の出土である。なお覆土中からは他に縄文期の石鏃1点が出土している。

S110（第16図、第101図）

概要：北壁にカマドを有する比較的大型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-5°-Eである。すぐ北西側には縄文時代の遺構が密集するが、重複等はみられない。位置：調査区の中央部やや東寄りに位置し、南東側は谷部への緩斜面地に面している。規模：南北7.22m、東西7.30mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは51～67cmとしっかりとした深さを有している。覆土：自然堆積で概ね4層に分かれ、下層から中層にかけては土器片や礫が多量に出土している。床面：ほぼ平坦であるが、西側から東側にかけて7～8cmの緩やかな傾斜がみられる。また中央部からカマド前面にかけてはよく踏み固められている。柱穴：主柱穴はP1～P4（直径43～58cm・深さ75～94cm）の4本で、いずれもしっかりとした規模・深さを有している。柱間距離は南北3.90m・東西3.70mで、南北が少し長めに配されている。P5～P7はいずれも深さ30cmにみえない浅いものである。壁溝：幅20～30cm・深さ10～15cmのしっかりしたもので、南西コーナー付近が攪乱を受けているが、ほぼ全周していたものとみられる。カマド：北壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を36cm掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、奥行き約80cm、幅約1.1mほどの大きさである。両袖の先端部からは凝灰岩の切り石の一部が確認されているが、同様の破片がいくつかカマド周辺から出土しており、切り石組で焚口部が構成されていた可能性が考えられる。出土遺物：図示し得たのは土師器坏2点、同甌1点、須恵器蓋3点で、4・5の須恵器蓋は床面直上、3の土師器蓋はカマド内からの出土である。なお覆土中からは他に縄文期の石鏃23点、石錐2点、打製石斧2点が出土している。

S113（第20図、第102図）

概要：東壁にカマドを有する比較的大型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-11°-Wである。位置：調査区の北西部に位置し、S114・15等の縄文時代の竪穴住居跡と重複している。なお南辺部は調査区外となっている。規模：南北5.0m以上、東西7.27mの方形で、確認面から床面までの深さは28～44cmとしっかりとした深さを有している。覆土：自然堆積で概ね3層に分かれ、下層にはローム粒が多量に含まれている。床面：ほぼ平坦で、中央部からカマド前面にかけてはよく踏み固められている。柱穴：P1～4（直径40～50cm・深さ60～75cm）が主柱穴で、それぞれ付け替

えがなされたものと思われる。これらに対応する主柱穴は調査区外の南辺側に残されているものとみられる。P5(直径41cm・深さ72cm)も主柱穴に匹敵する規模を有するが、位置的に検討が必要となる。また、P6・7(直径40cm前後・深さ20～30cm)は規模的に補助的な柱穴であろう。なおその他の穴は20cmに満たない浅いものである。貯蔵穴：北東コーナー付近から確認された不整形方(南北112cm×東西82cm・深さ60cm)の穴で、カマドに向かって左手に位置する。カマド：東壁のほぼ中央に位置しているとみられ、煙道は壁を約90cm掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、奥行き70cm、幅1.2mほどの大きさである。燃焼部の掘り込みは浅く、僅か数cm程である。出土遺物：図示し得たのは土師器杯2点、同壘5点であり、いずれも覆土中層からの出土である。なお覆土中からは他に縄文期の石鏃10点、石錐1点、搔削器1点、打製石斧2点、磨製石斧1点が出土している。

S123(第7図、第103図)

概要：南辺部のみが確認された隅丸方形の竪穴住居跡で、主軸方位はN-1°-Wである。位置：調査区の西部に位置し、S102に切られている。なお中程から北半部は調査区外となっている。規模：南北2.0m以上、東西7.27mの隅丸正方形とみられ、確認面から床面までの深さは南西コーナー付近で63cmとしっかりとした深さを有している。覆土：自然堆積で概ね層に分かれ、中層から上層にかけては土器片とともに礫が多量に出土している。床面：ほぼ平坦と思われるが、東壁沿いには10cmほどの段がみられる。柱穴：調査範囲内においては柱穴が確認されていない。出土遺物：出土遺物は少なく、図示し得たのは土師器壘1点、同高杯1点、須恵器杯1点の3点のみであり、いずれも覆土中層から下層にかけての出土である。なお覆土中からは他に縄文期の打製石斧1点と石皿片1点が出土している。

S131(第28図、第104図)

概要：南辺部のみが確認された方形の竪穴住居跡で、主軸方位はN-5°-Eである。位置：調査区の北東寄りに位置し、縄文時代の土坑SK138と重複している。なお中程から北半部は調査区外となっている。規模：南北1.3m以上、東西5.6mの方形とみられ、確認面から床面までの深さは25～42cmである。覆土：自然堆積で概ね3層に分かれ、中層から上層にかけては礫が比較的多く出土している。床面：ほぼ平坦と思われる。柱穴：調査範囲内においては柱穴が確認されていない。出土遺物：図示し得たのは土師器杯1点・同壘1点で、いずれも覆土下層の出土である。なお覆土中からは他に縄文期の石皿1点が出土している。

S132(第29図)

概要：北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、主軸方位はN-2°-Wである。位置：調査区の東端に位置し、東へ下る緩やかな斜面地に立地している。南西数mのところはS108が隣接している。なお南半部は調査区外となっている。規模：南北2.8m以上、東西4.72mの方形で、確認面から床面までの深さは残存状態の良い西側で28cmである。覆土：自然堆積で概ね3層に分かれ、下層にはローム粒が多く含まれている。床面：ほぼ平坦で、中央部からカマド前面にかけてはよく踏み固められている。柱穴：P1(直径30cm・深さ51cm)・P2(直径26cm・深さ36cm)

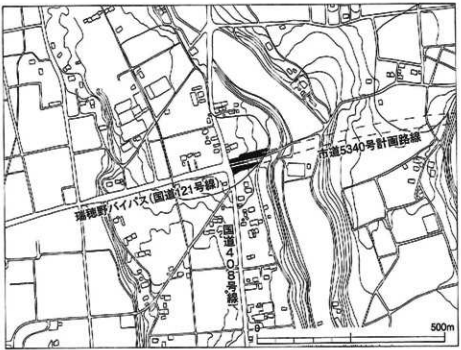
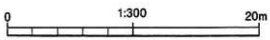
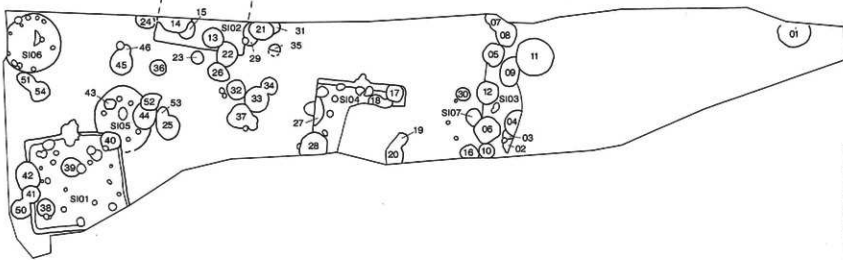
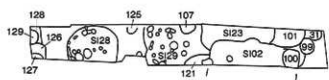
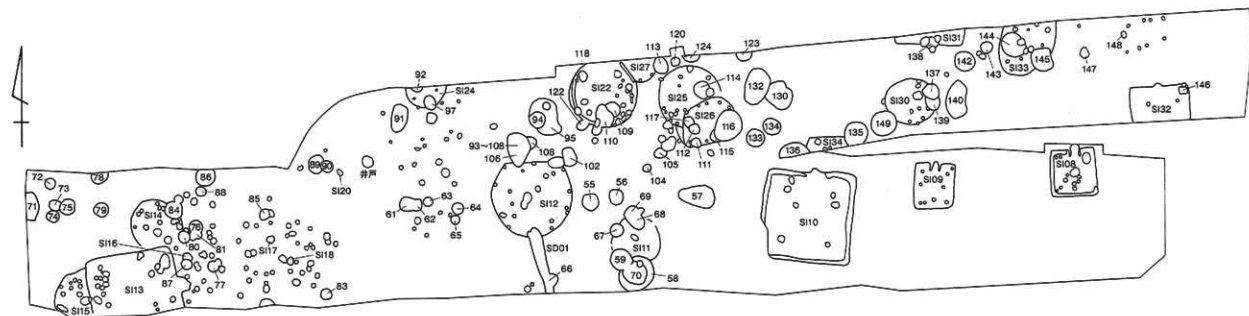
が主柱穴で、柱間距離は2.25mである。これらに対応するものが調査区外にあり、4本主柱であったものとみられる。貯蔵穴：南北53cm・東西71cm・深さ45cmの長方形土坑で、北東コーナーに置かれている。カマド：北壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を35cmほど掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、奥行き65cm、幅1.2mほどの大きさである。燃焼部は15cmほど掘りくぼめられたもので、多くの焼土・炭化物が出土している。

出土遺物：なし。

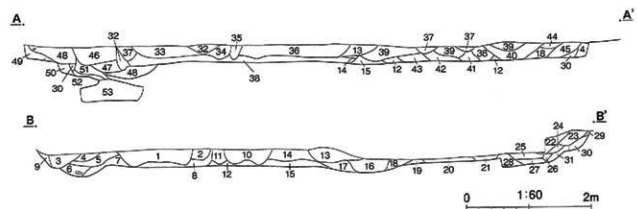
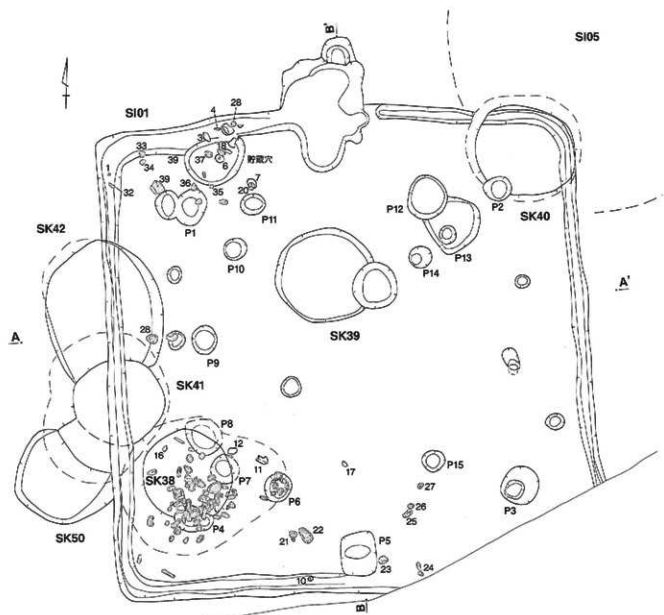
2 溝状遺構

SD01 (第18図、第105図)

調査区のほぼ中央部で確認された溝状遺構で、縄文時代の竝穴住居跡SI12を切ってほぼ南北に走っている。幅85～105cm、深さ40～55cmの断面皿状の溝で、約5m分が確認されている。出土遺物は、土師器鉢1点、同小型甕1点、同甕2点等で、いずれも覆土下層からの出土である。



第4図 遺構配置図



第5圖 SI01・SK39～42・50 (1)

AA-EP	EP中中中、軸小径段、中径、CR中、中中6中中	20 鋼板土	(R中、SY中)
1 鋼板土	(R中中中、軸小径段、中径、CR中、中中6中中)	21 鋼板土	(R中中中、中中中6中中)
2 鋼板土	(R中中、CR中、中中6中中)	22 鋼板土	(R中中、中中中6中中)
3 鋼板土	(R中中、中径、CR中、中中中6中中)	23 鋼板土	(R中中、中径、CR中、中中6中中)
4 鋼板土	(R中中、中径、中径、中中中6中中)	24 鋼板土	(R中中、中径、CR中、中中6中中)
5 鋼板土	(R中中、軸小径段、中径、CR中、中中6中中)	25 鋼板土	(R中中、中径、CR中、中中中6中中)
6 鋼板土	(R中中中、軸小径段、中中6中中)	26 鋼板土	(R中中、中径、中中中6中中)
7 鋼板土	(R中中中、軸小径段、中径、中中6中中)	27 鋼板土	(R中中中、中中中6中中)
8 鋼板土	(R中中、中中中)	28 鋼板土	(R中中、中中中6中中)
9 鋼板土	(R中中、中中中)	29 鋼板土	(R中中、中中中、中中中6中中)
10 鋼板土	(R中中、中径、CR中、中中中6中中)		
11 鋼板土	(R中中、CR中、中中中)		
12 鋼板土	(R中中、中径、中中中6中中)		
13 鋼板土	(R中中、中径、中中中6中中)		
14 鋼板土	(R中中中、中径、中中中6中中)		
15 鋼板土	(R中中中、軸小径段、中中中6中中)		
16 鋼板土	(R中中中、中径、中中中6中中)		
17 鋼板土	(R中中中、中径、中中中6中中)		
18 鋼板土	(R中中、軸小径段、中径、中中中6中中)		
19 鋼板土	(R中中中、軸小径段、中径)		
20 鋼板土	(R中中中、中中中、中中中6中中)		
21 鋼板土	(R中中、中中中、中中中6中中)		
22 鋼板土	(R中中中、SY中)		
23 鋼板土	(R中中中、SY中)		
24 鋼板土	(R中中中、SY中)		
25 鋼板土	(R中中、中中中、CR中、中中)		
26 鋼板土	(R中中中、中中中)		
27 鋼板土	(R中中中、中中中)		
28 鋼板土	(R中中中、中中中、SY中)		

第6図 SI01・SK39～42・50 (2)

AA	
1 鋼板土	(R中中中、中径、中中中、中中)
2 鋼板土	(R中中、中径、中中中)
3 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
4 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
5 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
6 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
7 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
8 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
9 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
10 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
11 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
12 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
13 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
14 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
15 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
16 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
17 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
18 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
19 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
20 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
21 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
22 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)

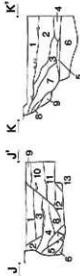
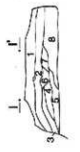
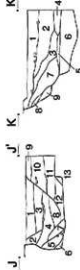
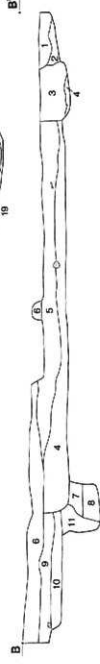
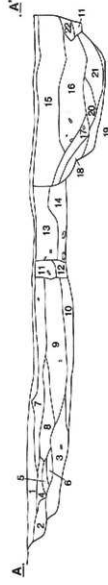
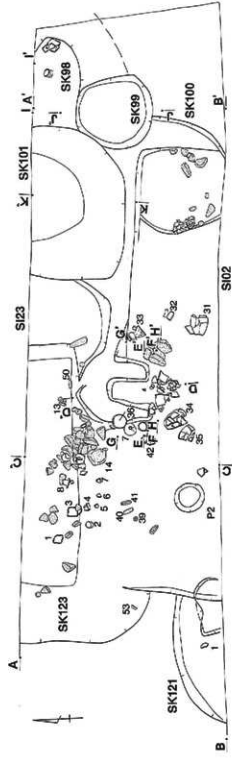
L=102.00mm

BB	
1 鋼板土	(R中中中、中径、中中中、中中)
2 鋼板土	(R中中、中径、中中中)
3 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
4 鋼板土	(R中中中、中径、中中中、中中)
5 鋼板土	(R中中中、中径、中中中、中中)
6 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
7 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
8 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
9 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
10 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
11 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)

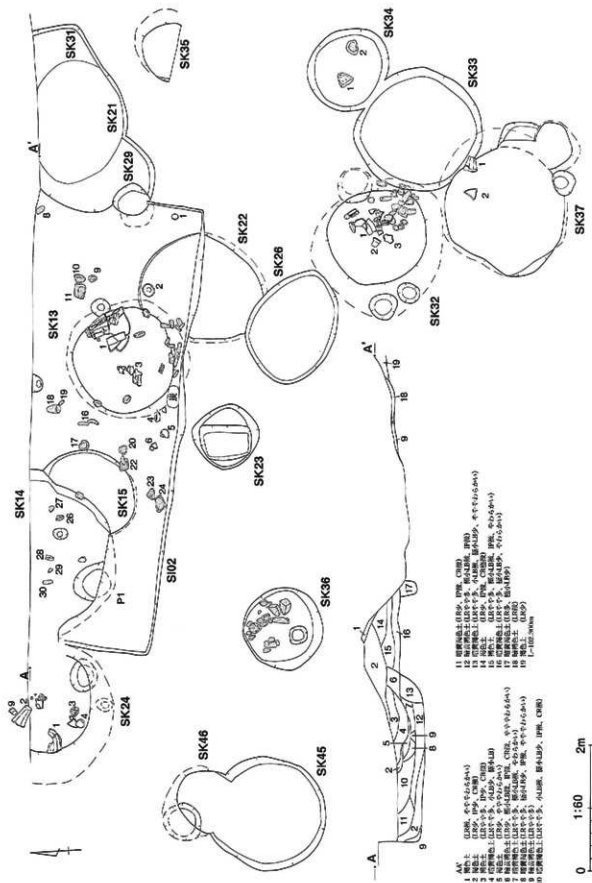
L=102.00mm

CC・DD・EP	
1 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
2 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
3 鋼板土	(R中中中、中径、中中中、中中)
4 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
5 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
6 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)
7 鋼板土	(R中中中、中径、中中中、中中)
8 鋼板土	(R中中中、中径、中中中、中中)
9 鋼板土	(R中中中、中径、中中中、中中)
4 鋼板土	(R中中、中径、中中中、中中)

第8図 SI02・23・SK98～101・121 (2)



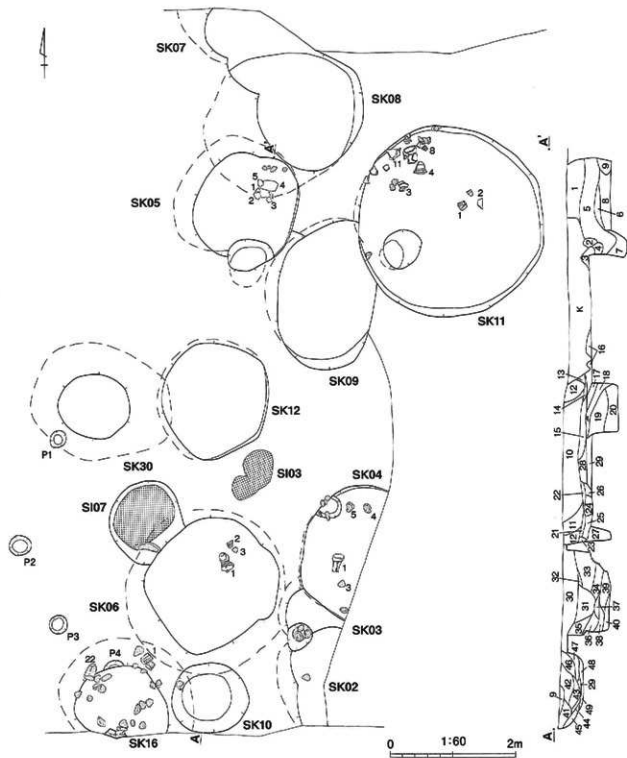
第7圖 SK123・SK98～101・121 (1)



1 土坑
2 土坑
3 土坑
4 土坑
5 土坑
6 土坑
7 土坑
8 土坑
9 土坑
10 土坑
11 土坑
12 土坑
13 土坑
14 土坑
15 土坑
16 土坑
17 土坑
18 土坑
19 土坑
20 土坑

11 土坑
12 土坑
13 土坑
14 土坑
15 土坑
16 土坑
17 土坑
18 土坑
19 土坑
20 土坑

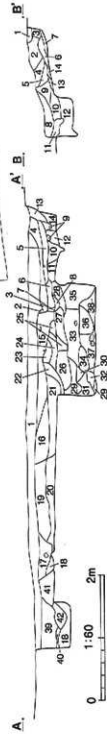
第9圖 SI02・SK13~15・21~24・26・29・31~37・45・46



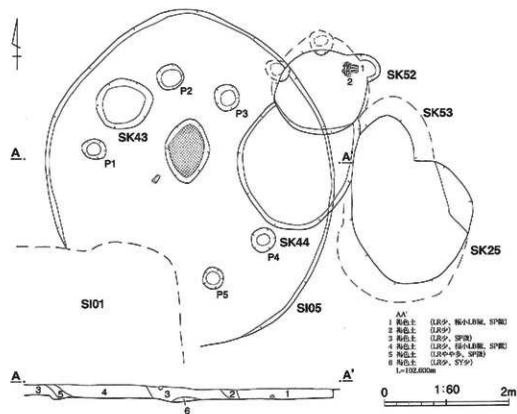
- AA'
- | | | |
|---------------------|------------------------|---------------------|
| 1 灰質褐色土 (土中、細砂、SP) | 17 灰質褐色土 (土中、細砂、SP、CR) | 35 褐色土 (土中、SP、CR) |
| 2 灰質褐色土 (土中、細砂、SP) | 18 灰質褐色土 (土中、細砂、SP、CR) | 36 褐色土 (土中、SP、CR) |
| 3 灰質褐色土 (土中、細砂、SP) | 19 灰質褐色土 (土中、細砂、SP) | 37 褐色土 (土中、SP、CR) |
| 4 灰質褐色土 (土中、細砂、SP) | 20 褐色土 (土中、SP) | 38 褐色土 (土中、SP、CR) |
| 5 灰質褐色土 (土中、細砂、SP) | 21 褐色土 (土中、SP) | 39 灰質褐色土 (土中、細砂、SP) |
| 6 灰質褐色土 (土中、細砂、SP) | 22 灰質褐色土 (土中、細砂、SP) | 40 褐色土 (土中、SP) |
| 7 灰質褐色土 (土中、細砂、SP) | 23 灰質褐色土 (土中、細砂、SP) | 41 褐色土 (土中) |
| 8 褐色土 (土中) | 24 褐色土 (土中、細砂、SP) | 42 褐色土 (土中、細砂、SP) |
| 9 褐色土 (土中) | 25 褐色土 (土中、細砂、SP) | 43 褐色土 (土中、細砂、SP) |
| 10 褐色土 (土中) | 26 褐色土 (土中、細砂、SP) | 44 褐色土 (土中、細砂、SP) |
| 11 褐色土 (土中、細砂、SP) | 27 褐色土 (土中、SP、CR) | 45 褐色土 (土中、細砂、SP) |
| 12 褐色土 (土中、細砂、SP) | 28 灰質褐色土 (土中、細砂、SP) | 46 褐色土 (土中、細砂、SP) |
| 13 褐色土 (土中、細砂、SP) | 29 灰質褐色土 (土中、細砂、SP) | 47 褐色土 (土中、細砂、SP) |
| 14 褐色土 (土中、細砂、SP) | 30 灰質褐色土 (土中、細砂、SP) | 48 褐色土 (土中、細砂、SP) |
| 15 褐色土 (土中、細砂、SP) | 31 褐色土 (土中、細砂、SP) | 49 灰質褐色土 (土中、細砂、SP) |
| 16 灰質褐色土 (土中、細砂、SP) | 32 褐色土 (土中、細砂、SP) | 50 灰質褐色土 (土中、細砂、SP) |
| | 33 褐色土 (土中、細砂、SP) | |
| | 34 褐色土 (土中、細砂、SP) | |
- L=102.500m

第10圖 S103・S107・SK02～11・16・30

- 1 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 2 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 3 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 4 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 5 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 6 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 7 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 8 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 9 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 10 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 11 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 12 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 13 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 14 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 15 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 16 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 17 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 18 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 19 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 20 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 21 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 22 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 23 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 24 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 25 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 26 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 27 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 28 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 29 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 30 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 31 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 32 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 33 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 34 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 35 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 36 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 37 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 38 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 39 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 40 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 41 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)
- 42 1.0.2. (R)K. 10400. 1. (1.0.2.0.0.0.0)

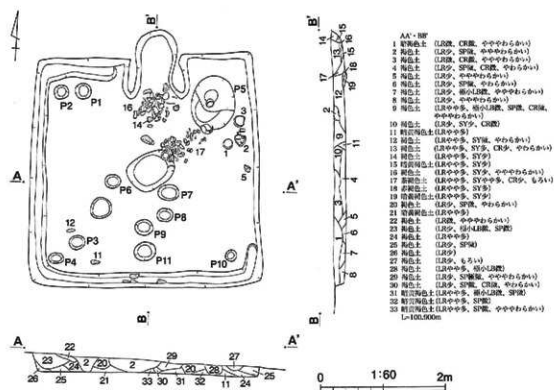


第11圖 S104・SK17～20・27・28



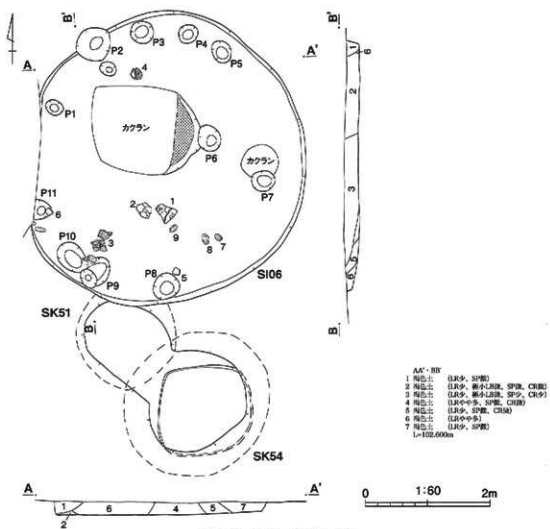
- AA'-BB'
- 1 瓦片土 (瓦片、板瓦、筒瓦)
 - 2 瓦片土 (瓦片)
 - 3 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 4 瓦片土 (瓦片、板瓦、筒瓦)
 - 5 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 6 瓦片土 (瓦片、筒瓦)

第12图 SI05·SK25·43·44·52·53

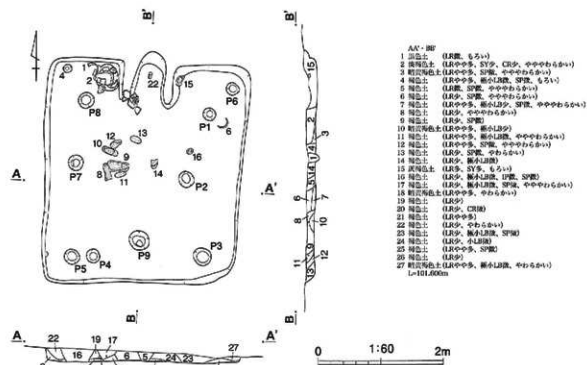


- AA'-BB'
- 1 瓦片土 (瓦片、板瓦、筒瓦)
 - 2 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 3 瓦片土 (瓦片、板瓦、筒瓦)
 - 4 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 5 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 6 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 7 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 8 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 9 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 10 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 11 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 12 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 13 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 14 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 15 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 16 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 17 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 18 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 19 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 20 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 21 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 22 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 23 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 24 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 25 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 26 瓦片土 (瓦片、筒瓦)
 - 27 瓦片土 (瓦片、筒瓦)

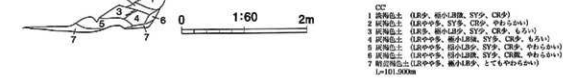
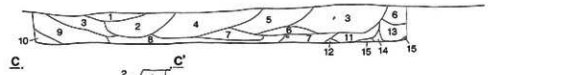
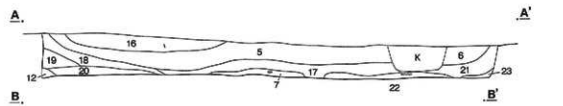
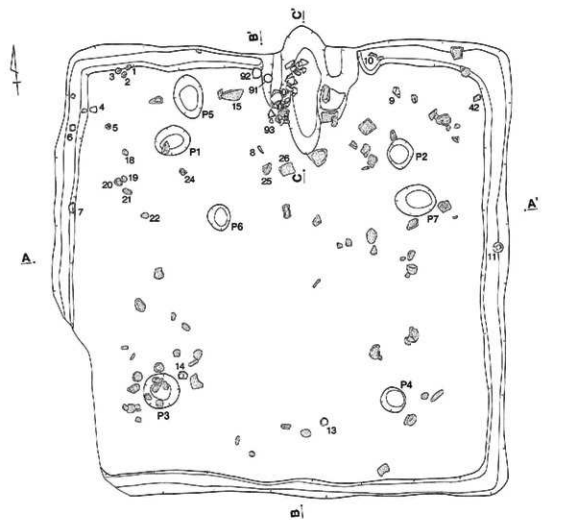
第13图 SI08



- A-A' 部
- 1 埴土 (埴少、空層)
 - 2 埴土 (埴少、黒丸土層、SP層、CR層)
 - 3 埴土 (埴少、黒丸土層、SP層、CR層)
 - 4 埴土 (埴中多、SP層、CR層)
 - 5 埴土 (埴少、空層、CR層)
 - 6 埴土 (埴中多)
 - 7 埴土 (埴少、SP層)
- L=102.000m



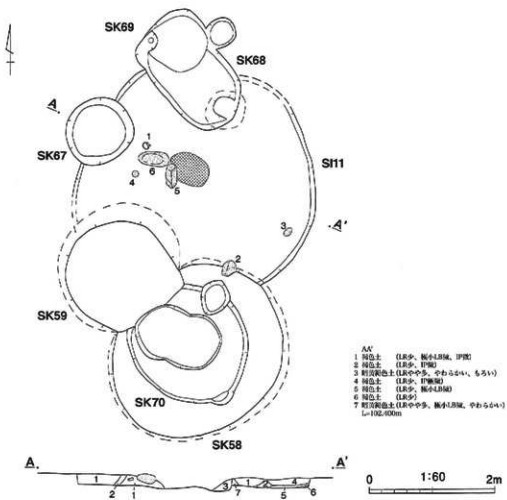
- A-A' 部
- 1 埴土 (埴層、もろい)
 - 2 埴土 (埴中多、SP層、CR層、中中多65cm)
 - 3 埴土 (埴中多、SP層、中中多65cm)
 - 4 埴土 (埴中多、黒丸土層、空層、もろい)
 - 5 埴土 (埴層、中中多65cm)
 - 6 埴土 (埴少、空層、中中多65cm)
 - 7 埴土 (埴中多、黒丸土層、SP層、中中多65cm)
 - 8 埴土 (埴少、中中多65cm)
 - 9 埴土 (埴少、空層)
 - 10 埴土 (埴中多、黒丸土層、中中多65cm)
 - 11 埴土 (埴中多、黒丸土層、中中多65cm)
 - 12 埴土 (埴中多、空層、中中多65cm)
 - 13 埴土 (埴少、空層、中中多65cm)
 - 14 埴土 (埴少、黒丸土層)
 - 15 埴土 (埴少、中中多、もろい)
 - 16 埴土 (埴少、黒丸土層、SP層、SP層)
 - 17 埴土 (埴少、黒丸土層、SP層、中中多65cm)
 - 18 埴土 (埴中多、中中多65cm)
 - 19 埴土 (埴少)
 - 20 埴土 (埴少、CR層)
 - 21 埴土 (埴中多)
 - 22 埴土 (埴少、中中多65cm)
 - 23 埴土 (埴少、黒丸土層、SP層)
 - 24 埴土 (埴少、土層)
 - 25 埴土 (埴中多、SP層)
 - 26 埴土 (埴少)
 - 27 埴土 (埴中多、黒丸土層、中中多65cm)
- L=101.000m



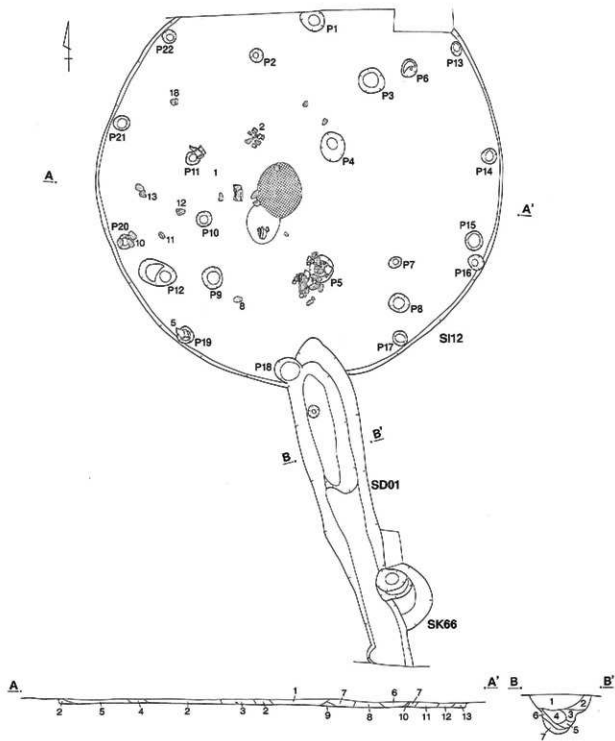
CC'
 1 黄褐色土 (LSP, 砂小石混, SYSP, CRSP)
 2 黄褐色土 (LSP中多, SYSP, CRSP, 砂小石混)
 3 黄褐色土 (LSP, 砂小石混, SYSP, CRSP, 砂小石混)
 4 黄褐色土 (LSP中多, 砂小石混, SYSP, CRSP, 砂小石混)
 5 黄褐色土 (LSP中多, 砂小石混, SYSP, CRSP, 砂小石混)
 6 黄褐色土 (LSP中多, 砂小石混, SYSP, CRSP, 砂小石混)
 7 黄褐色土 (LSP中多, 砂小石混, 砂小石混)
 (1:10, 200mm)

- AA'-BB'
 1 黄褐色土 (LSP, 砂小石混, SYSP, CRSP)
 2 黄褐色土 (LSP, CRSP, 砂小石混)
 3 黄褐色土 (LSP, SYSP, 砂小石混, CRSP)
 4 黄褐色土 (LSP, SYSP, CRSP, 砂小石混, SYSP)
 5 黄褐色土 (LSP, SYSP, CRSP, 砂小石混, SYSP)
 6 黄褐色土 (LSP, SYSP, CRSP, 砂小石混, SYSP)
 7 黄褐色土 (LSP, SYSP, CRSP, 砂小石混, SYSP)
 8 黄褐色土 (LSP中多, 砂小石混, SYSP, CRSP, 砂小石混)
 9 黄褐色土 (LSP中多, 砂小石混, SYSP, CRSP, 砂小石混)
 10 黄褐色土 (LSP中多, 砂小石混, SYSP, CRSP, 砂小石混)
 11 黄褐色土 (LSP中多, 砂小石混, SYSP, CRSP, 砂小石混)
 12 黄褐色土 (LSP中多, 砂小石混, SYSP, CRSP, 砂小石混)
- BB'-CC'
 13 黄褐色土 (LSP中多, SYSP, CRSP, 砂小石混, SYSP)
 14 黄褐色土 (LSP中多, 砂小石混, SYSP)
 15 黄褐色土 (LSP中多, 砂小石混, SYSP)
 16 黄褐色土 (LSP, SYSP, 砂小石混, CRSP)
 17 黄褐色土 (LSP, SYSP, 砂小石混, CRSP)
 18 黄褐色土 (LSP, SYSP, 砂小石混, CRSP)
 19 黄褐色土 (LSP, SYSP, 砂小石混, CRSP)
 20 黄褐色土 (LSP中多, 砂小石混, SYSP, CRSP, 砂小石混)
 21 黄褐色土 (LSP中多, 砂小石混, SYSP, CRSP, 砂小石混)
 22 黄褐色土 (LSP中多, 砂小石混, SYSP, CRSP, 砂小石混)
 23 黄褐色土 (LSP中多, 砂小石混, SYSP, CRSP, 砂小石混)

第16図 S10



第17図 SI11・SK58・59・67～70

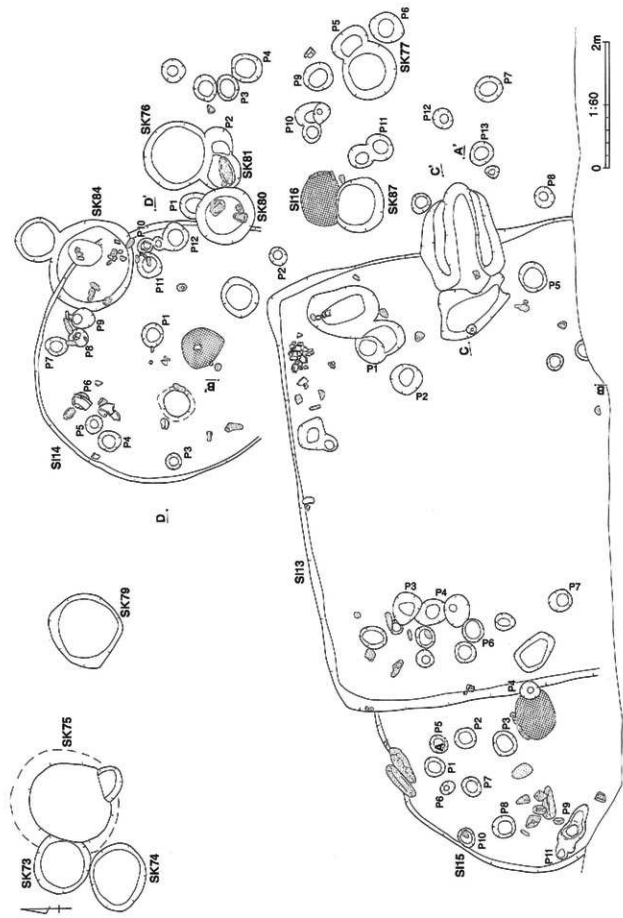


- A'
- 1 礎石 (柱石、P18、C18)
 - 2 礎石 (柱石)
 - 3 礎石 (柱石、S12、C18)
 - 4 礎石 (柱石)
 - 5 礎石 (柱石、P19)
 - 6 礎石 (柱石、P10、P11、P12)
 - 7 礎石 (柱石、P10)
 - 8 礎石 (柱石、P10、P11、P12)
 - 9 礎石 (柱石、P10、P11、P12)
 - 10 礎石 (柱石、P10、P11、P12)
 - 11 礎石 (柱石、P10、P11、P12)
 - 12 礎石 (柱石、P10、P11、P12)
 - 13 礎石 (柱石、P10、P11、P12)

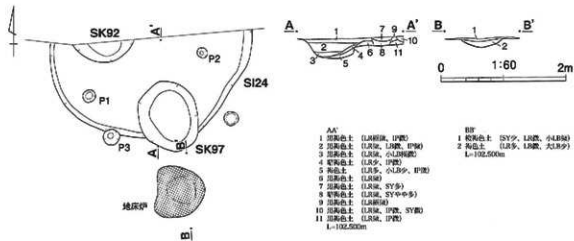
- B'
- 1 礎石 (柱石、P18、C18)
 - 2 礎石 (柱石)
 - 3 礎石 (柱石、S12、C18)
 - 4 礎石 (柱石)
 - 5 礎石 (柱石、P19)
 - 6 礎石 (柱石、P10、P11、P12)
 - 7 礎石 (柱石、P10)
 - 8 礎石 (柱石、P10、P11、P12)
 - 9 礎石 (柱石、P10、P11、P12)
 - 10 礎石 (柱石、P10、P11、P12)
 - 11 礎石 (柱石、P10、P11、P12)
 - 12 礎石 (柱石、P10、P11、P12)
 - 13 礎石 (柱石、P10、P11、P12)

0 1:60 2m

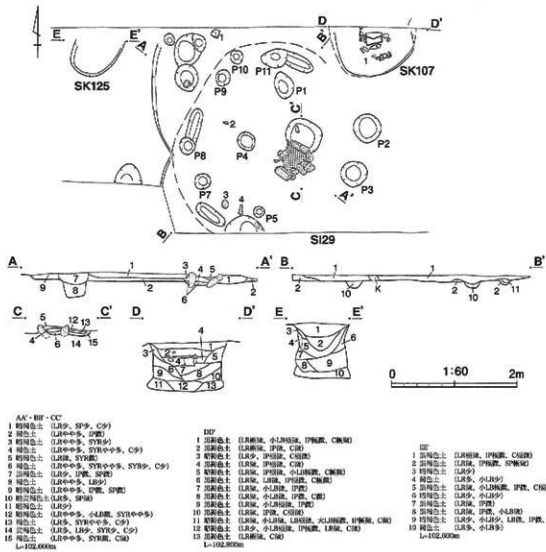
第18図 SI12・SD01・SK66



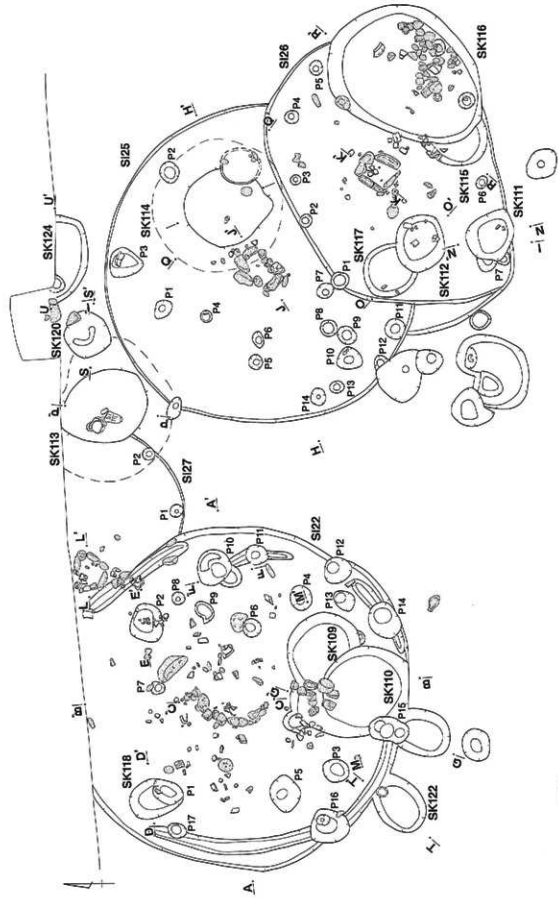
第19圖 SH13~16・SK73~77・80・81・84・87 (1)



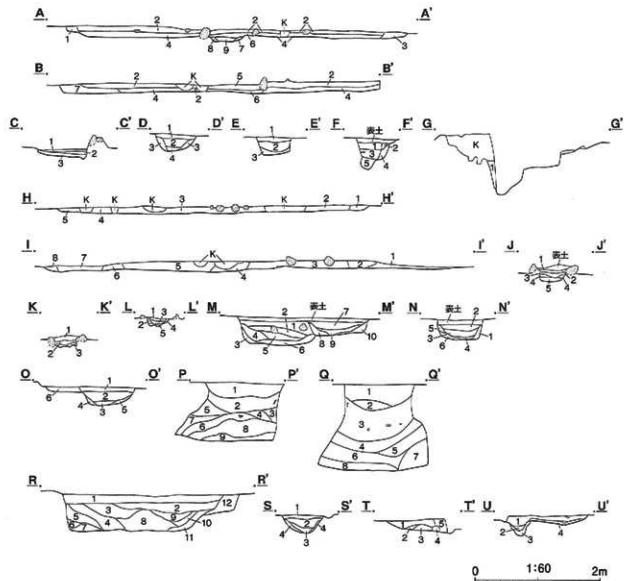
第21圖 SI24・SK92・97



第22圖 SI29・SK107・125



第23圖 S122・25～27・SK109～118・120・122・124 (1)



AA'-BB'
 1 礫層土 (L) 礫多, 礫小混
 2 礫層土 (L) 礫多, 礫小混, 礫中混, 礫大混
 3 礫層土 (L) 礫多, 礫中混
 4 礫層土 (L) 礫多, 礫小混, 礫中混, 礫大混
 5 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 6 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 7 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 8 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 9 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混, 礫大混
 L=102.00m

CC
 1 礫層土 (SYR, LI)
 2 礫層土 (SYR, LI, L) 礫多
 3 礫層土 (L) 礫多, 礫中混
 L=102.00m

DD
 1 礫層土 (L) 礫多
 2 礫層土 (L) 礫多, 礫中混
 3 礫層土 (L) 礫多, 礫中混
 4 礫層土 (L) 礫多, 礫中混
 L=102.00m

EE
 1 礫層土 (L) 礫多, 礫中混
 2 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 3 礫層土 (L) 礫多, 礫中混
 L=102.00m

FF
 1 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 2 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 3 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 4 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 5 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 L=102.00m

GG
 1 礫層土 (L) 礫多, 礫中混
 L=102.00m

HH
 1 礫層土 (L) 礫多, 礫中混
 2 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 3 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 4 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混, 礫大混
 5 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 L=102.00m

II
 1 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 2 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 3 礫層土 (L) 礫多, 礫中混
 4 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 5 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 6 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 7 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 8 礫層土 (L) 礫多, 礫中混
 L=102.00m

JJ
 1 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 2 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 3 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 4 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混, 礫大混
 L=102.00m

KK
 1 礫層土 (L) 礫多, 礫中混
 2 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 3 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 L=102.00m

LL
 1 礫層土 (SY, L) 礫多
 2 礫層土 (L) 礫多
 3 礫層土 (SY, SY, LI)
 4 礫層土 (SY)
 5 礫層土 (L) 礫多, 礫中混, 礫大混
 L=102.00m

第24図 SI22・25～27・SK109～118・120・122・124 (2)

MMF
 1 深溝球土 (LRSR, 小LRSR, 円形, CRD)
 2 深溝球土 (LRSR, 小LRSR, LRS, 円形, CRD)
 3 深溝球土 (LRS, 小LRS)
 4 深溝球土 (LRSR, 小LRSR, 円形, CRD)
 5 深溝球土 (LRS, 小LRS, 円形, CRD)
 6 深溝球土 (LRS, 小LRS, LRS, 円形, CRD)
 7 深溝球土 (LRSR, 小LRSR, LRSR, 円形)
 8 深溝球土 (LRSR, 円形)
 9 深溝球土 (LRS, 円形)
 10 深溝球土 (LRS, 小LRSR, LRSR)
 L=102.100mm

NN
 1 深溝球土 (LRS, 小LRSR, 円形, CRD)
 2 深溝球土 (LRSR, 小LRSR, 円形, CRD)
 3 深溝球土 (LRSR, 小LRSR, LRSR, 円形, CRD)
 4 深溝球土 (LRS, 小LRSR)
 5 深溝球土 (LRSR)
 6 深溝球土 (LRS, 円形, 小LRSR, 小LRSR, CRD)
 7 L=102.100mm

OO
 1 深溝球土 (LRSR, 小LRSR, 円形)
 2 深溝球土 (LRS, 小LRSR, LRSR, CRD)
 3 深溝球土 (LRS, 小LRSR)
 4 深溝球土 (LRSR, 小LRSR, 円形, CRD)
 5 深溝球土 (小LRSR, 円形)
 6 深溝球土 (LRSR, 円形)
 L=102.100mm

PP
 1 深溝球土 (LRSR, 小LRSR, 円形, CRD)
 2 深溝球土 (LRSR, 小LRSR, 円形, CRD)
 3 深溝球土 (LRSR, CRD)
 4 深溝球土 (LRSR, 小LRSR, 円形, CRD)
 5 深溝球土 (LRSR, 小LRSR, 円形, CRD)
 6 深溝球土 (LRS, 小LRS, 円形, CRD)
 7 深溝球土 (LRS, 小LRS)
 8 深溝球土 (LRS, 小LRS, 円形, CRD)
 9 深溝球土 (LRS, 小LRS, 円形, CRD)
 L=102.100mm

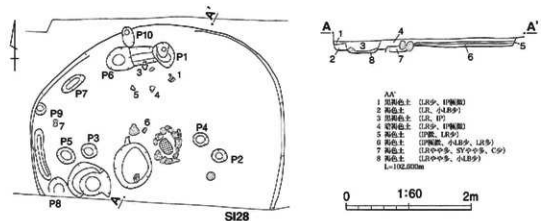
QQ
 1 深溝球土 (LRSR, 円形, CRD)
 2 深溝球土 (LRSR)
 3 深溝球土 (LRSR, 小LRSR, 円形, CRD)
 4 深溝球土 (LRS, 小LRSR, 円形, CRD)
 5 深溝球土 (LRS, 小LRS, 円形, CRD)
 6 深溝球土 (LRS, 小LRS, LRSR)
 7 深溝球土 (LRS, 小LRS, LRSR)
 8 深溝球土 (LRSR, 円形)
 L=102.100mm

RR
 1 深溝球土 (LRSR, 円形, SPURR, CRD)
 2 深溝球土 (LRSR, 小LRSR, 円形, CRD)
 3 深溝球土 (LRS, 小LRSR, 円形, CRD)
 4 深溝球土 (LRS, 小LRS, 円形, CRD)
 5 深溝球土 (LRS, 小LRSR, LRSR, 円形, CRD)
 6 深溝球土 (LRS, CRD)
 7 深溝球土 (LRSR, 小LRSR, 円形)
 8 深溝球土 (LRS, 小LRS, LRSR, 円形, CRD)
 9 深溝球土 (LRSR, 円形)
 10 深溝球土 (LRSR, 円形, CRD)
 11 深溝球土 (LRS, 円形, 小LRSR, CRD)
 12 深溝球土 (LRSR, 小LRSR, 円形, SPURR, CRD)
 L=102.100mm

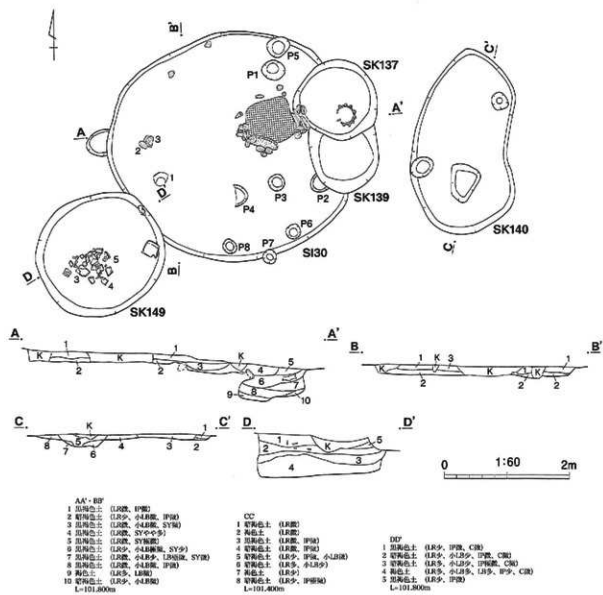
SS
 1 深溝球土 (LRSR, 小LRSR, 円形, CRD)
 2 深溝球土 (LRSR, 円形, SPURR)
 3 深溝球土 (LRS, 円形)
 4 深溝球土 (LRS, 円形, CRD)
 L=102.100mm

TT
 1 深溝球土 (LRSR, 小LRSR, CRD, 円形)
 2 深溝球土 (LRS, 円形, 小LRS, 円形, CRD)
 3 深溝球土 (LRS, 小LRS, LRSR, 円形)
 4 深溝球土 (LRS, 円形, 小LRS, 円形, CRD)
 5 深溝球土 (LRSR, 小LRSR, 円形, CRD)
 L=102.100mm

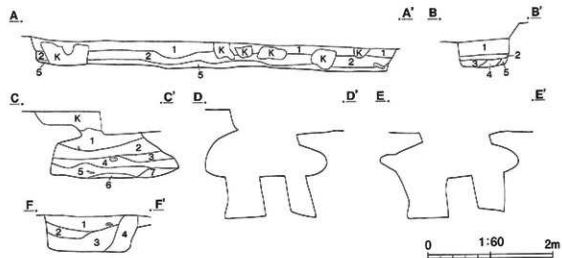
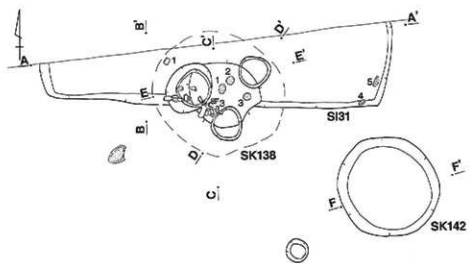
UU
 1 深溝球土 (LRSR, 円形, CRD)
 2 深溝球土 (LRSR, 小LRSR, CRD)
 3 深溝球土 (LRS, 小LRSR)
 4 深溝球土 (LRS, 小LRS, 円形, CRD)
 L=102.100mm



第26图 SI28



第27图 SI30 · SK137 · 139 · 140 · 149



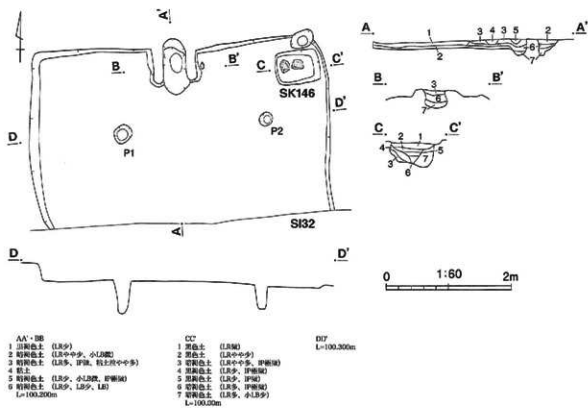
AA'-BB'
1 剖面土 (L85, 尹家)
2 剖面土 (L85, 尹家)
3 剖面土 (L85, 尹家)
4 剖面土 (L85, 尹家, 大沙岭)
5 剖面土 (L85, 尹家, 大沙岭)
L=101.500m

CC'
1 剖面土 (L85, 尹家, 大沙岭, 尹家, 尹家)
2 剖面土 (L85, 尹家, 大沙岭, 尹家, 尹家)
3 剖面土 (L85, 尹家, 大沙岭, 尹家, 尹家)
4 剖面土 (L85, 尹家, 大沙岭, 尹家, 尹家)
5 剖面土 (L85, 尹家, 大沙岭, 尹家, 尹家)
6 剖面土 (L85, 尹家, 大沙岭, 尹家, 尹家)
7 剖面土 (L85, 尹家, 大沙岭)
L=101.500m

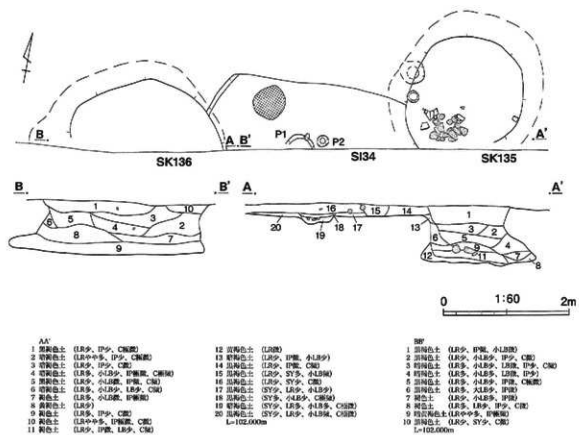
DEF'-BF'
L=101.400m

FF'
1 剖面土 (L85, 尹家, 大沙岭, 尹家)
2 剖面土 (L85, 尹家, 大沙岭, 尹家)
3 剖面土 (L85, 尹家, 大沙岭, 尹家)
4 剖面土 (L85, 尹家, 大沙岭, 尹家)
5 剖面土 (L85)
L=101.500m

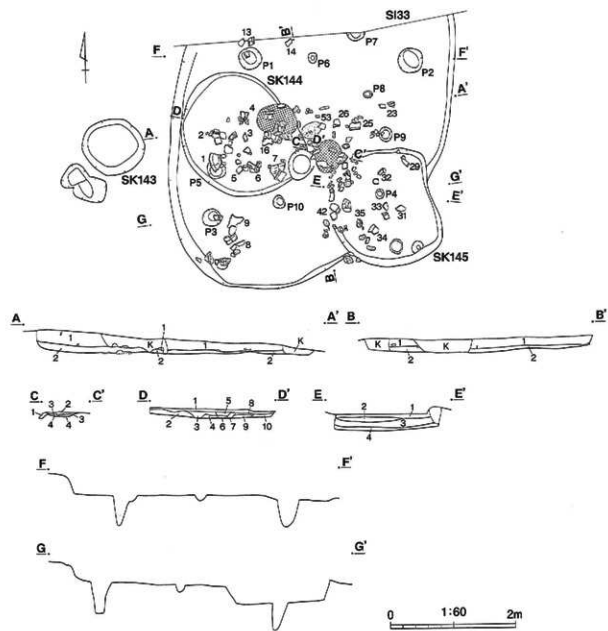
第28图 SI31·SK138·142



第29图 SI32 · SK146



第30图 SI34 · SK135 · 136



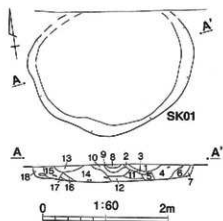
A'-B'
 1 土間色土 (L) 灰層, 砂, 砂層, 砂層
 2 黄褐色土 (L) 砂, 砂層, 砂層, 砂層, 砂層
 L=101.100m

C-C'
 1 砂土
 2 黄褐色土 (L) 砂層, 砂層
 3 黄褐色土 (砂層)
 L=102.800m

D-D'
 1 土間色土 (L) 砂層, 砂層, 砂層
 2 黄褐色土 (L) 砂, 砂層, 砂層, 砂層, 砂層
 3 黄褐色土 (L) 砂, 砂層, 砂層, 砂層, 砂層
 4 黄褐色土 (L) 砂, 砂層, 砂層, 砂層
 5 黄褐色土 (L) 砂, 砂層, 砂層, 砂層
 6 黄褐色土 (L) 砂, 砂層, 砂層, 砂層
 7 黄褐色土 (L) 砂, 砂層, 砂層, 砂層
 8 黄褐色土 (L) 砂, 砂層, 砂層, 砂層
 9 黄褐色土 (L) 砂, 砂層, 砂層, 砂層
 10 黄褐色土 (L) 砂, 砂層, 砂層, 砂層
 L=100.800m

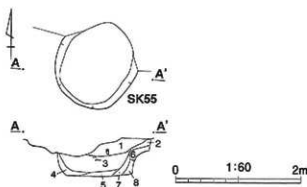
E-E'
 1 土間色土 (L) 砂層, 砂層
 2 黄褐色土 (L) 砂, 砂層, 砂層, 砂層, 砂層
 3 黄褐色土 (L) 砂, 砂層, 砂層
 4 黄褐色土 (L) 砂, 砂層, 砂層
 L=100.800m

第31图 SI33·SK143~145



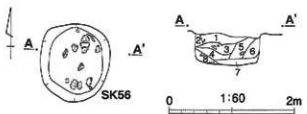
第32图 SK01

- AA'
 1 黄土 (层中中多, 砂质, 含中砂及小石)
 2 红褐色土 (层中中多, 中砂及小石)
 3 黄土 (层中中多, 砂质, 含中砂及小石)
 4 黄土 (层中中多, 砂质, 含中砂及小石)
 5 黄土 (层中中多, 砂质, 含中砂及小石)
 6 红褐色土 (层中中多, 砂质)
 7 黄土 (层中中多, 砂质, 含中砂及小石)
 8 黄土 (层中中多, 砂质, 含中砂及小石)
 9 红褐色土 (层中中多, 砂质)
 10 红褐色土 (层中中多, 砂质)
 11 红褐色土 (层中中多, 砂质, 含中砂及小石)
 12 红褐色土 (层中中多, 砂质, 含中砂及小石)
 13 红褐色土 (层中中多, 砂质, 含中砂及小石)
 14 红褐色土 (层中中多, 砂质, 含中砂及小石)
 15 红褐色土 (层中中多, 砂质, 含中砂及小石)
 16 红褐色土 (层中中多, 砂质, 含中砂及小石)
 17 红褐色土 (层中中多, 砂质)
 18 红褐色土 (层中中多, 砂质, 含中砂及小石)
 L: 101.100m



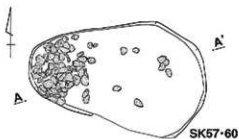
第33图 SK55

- AA'
 1 黄土 (层中, 砂质, 含中砂及小石)
 2 黄土 (层中中多, 砂质)
 3 黄土 (层中, 砂质)
 4 黄土 (层中, 砂质)
 5 黄土 (层中, 砂质)
 6 红褐色土 (层中中多, 砂质)
 7 黄土 (层中中多, 砂质)
 8 黄土 (层中中多, 砂质, 含中砂及小石)
 L: 102.400m



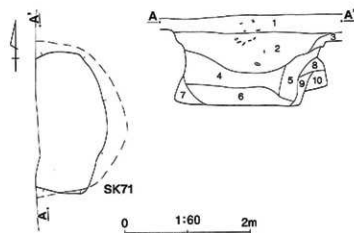
第34图 SK56

- AA'
 1 黄土 (层中, 砂质, 含中砂及小石)
 2 红褐色土 (层中中多, 砂质)
 3 黄土 (层中, 砂质, 含中砂及小石)
 4 黄土 (层中, 砂质, 含中砂及小石)
 5 黄土 (层中, 砂质, 含中砂及小石)
 6 黄土 (层中中多, 砂质, 含中砂及小石)
 7 红褐色土 (层中中多, 砂质)
 L: 102.200m



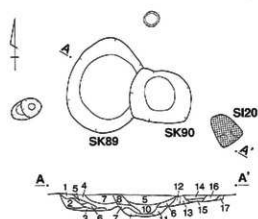
第35图 SK57·60

- AA'
 1 黄土 (层中, 砂质, 含中砂及小石)
 2 红褐色土 (层中中多, 砂质, 含中砂及小石)
 3 黄土 (层中, 砂质, 含中砂及小石)
 4 黄土 (层中, 砂质, 含中砂及小石)
 5 黄土 (层中, 砂质, 含中砂及小石)
 6 红褐色土 (层中中多, 砂质)
 L: 102.200m



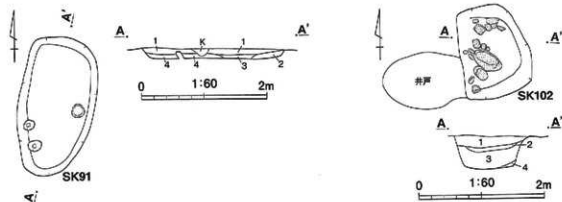
- AA'
- 1 青銅色土 (L2層)
 - 2 紫褐色土 (L2層、L3層、L4層)
 - 3 紫褐色土 (L2層、L3層)
 - 4 褐色土 (L2層、L3層)
 - 5 褐色土 (L2層、L3層)
 - 6 紫褐色土 (L2層、L3層、L4層)
 - 7 褐色土 (L2層、L3層)
 - 8 褐色土 (L2層、L3層)
 - 9 褐色土 (L2層、L3層)
 - 10 紫褐色土 (L2層、L3層、L4層)
- L=102.00m

第36圖 SK71



- AA'
- 1 紫褐色土 (L2層、L3層、L4層)
 - 2 紫褐色土 (L2層、L3層)
 - 3 褐色土 (L2層、L3層)
 - 4 褐色土 (L2層、L3層)
 - 5 紫褐色土 (L2層、L3層、L4層)
 - 6 紫褐色土 (L2層、L3層、L4層)
 - 7 紫褐色土 (L2層、L3層)
 - 8 紫褐色土 (L2層、L3層)
 - 9 紫褐色土 (L2層、L3層)
 - 10 紫褐色土 (L2層、L3層、L4層)
 - 11 紫褐色土 (L2層、L3層)
 - 12 紫褐色土 (L2層、L3層)
 - 13 紫褐色土 (L2層、L3層)
 - 14 紫褐色土 (L2層、L3層)
 - 15 紫褐色土 (L2層、L3層)
 - 16 紫褐色土 (L2層、L3層)
 - 17 紫褐色土 (L2層、L3層)
- L=102.00m

第37圖 SI20・SK89・90

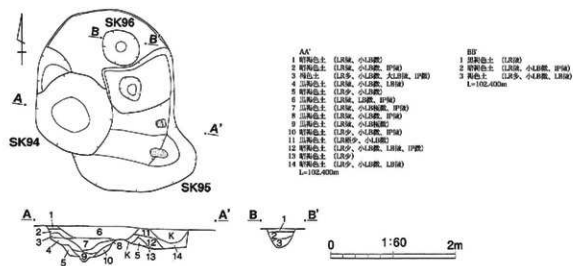


- AA'
- 1 紫褐色土 (L2層、L3層、L4層)
 - 2 褐色土 (L2層、L3層)
 - 3 褐色土 (L2層、L3層)
 - 4 褐色土 (L2層、L3層)
- L=102.00m

第38圖 SK91

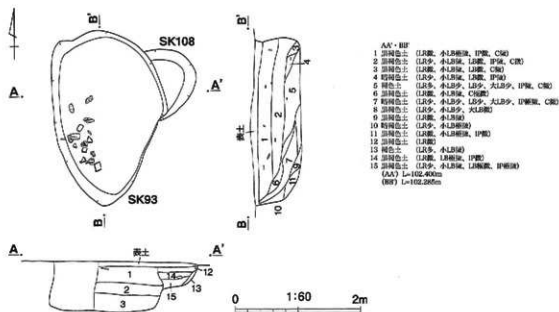
- AA'
- 1 紫褐色土 (L2層、L3層)
 - 2 紫褐色土 (L2層、L3層)
 - 3 紫褐色土 (L2層、L3層)
 - 4 褐色土 (L2層、L3層)
- L=102.00m

第39圖 SK102



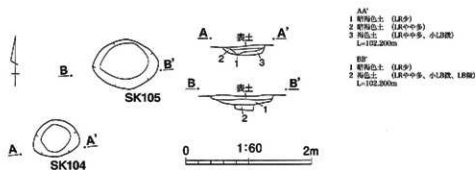
- | | | | |
|---------------------|---------------------|--------------------|--------------------|
| AA' | 1 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | BB' | 1 穿眼孔 (L形) |
| 2 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | 2 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | 2 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | 2 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) |
| 3 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | 3 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | 3 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | 3 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) |
| 4 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | 4 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | | |
| 5 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | 5 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | | |
| 6 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | 6 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | | |
| 7 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | 7 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | | |
| 8 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | 8 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | | |
| 9 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | 9 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | | |
| 10 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | 10 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | | |
| 11 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | 11 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | | |
| 12 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | 12 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | | |
| 13 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | 13 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | | |
| 14 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | 14 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼) | | |
- L=102.40mm

第40图 SK94~96



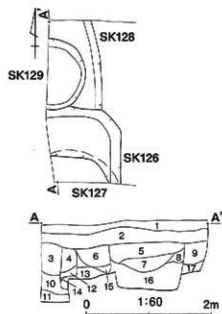
- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| AA'-BB' | 1 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) |
| 2 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) | 2 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) |
| 3 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) | 3 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) |
| 4 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) | 4 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) |
| 5 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) | 5 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) |
| 6 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) | 6 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) |
| 7 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) | 7 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) |
| 8 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) | 8 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) |
| 9 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) | 9 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) |
| 10 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) | 10 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) |
| 11 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) | 11 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) |
| 12 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) | 12 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) |
| 13 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) | 13 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) |
| 14 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) | 14 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) |
| 15 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) | 15 穿眼孔 (L形, 小孔, 穿眼, C形) |
- (A-A') L=102.20mm

第41图 SK93·108



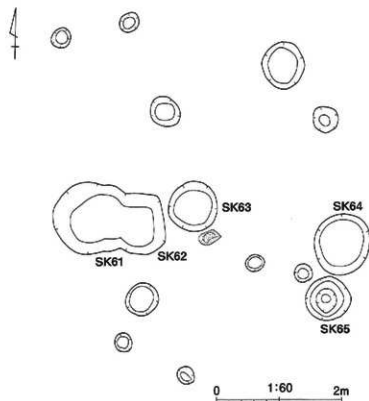
- | | |
|----------------|----------------|
| AA' | 1 穿眼孔 (L形) |
| 2 穿眼孔 (L形, 小孔) | 2 穿眼孔 (L形, 小孔) |
| 3 穿眼孔 (L形, 小孔) | 3 穿眼孔 (L形, 小孔) |
- L=102.20mm
- | | |
|----------------|----------------|
| BB' | 1 穿眼孔 (L形) |
| 2 穿眼孔 (L形, 小孔) | 2 穿眼孔 (L形, 小孔) |
- L=102.20mm

第42图 SK104·105

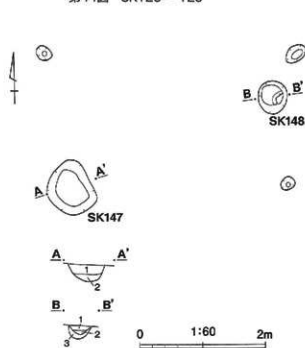


- AA'
- 1 土台
 - 2 土台
 - 3 土台
 - 4 土台
 - 5 土台
 - 6 土台
 - 7 土台
 - 8 土台
 - 9 土台
 - 10 土台
 - 11 土台
 - 12 土台
 - 13 土台
 - 14 土台
 - 15 土台
 - 16 土台
 - 17 土台
- L=100.00m

第44图 SK126 ~ 129

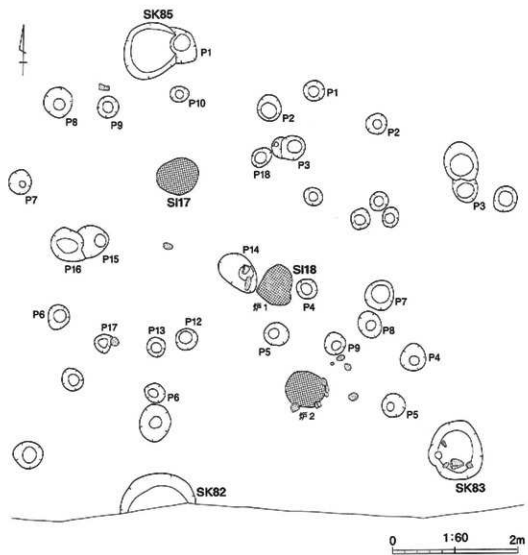


第45图 SK61 ~ 65



- AA'
- 1 土台
 - 2 土台
- L=100.00m
- BB'
- 1 土台
 - 2 土台
 - 3 土台
- L=100.00m

第46图 SK147 · 148



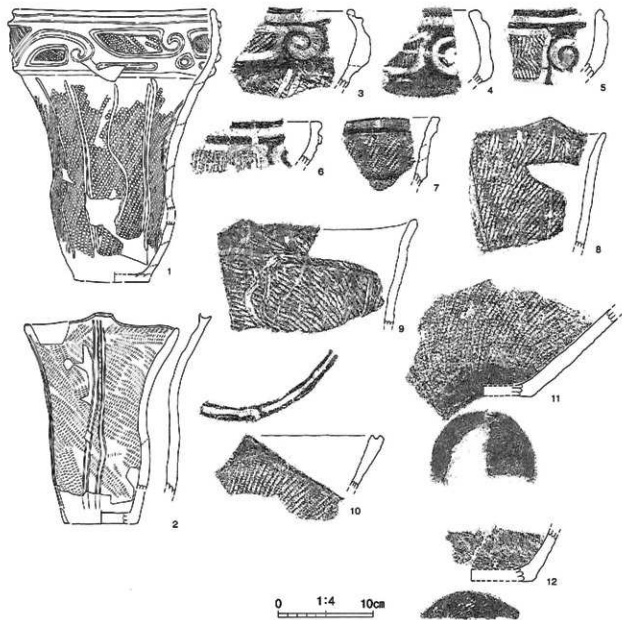
第47図 SH17～18・SK82・83・85



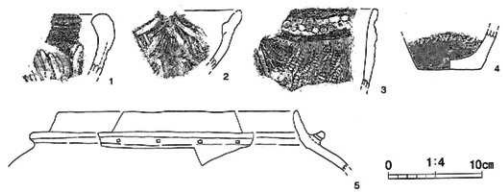
第48图 SI03出土土器



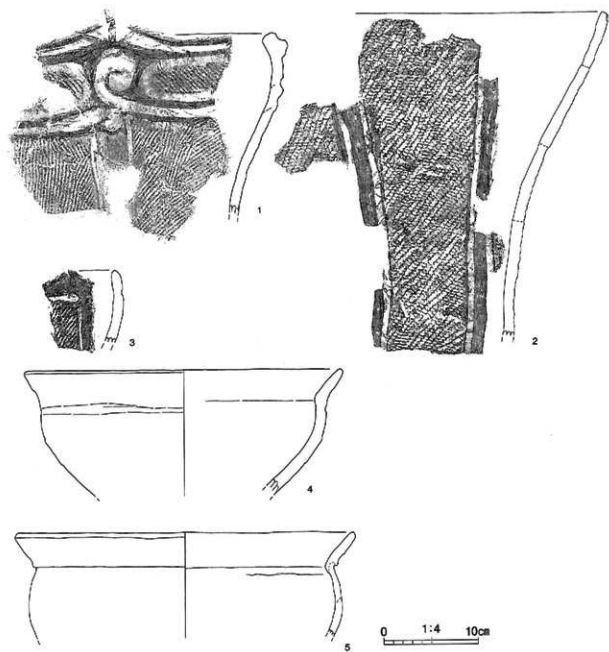
第49图 SI05出土土器



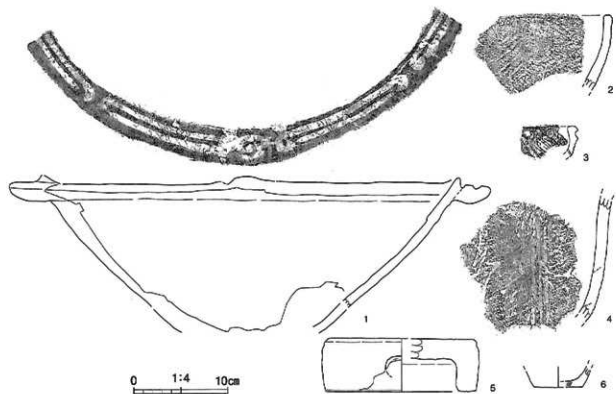
第50图 SI06出土土器



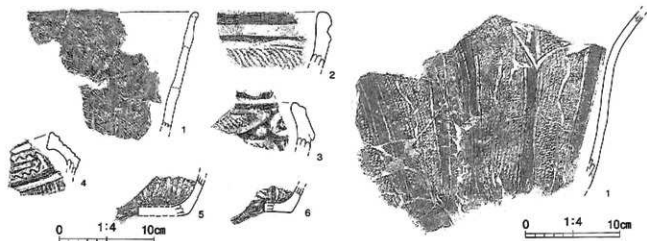
第51圖 SI11出土土器



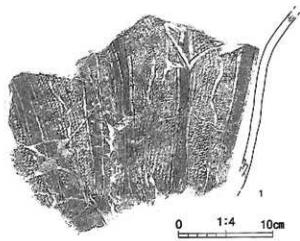
第52圖 SI12出土土器



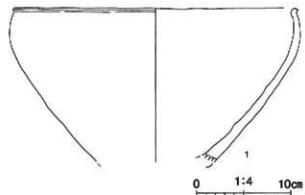
第53图 SI14出土土器



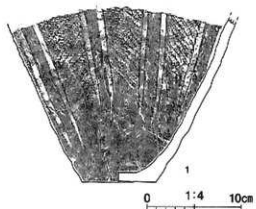
第54图 SI15出土土器



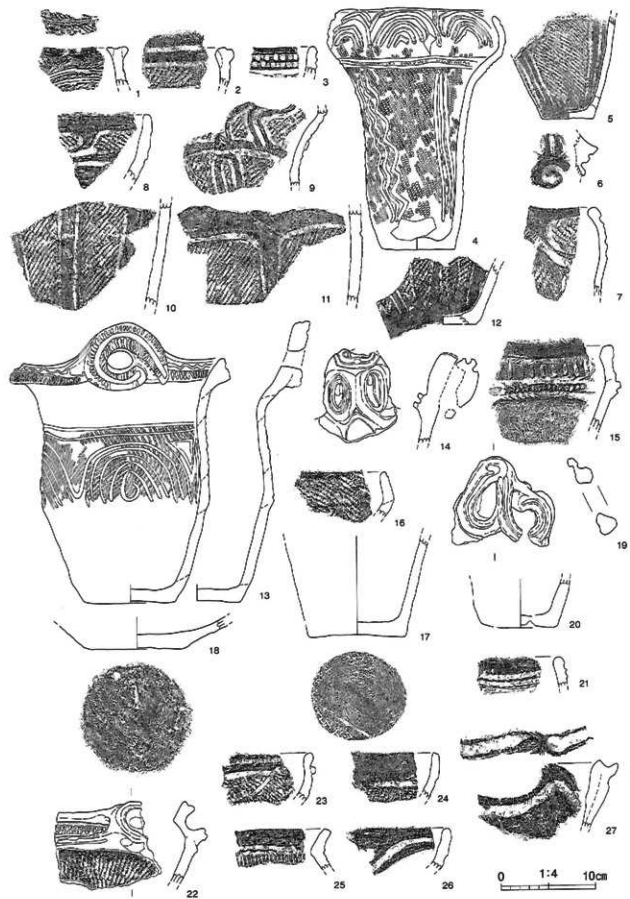
第55图 SI16出土土器



第56图 SI17出土土器

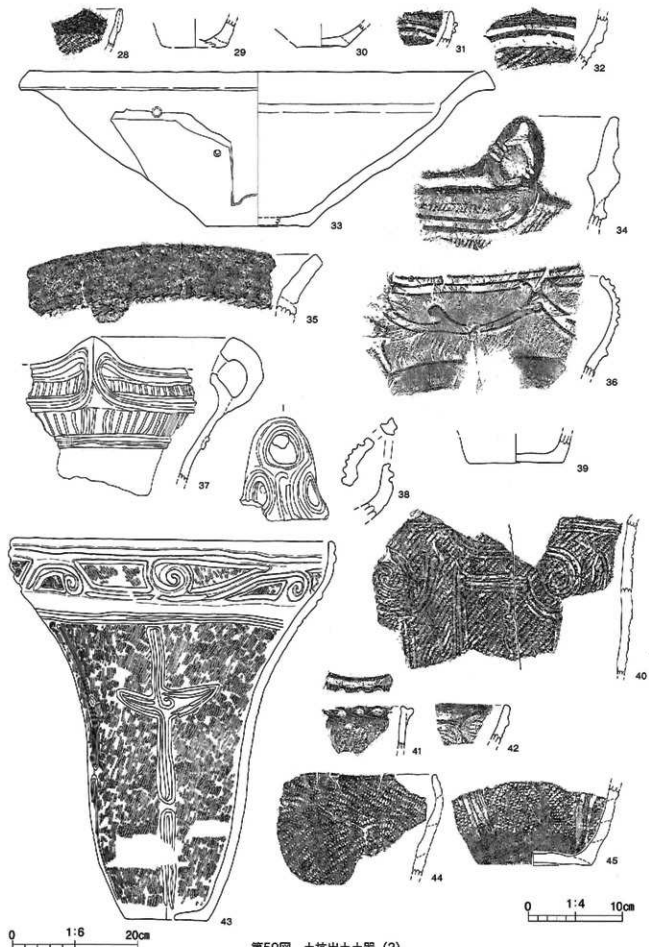


第57图 SI27出土土器

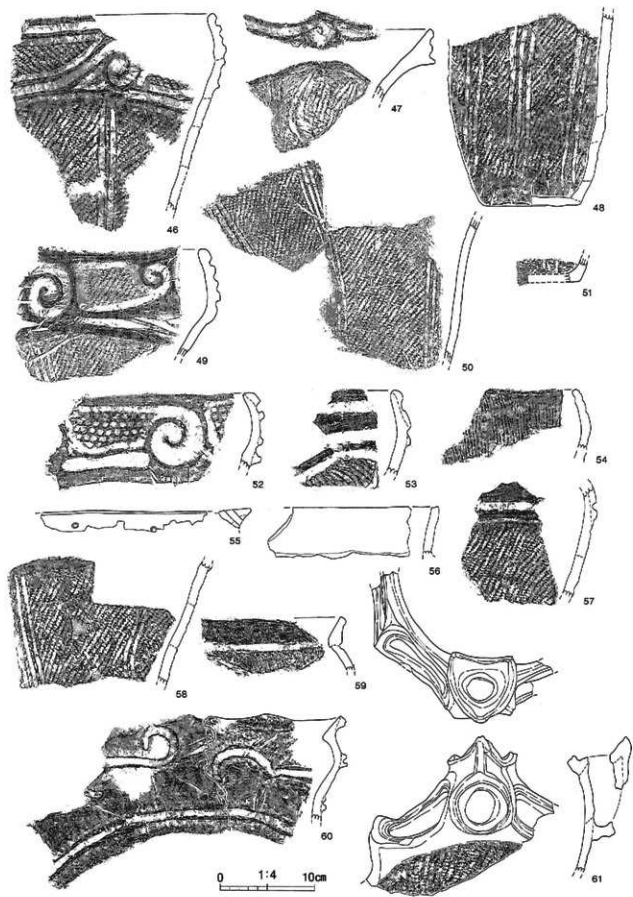


第58图 土坑出土土器(1)

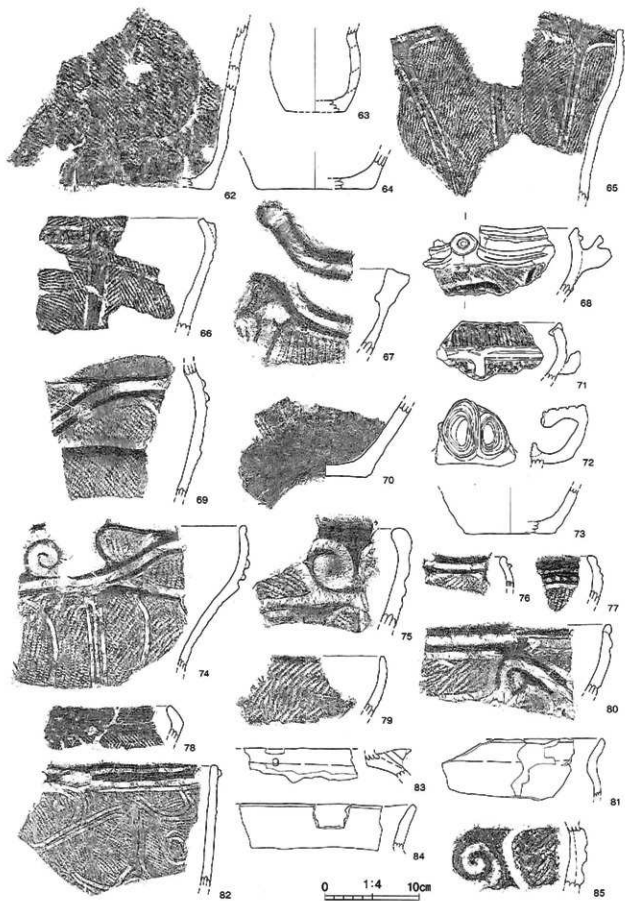
(1~3:SK01, 4~7:SK04, 8~12:SK05, 13~18:SK06, 19~21:SK07, 22~25:SK08, 26-27:SK09)



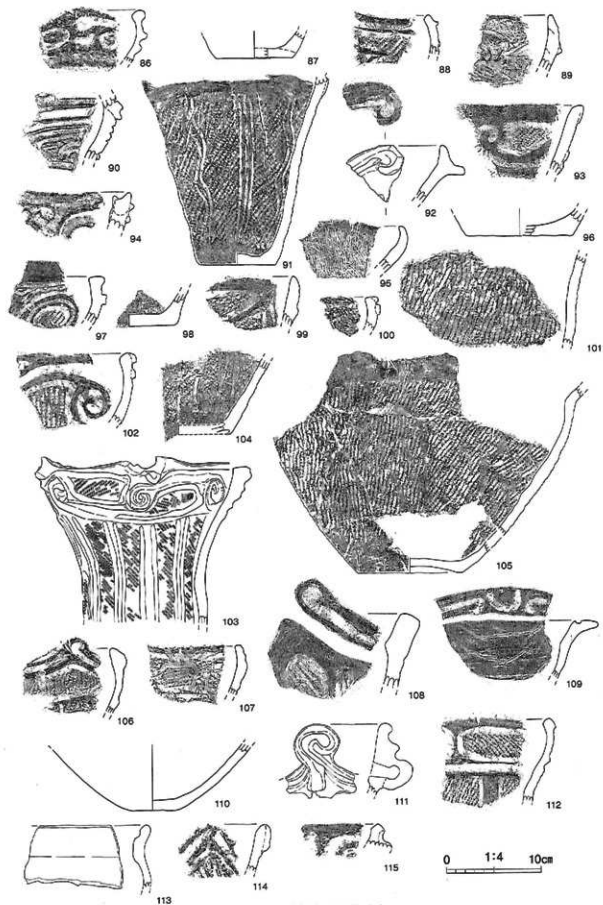
第59图 土坑出土土器(2)
 (28~30:SK09, 31~32:SK10, 33~40:SK11, 41~42:SK12, 43~45:SK13)



第60圖 土坑出土土器(3)
 (46~48:SK16, 49~51:SK24, 52~57:SK25, 58:SK26, 59~61:SK27)

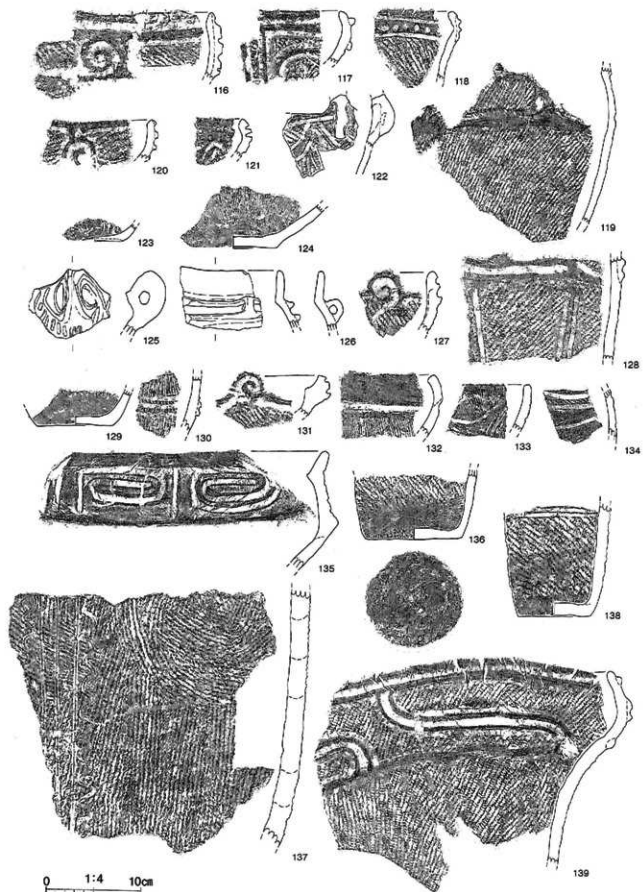


第61圖 土坑出土土器 (4)
 (62~64:SK27, 65~70:SK28, 71~73:SK30, 74~84:SK32, 85:SK33)



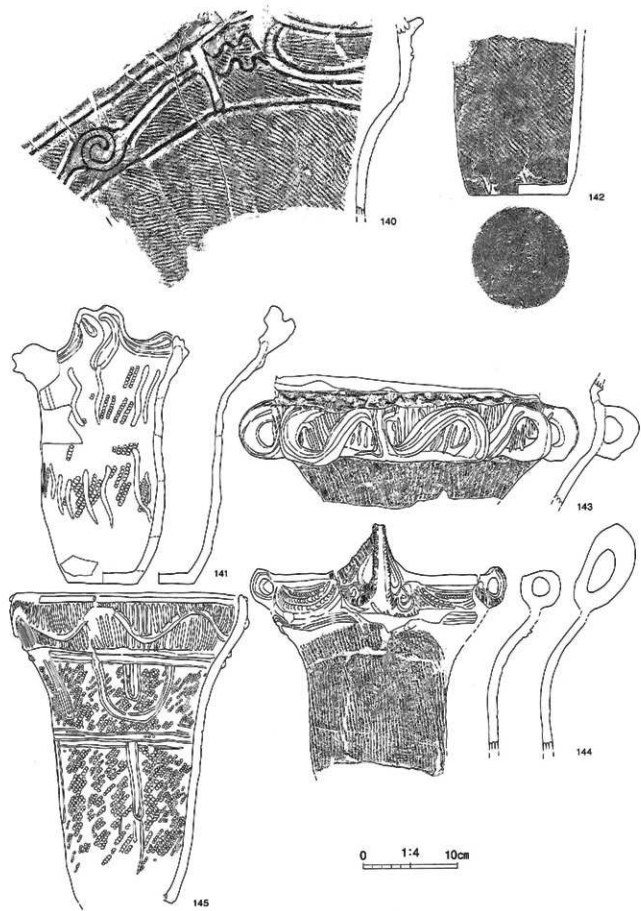
第62圖 土坑出土土器(5)

(86-87:SK34, 88~90:SK35, 91:SK37, 92-93:SK38, 94:SK41, 95-96:SK42, 97-98:SK43, 99:SK45, 100-101:SK46, 102:SK51, 103:SK52, 104-105:SK54, 106~110:SK55, 111~113:SK56, 114-115:SK57)

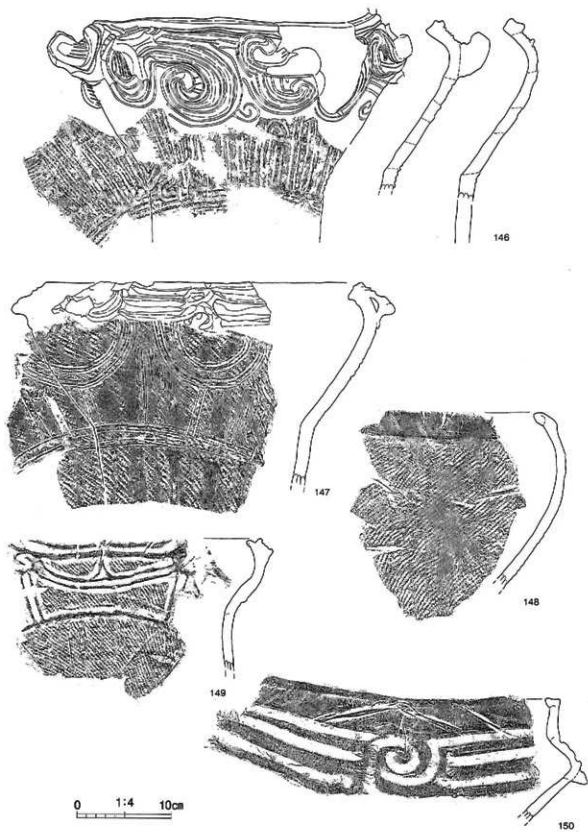


第63圖 土坑出土土器 (6)

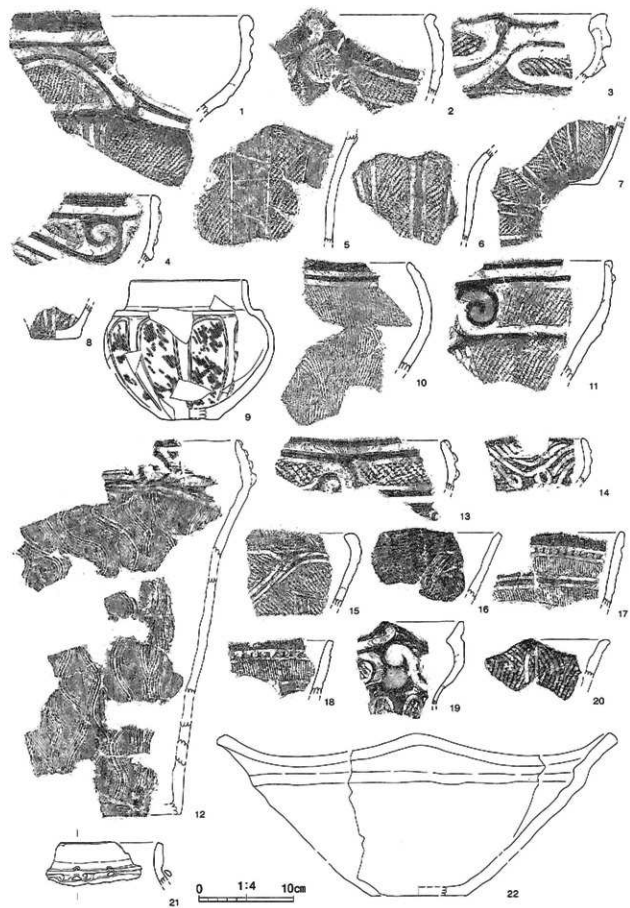
(116~119:SK58, 120~124:SK59, 125-126:SK65, 127~129:SK71, 130:SK75,
131~133:SK76, 134:SK93, 135-136:SK98, 137-138:SK107, 139:SK113)



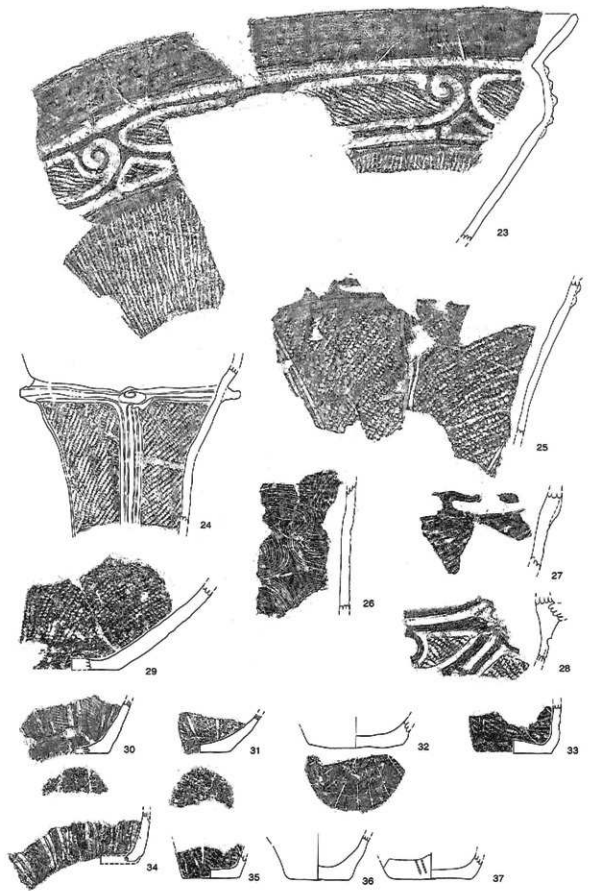
第64圖 土坑出土土器(7)
 (140~142:SK113, 143:SK137, 144·145:SK138)



第65圖 土坑出土土器(8)
 (146:SK138, 147:SK149, 148-149:SK150, 150:SK151)

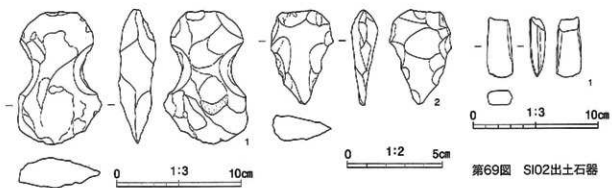


第66图 遼構外出土土器 (1)



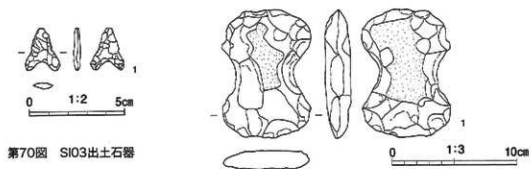
第67回 遺構外出土土器 (2)

0 1:4 10cm



第68图 SI01出土石器

第69图 SI02出土石器



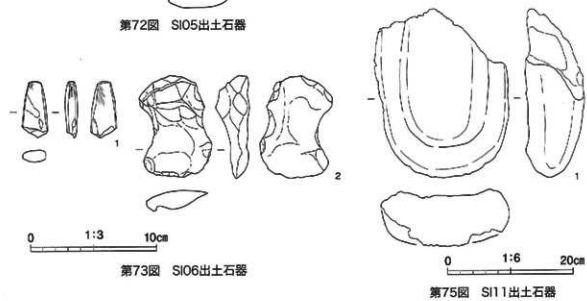
第70图 SI03出土石器

第71图 SI04出土石器



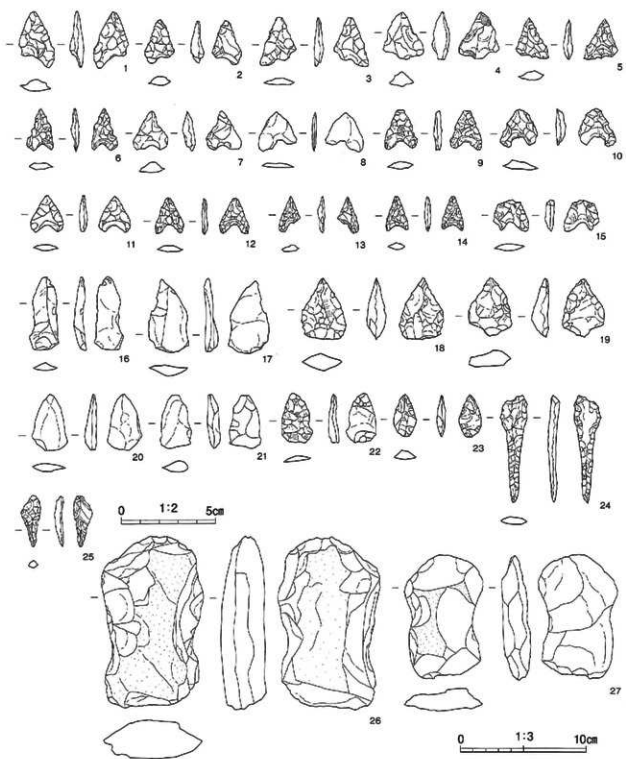
第72图 SI05出土石器

第74图 SI09出土石器

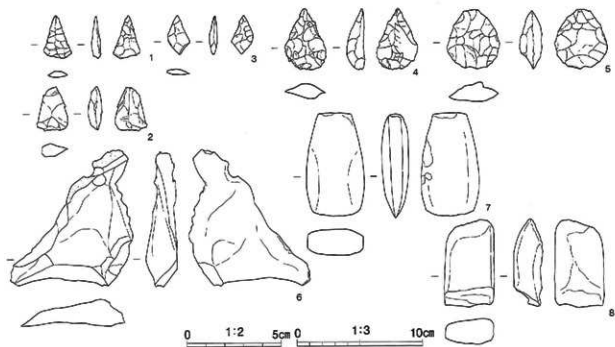


第73图 SI06出土石器

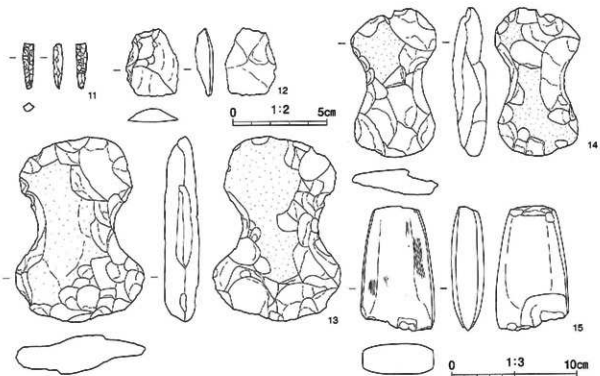
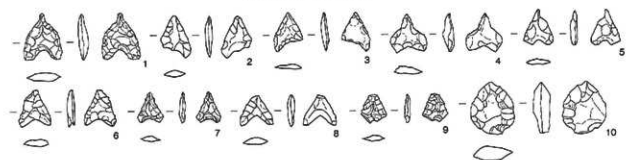
第75图 SI11出土石器



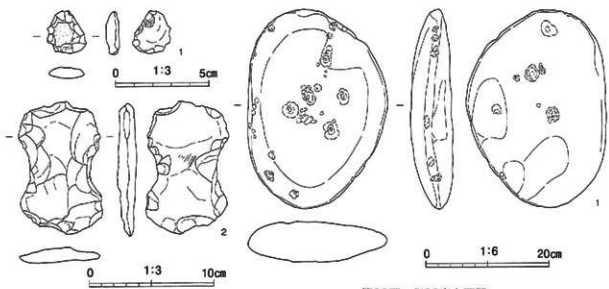
第76圖 S10出土石器



第77图 SI12出土石器

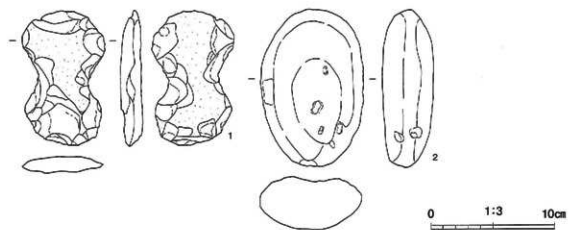


第78图 SI13出土石器

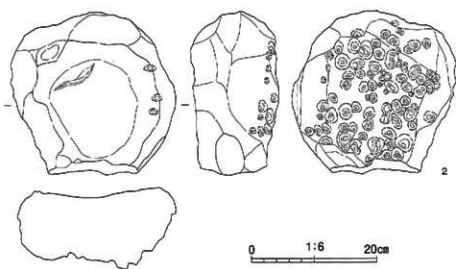
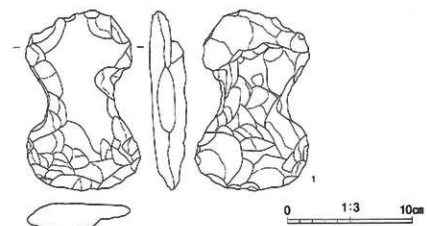


第79圖 SI15出土石器

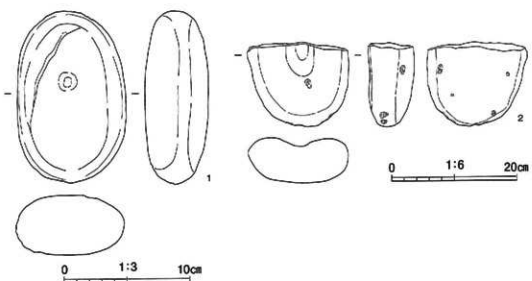
第80圖 SI20出土石器



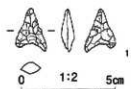
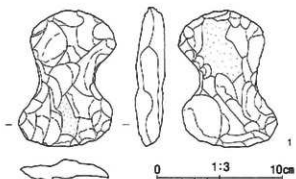
第81圖 SI22出土石器



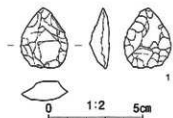
第82図 S123出土石器



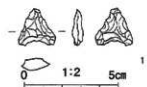
第83図 S130出土石器



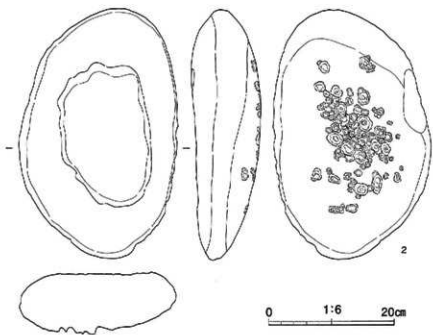
第84图 SI24出土石器



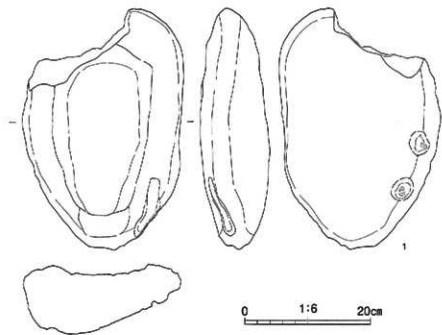
第85图 SI25出土石器



第88图 SD01出土石器



第86图 SI26出土石器

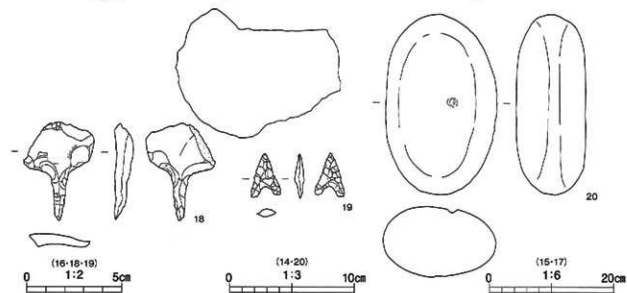
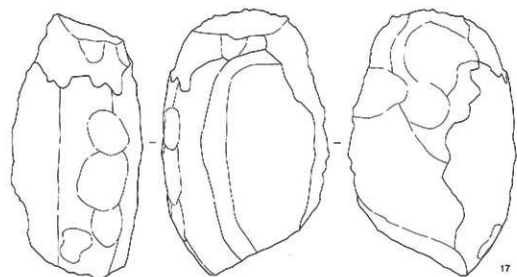
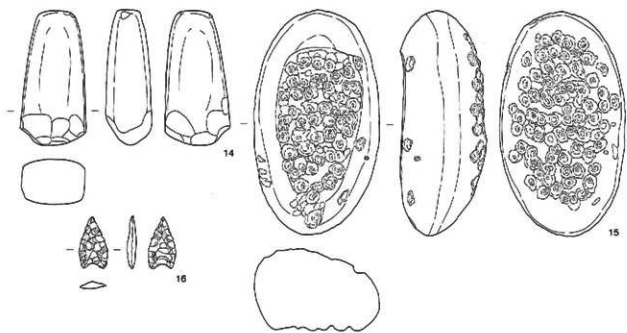


第87图 SI31出土石器



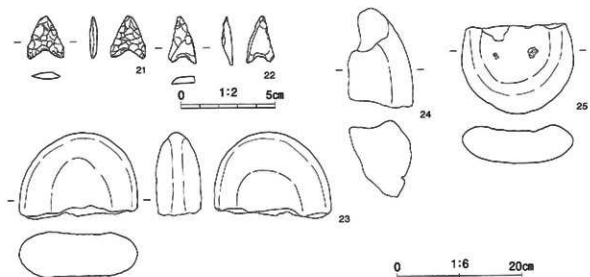
第89圖 土坑出土石器(1)

(1):SK16, 2~4:SK21, 5~7:SK28, 8~9:SK32, 10:SK46, 11:SK53, 12:SK59, 13:SK67)

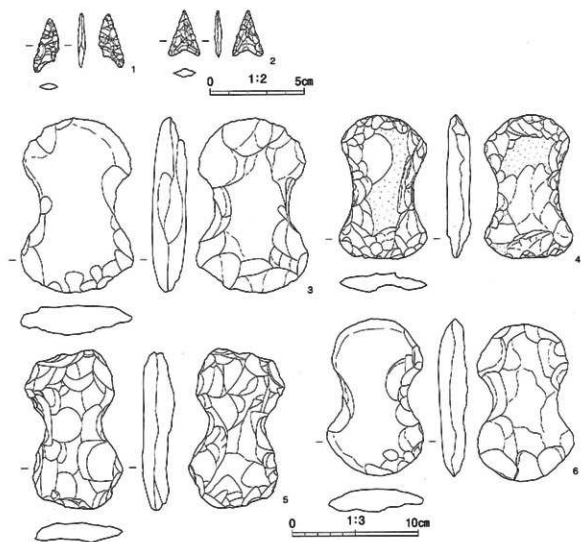


第90圖 土坑出土石器(2)

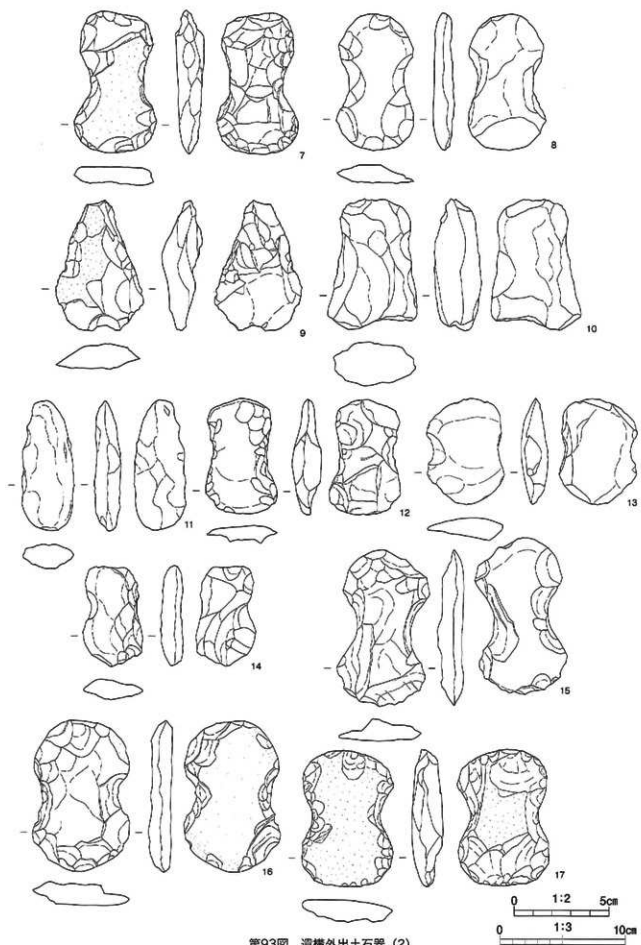
(14:SK83, 15:SK95, 16:SK101, 17:SK102, 18:SK107, 19:SK116, 20:SK135)



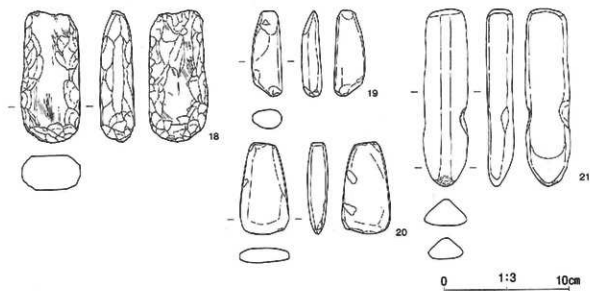
第91圖 土坑出土石器(3)
(21:SK143、22~25:SK150)



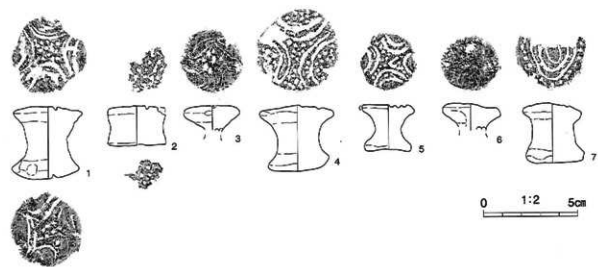
第92圖 遺構外出土石器(1)



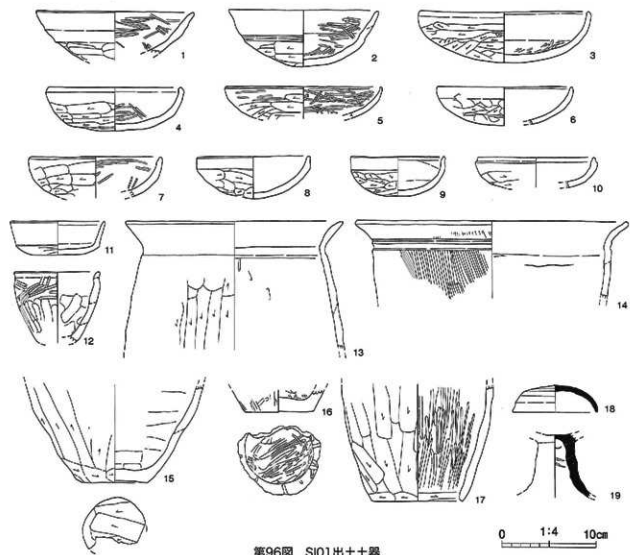
第93圖 遺構外出土石器(2)



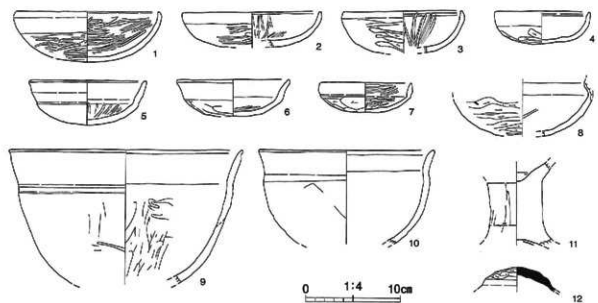
第94図 遺構外出土石器 (3)



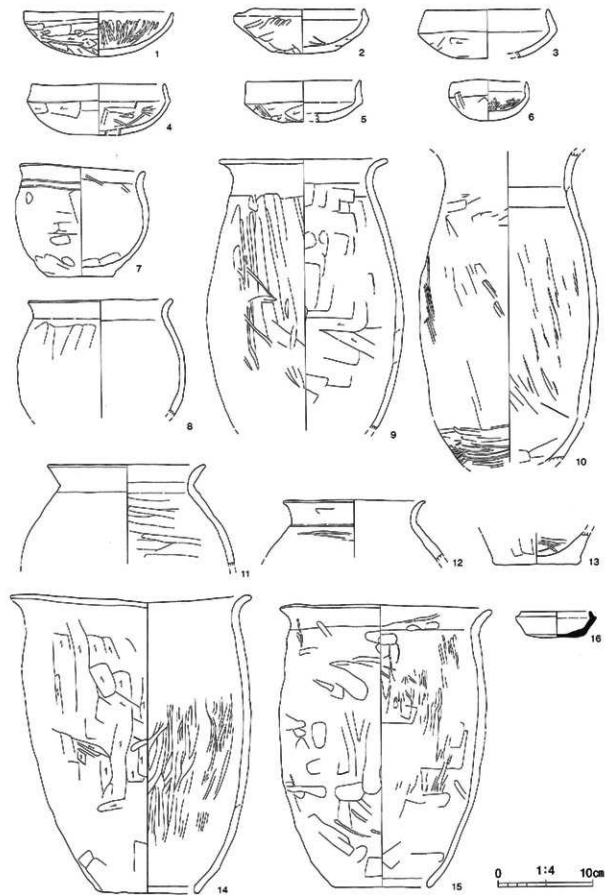
第95図 出土土製耳飾
(1・2:SI02, 3:SK38, 4~7:遺構外)



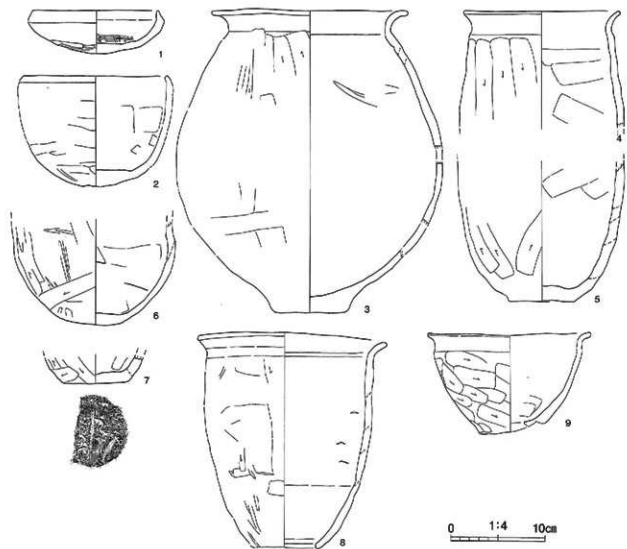
第96图 SI01出土土器



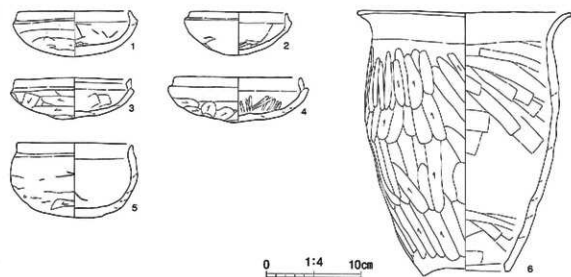
第98图 SI04出土土器



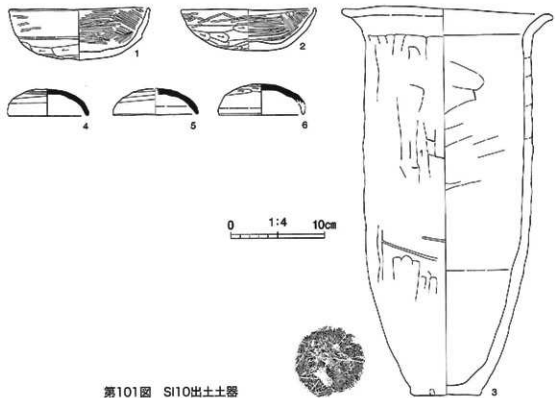
第97圖 S102出土土器



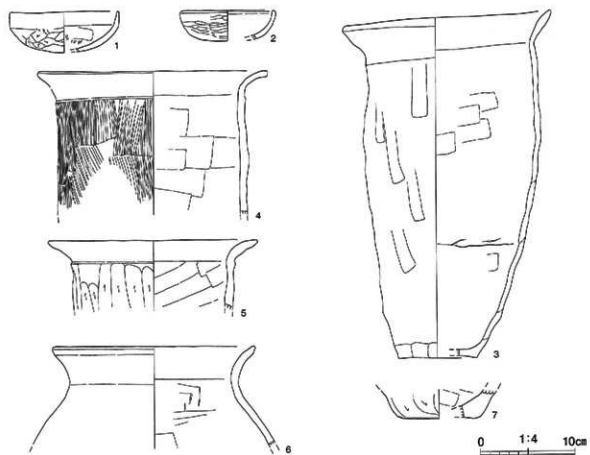
第99图 S108出土土器



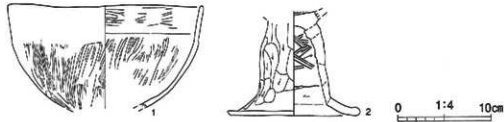
第100图 S109出土土器



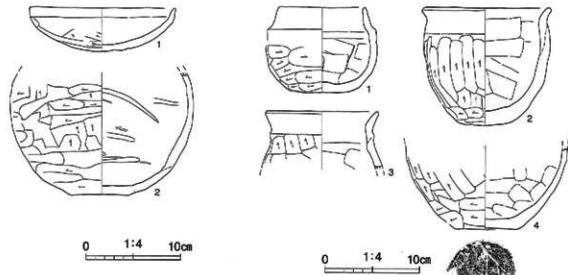
第101图 S110出土土器



第102图 S113出土土器

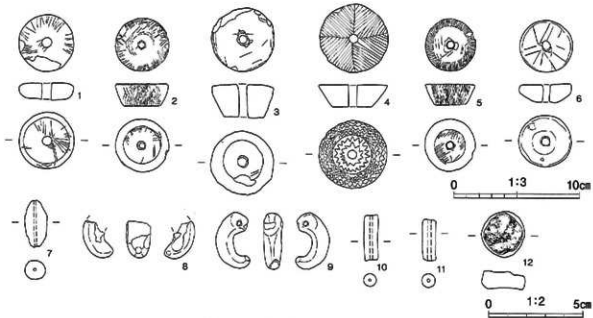


第103図 SI23出土土器



第104図 SI31出土土器

第105図 SD01出土土器



第106図 紡錘車・玉製品・土製品
(1-2:SI01, 3:SI02, 4-10-11:SI10, 5-6-12:SI13, 7~9:SI08)

第2表 SIO1出土土器観察表

No	器種	口径	高さ	底径	形状	形状と装飾の特徴	色相	含有物	焼成	出土位置	備考
1	土師器 杯	18.7	(5.2)	-	-	わずかに絞を打する。外部外編へう張り、内面へう張り。	橙 (5YR6/6)	石灰、雲母 白色微砂粒	良好	№6	8/9残
2	土師器 杯	(16.0)	5.8	-	-	丸底、外部に絞を打する。体部下半外編へう張り、内面へう張り。内面藍色染め。	にぶい橙 (7.5YR6/2)	石灰、雲母 微砂粒	普通	№7	2/3残
3	土師器 杯	18.0	5.45	-	-	丸底、口縁部は短く内転する。外編へう張り、内面へう張り。	外にぶい黄緑 (10YR6/4) 内面にぶい橙 (7.5YR6/4) 黒 (7.5YR2/1)	砂粒 黒色微砂粒	良好	№5	ほぼ定形
4	土師器 杯	14.6	4.5	-	-	丸底、外編へう張り、内面へう張り。	にぶい橙 (7.5YR7/4)	石灰 白色微砂粒 赤色微砂粒	普通	№4	11/12残
5	土師器 杯	(16.6)	(3.4)	-	-	外編へう張り、一線筋き。内面へう張り。	橙 (2.5YR6/6)	石灰 微砂粒	良好	埋土中	1/8残
6	土師器 杯	(14.5)	(3.9)	-	-	丸底、外編へう張り、胴部内面編ともにもスチ付あり。	橙 (5YR6/6)	微砂粒	良好	埋土中	1/4残
7	土師器 杯	(14.1)	(4.2)	-	-	口縁部は短く中や外反する。外編へう張り、内面へう張り。	外にぶい橙 (7.5YR7/4) 内面 (2.5YR7/6)	石灰、雲母 微砂粒	普通	埋土中	1/6残
8	土師器 杯	(12.1)	4.4	-	-	丸底、外編へう張り、口縁部コナデ。	橙 (5YR7/6)	赤色微砂粒	普通	埋土中	1/6残
9	土師器 杯	10.0	4.2	-	-	丸底、口縁部は短く直立ち上り、外編下半へう張り。	暗赤褐 (2.5YR5/8)	微砂粒	良好	埋土中	4/5残
10	土師器 杯	(13.4)	(3.2)	-	-	口縁部をつまみ上げ、体部外編へう張り、内面編ともにも藍色染め。	黒 (10YR2/1)	赤色微砂粒 白色微砂粒	普通	埋土中	1/5残
11	土師器 杯	(10.0)	3.5	3.5	-	体部下半に絞を打する。外編へう張り、内面編ともにもスチ付あり。	にぶい黄緑 (10YR6/4)	白色微砂粒	良好	№14	2/5残
12	土師器 碗	(9.0)	(7.5)	-	-	口縁部は短く内転する。外編上半編へう張り、下半編へう張り。内面藍色染め。内面編ともにも藍色染め。	黒 (5Y2/1)	石灰 白色微砂粒 赤色微砂粒	良好	埋土中	1/4残
13	土師器 盃	(23.0)	(13.5)	-	-	口縁部コナデ、胴部外編へう張り。	外にぶい黄緑 (10YR5/3) 赤 (10YR3/2) 内面 (7.5YR6/6)	白色微砂粒 微砂粒	普通	埋土中	1/16残
14	土師器 盃	(29.0)	(8.1)	-	-	胴部外側に把柄、胴部外面編むき目。	にぶい橙 (5YR6/4)	石灰、微砂粒 白色微砂粒	普通	№11	上半1/8残
15	土師器 盃	-	(10.4)	6.8	-	外編へう張り、内面へう張り。外編へう張り。	外にぶい橙 (5YR6/4) 内面 (7.5YR6/2)	石灰、白色微砂粒 白色微砂粒	普通	埋土中	下半のみ残
16	土師器 盃	-	(2.3)	7.2	-	胴部内へう張り。	外にぶい黄緑 (10YR6/3) 内面 (10YR3/1)	砂粒、白色微砂粒	良好	埋土中	胴部のみ残
17	土師器 盃	-	(12.3)	(9.3)	-	胴部外編へう張り、内面へう張り。	外にぶい橙 (7.5YR6/4) 内面 (5YR6/6)	石灰、白色微砂粒	良好	№2,12	下半1/4残
18	土師器 盃	9.1	2.9	-	-	胴部へう張り、内面わずかにスチ付。	灰白 (2.5Y8/1)	微砂粒	普通	№10	完整
19	土師器 盃	-	(6.9)	-	-		黄灰 (2.5Y9/1)	白色微砂粒	良好	埋土中	胴部のみ残

第3表 SIO2出土土器観察表

No	器種	口径	高さ	底径	形状	形状と装飾の特徴	色相	含有物	焼成	出土位置	備考
1	土師器 杯	15.8	4.9	-	-	丸底、体部外編へう張り、へう張り、内面藍色染めへう張り。	にぶい赤 (2.5YR4/4)	砂粒 白色微砂粒	良好	埋土中	3/4残
2	土師器 杯	13.0	5.2	7.0	-	平底、体部外編へう張り、体部外編へう張り、へう張り、内面へう張り。	外赤黄緑 (10YR4/2) 外にぶい黄緑 (10YR7/3) 内面 (10YR1/1)	白色微砂粒 砂粒、小石	普通	№2	ほぼ定形
3	土師器 杯	(13.2)	(5.0)	-	-	体部外編へう張り、へう張り。	暗赤 (10YR3/1)	砂粒、白色微砂粒	普通	埋土中	2/3残
4	土師器 杯	(14.0)	5.4	-	-	中や平底、体部に絞を打する。体部外編へう張り、へう張り、内面へう張り、へう張り。	外赤 (5YR6/6) 黒 (10YR3/1) 外にぶい橙 (7.5YR6/4) 暗赤 (10YR4/1)	白色微砂粒 白色微砂粒 砂粒	良好	№32	3/4残
5	土師器 杯	(12.2)	(4.4)	-	-	丸底、体部下半へう張り、へう張り。	外にぶい黄緑 (10YR6/3) 内面 (10YR3/2)	砂粒、黒色微砂粒 白色微砂粒	普通	埋土中	1/4残
6	土師器 杯	(8.2)	(4.3)	-	-	丸底、外編へう張り、へう張り、内面へう張り、へう張り。	橙 (2.5Y2/1)	白色微砂粒 砂粒	良好	№1	ほぼ定形
7	土師器 小笠蓋	13.3	12.1	7.0	-	平底、胴部外編へう張り、内面へう張り、へう張り。	にぶい暗赤 (7.5YR6/4) 橙 (5YR6/6) にぶい黄 (7.5YR5/3)	砂粒	良好	№36	ほぼ定形
8	土師器 小笠蓋	(15.2)	(12.4)	-	-	環状型、胴部外編へう張り。	外赤黄 (7.5YR4/2) 橙 (5YR6/6) 内赤黄 (7.5YR3/1)	黒色微砂粒 砂粒	普通	カマF №1	1/5残
9	土師器 盃	(18.0)	(26.5)	-	-	長頸型、口縁部コナデ、胴部外編へう張り、一部へう張り。内面工具痕。	外赤 (7.5YR6/6) 内赤黄 (10YR7/4) 外赤 (7.5YR6/6)	砂粒 黄色微砂粒	良好	カマF №1	1/2残
10	土師器 盃	-	(33.5)	-	-	長頸型、胴部コナデ、胴部外編へう張り、へう張り。胴部目、内面へう張り。	にぶい橙 (7.5YR6/4) 内赤黄 (10YR7/4) 灰黄緑 (10YR6/2)	白色微砂粒 砂粒	良好	№35	1/2残
11	土師器 盃	(16.6)	(10.4)	-	-	口縁部コナデ、胴部内編へう張り。	外にぶい黄緑 (10YR7/3) 外にぶい黄緑 (10YR6/4)	砂粒	普通	埋土中	口縁部のみ残
12	土師器 盃	(15.0)	(6.8)	-	-	口縁部コナデ、胴部外編へう張り。	外にぶい橙 (7.5YR6/4) 外にぶい黄緑 (10YR6/4)	砂粒 白色微砂粒	普通	埋土中	口縁部のみ残

13	土師師 魂	-	(3.4)	(8.8)	内外面ともにヘラナデ。底外面へう磨り。	外-灰黄褐色(10YR5/2) 内-黒褐色(10YR3/1)	白色顔料 砂粒、小石	良好	埋土中	脚部のみ残
14	土師師 魂	(25.8)	31.6	(11.0)	長形器、胴部外面へう磨り、ヘラナデ、内面へラナデ、ヘラ磨き。	外-灰黄褐色(10YR5/2) 内-黒褐色(10YR3/3) 内-黒褐色(10YR4/1) 内-黒褐色(10YR3/3)	砂粒 黒色顔料	良好	N44	3/4残
15	土師師 魂	(22.5)	30.0	10.5	長形器、胴部外面へう磨り、ヘラナデ、一部へう磨り、内面へラナデ、ヘラ磨き。	外-にぶい黄褐色(10YR7/3) 黒褐色(10YR3/2) 内-黒褐色(10YR3/2) 内-黒褐色(10YR3/3)	砂粒 白色顔料	普通	N43	9/10残
16	紅土師 魂	7.3	2.7	6.4	文部を有する。底面凹陥へう磨り、底面外縁ニス付。	外-にぶい黄褐色(10YR5/4)	黄砂粒	不良	N42	完形

第4表 Si03出土土器観察表

編	器種	寸法 (cm)			形状と装飾の特徴	色調	含有物	焼成	出土位置	備考
		口径	高さ	底径						
1	土師師 魂	-	(2.0)	(8.0)	平底、底外面へう磨り。	外-にぶい黄褐色(10YR6/4) 内-黒褐色(10YR6/2)	砂粒 白色顔料	普通	埋土中	底面1/2残

第5表 Si04出土土器観察表

編	器種	寸法 (cm)			形状と装飾の特徴	色調	含有物	焼成	出土位置	備考
		口径	高さ	底径						
1	土師師 杯	(15.2)	5.3	-	丸底、内外面ともにへう磨き。	明赤褐色(2.5YR5/8)	黒砂粒	良好		2/3残
2	土師師 杯	(14.4)	(3.65)	-	体部外面前向きへう磨き。内面は放射状にへう磨き。	灰色(5YR6/6) 灰褐色(5YR4/2)	白色顔料	良好	埋土中	1/4残
3	土師師 杯	(12.6)	(4.4)	-	体部外面へう磨り、内面は放射状にへう磨き。	外-灰(7.5YR7/6) 内-にぶい黄(7.5YR7/4)	砂粒 黒色顔料	良好	埋土中	1/6残
4	土師師 魂	10.1	3.5	-	口縁部コナデ、体部下部へう磨り。	黄(2.5Y/6)	石灰 黄砂粒	良好	埋土中	7/8残
5	土師師 杯	(12.2)	(4.7)	-	丸底、体部に文を有する。内面は放射状にへう磨き。	外-にぶい黄(7.5YR7/4) 内-にぶい黄(7.5YR6/4)	黒色顔料	普通	埋土中	1/4残
6	土師師 杯	(12.0)	3.9	-	体部に文を有する。外周へう磨り、内面へう磨き。	外-にぶい黄褐色(10YR5/3) 内-にぶい黄(7.5YR7/4)	粗砂粒	普通	埋土中	1/3残
7	土師師 杯	(9.6)	3.1	-	口縁部コナデ、体部に放射状、外周へう磨り、内面へう磨き。	明赤褐色(5YR5/6)	白色砂粒	良好	埋土中	1/2残
8	土師師 杯	-	(5.9)	-	体部外面へう磨り、内面へう磨き。内外面ともに黒色処理。	灰(10YR1/7)	白色顔料 黄砂粒	普通	埋土中	1/6残 底面あり
9	土師師 杯	(24.6)	(14.1)	-	体部にわずかに文を有する。	外-にぶい黄褐色(10YR5/3) 内-黒褐色(5YR5/4) 内-黒褐色(5YR2/1)	砂粒 白色顔料	良好	埋土中	1/4残
10	土師師 杯	(8.2)	(5.9)	-	口縁部コナデ。	外-にぶい黄褐色(10YR5/3) 内-黄褐色(10YR6/4)	白色顔料	普通	埋土中	1/4残
11	土師師 魂	-	(8.8)	-	腹方へう磨り。	外-にぶい黄褐色(10YR7/3)	砂粒 黒色顔料	良好	不明	脚部のみ残
12	紅土師 魂	-	(2.6)	-	外面へう磨り。	灰白(2.5Y7/1)	黄砂粒	普通	埋土中	2/3残

第6表 Si08出土土器観察表

編	器種	寸法 (cm)			形状と装飾の特徴	色調	含有物	焼成	出土位置	備考
		口径	高さ	底径						
1	土師師 杯	13.2	4.6	-	丸底、口縁部は内磨りする。底面外面へう磨り、内面へラナデ、内面へう磨き。内面黒色処理。	外-黒(2.5Y2/1) 内-黒褐色(5YR4/1)	長石、石英 砂粒 粗砂粒	普通	N41	44残完形
2	土師師 杯	(14.8)	11.7	-	丸底、内面へラナデ。	黄(5YR6/6) 粗砂粒(5YR3/2)	白色顔料	普通	N48	3/4残
3	土師師 魂	(20.8)	31.8	8.0	球状器、平底、胴部外面へラナデ。	外-黒(10YR2/1) 砂褐色(5YR4/5) にぶい黄褐色(10YR7/4) 内-灰黄褐色(10YR5/2)	砂粒 白色顔料	普通		2/3残
4	土師師 魂	(16.0)	(12.3)	-	長形器、胴部外面へう磨り、内面へラナデ、内面へう磨き、ニス付。	にぶい黄(7.5YR6/4)	石灰、長石 石英、粗砂粒	普通	N416	上半のみ残
5	土師師 魂	-	(14.0)	6.9	長形器、胴部外面へう磨り、内面へラナデ。	外-灰黄(7.5YR6/2) 内-にぶい黄(7.5YR6/4)	石灰、長石 石英、粗砂粒	普通	N419	下半のみ残
6	土師師 魂	-	(11.2)	-	丸底、文みあり、胴部外面へラナデ、ヘラ磨り、内面にニス付。	外-にぶい黄褐色(10YR6/4) 黒褐色(10YR4/2)	砂粒、小石	良好	N43	下半のみ残
7	土師師 魂	-	(3.1)	7.0	平底、底面に文を有する。外周へう磨り、内面へラナデ。	にぶい黄(7.5YR6/3)	石灰、長石 粗砂粒	普通	N416	底面2/3残
8	土師師 魂	20.2	12.8	(7.2)	胴部外面へラナデ、ヘラ磨り。	外-にぶい黄褐色(7.5YR6/4) 内-にぶい黄(7.5YR5/4)	黒色顔料 白色顔料	良好	N416	3/4残
9	土師師 魂	(17.4)	10.5	-	胴部外面の砂粒が、体部外面へう磨り、内面へラナデ。口縁部コナデ。	外-にぶい黄褐色(10YR5/3) 内-黒褐色(7.5YR4/1)	石灰、長石 石英、砂粒	良好	N42	3/4残

第7表 Si09出土土器観察表

編	器種	寸法 (cm)			形状と装飾の特徴	色調	含有物	焼成	出土位置	備考
		口径	高さ	底径						
1	土師師 杯	11.8	4.8	-	丸底、口縁部は黒く内磨り、体部外面へう磨り、内面へラナデ。	外-にぶい黄褐色(10YR6/3) 内-黒褐色(10YR3/2)	白色顔料	良好	N424	44残完形
2	土師師 杯	10.2	5.6	-	丸底、文部を有する。外周へラナデ。	黄(10YR6/4) 黒褐色(10YR3/1)	白色顔料 砂粒	良好	N44	44残完形

4	土師部 坪	12.3	4.4	-	丸底, 受部を有する, 内面へラナデ, 内面へラナデ。	にぶい・煎灰(10YR7/3)	石灰、内炭石 白色細砂粒	良好	埋土中	7/8段
4	土師部 坪	13.3	4.8	-	丸底, 受部を有する, 内面へラナデ, 内面へラナデ, 内面にも白色細砂粒。	灰濁(7.5YR5/2)	石灰、長石 白色細砂粒	普通	No.24	18段完形
5	土師部 坪	12.2	7.9	-	口縁部わずかに外反, 底部外面へラナデ, 内面へラナデ。	外・灰濁(10YR5/2) にぶい・煎灰(5YR5/4) 内・灰濁(10YR4/1)	白色細砂粒 砂粒	良好	No.3	11段完形
6	土師部 底	22.7	27.8	9.0	口縁部コナデ, 胴部外面へラナデ, 内面へラナデ。	灰濁(10YR10/2)	石灰、白色細砂粒 白色細砂粒	良好	No.1,2	11段完形

第8表 S110出土土器観察表

No.	部類	口径	高さ	底径	形状と装飾の特徴	色調	含有物	焼成	出土位置	備考
1	土師部 坪	14.9	5.4	-	丸底, 体部に線を有する, 底部外面へラナデ, 内面へラナデ。	にぶい・煎灰(7.5YR6/4)	石灰、長石、砂粒 細砂粒	普通	No.7	11/12段
2	土師部 坪	14.4	4.4	-	体部外面へラナデ, 上半はへラナデ, 内面へラナデ, 内面にも白色細砂粒。	灰濁(10YR6/2)	石灰、長石 白色細砂粒	良好	No.11	完形
3	土師部 底	(22.5)	41.1	7.2	丸底を有する平底, 体部はへラナデ, へラナデ。	外・にぶい・煎灰(7.5YR7/4) 内・にぶい・煎灰(5YR7/6) 内・増色(7.5YR6/6) にぶい・増色(7.5YR6/2)	白色細砂粒 砂粒 黄褐色小石	普通	埋土中 カマド	7/8段
4	土師部 底	8.5	2.8	-	天弁部外面へラナデ。	灰(10Y5/1)	白色細砂粒	良好	No.9	完形
5	土師部 底	(9.1)	2.8	-	天弁部外面へラナデ。	外・灰濁(2.5Y6/2) 内・灰濁(10.5Y7/1)	微細砂粒	普通	No.1	1/2段
6	土師部 底	(9.3)	3.3	-	天弁部外面へラナデ。	灰(7.5Y6/1) 灰(5Y7/1)	石灰、長石 微細砂粒	普通	埋土中	5/6段

第9表 S113出土土器観察表

No.	部類	口径	高さ	底径	形状と装飾の特徴	色調	含有物	焼成	出土位置	備考
1	土師部 坪	(11.6)	(4.0)	-	丸底, 外面へラナデ, 内面へラナデ, へラナデ。	にぶい・煎灰(7.5YR6/4) 内(7.0YR2/1)	灰色砂粒 白色細砂粒、砂粒	良好	埋土中	1/4段
2	土師部 坪	(10.2)	(3.1)	-	外面へラナデ, 内面へラナデ。	灰(5YR6/6)	砂粒、白色細砂粒 白色細砂粒	良好	埋土中	1/8段
3	土師部 底	22.1	36.7	(8.4)	丸底, 胴部外面へラナデ, 胴部外面, 胴部外面へラナデ。	にぶい・増色(5YR5/3)	石灰、白色細砂粒 白色細砂粒、長石	普通	埋土中	1/2段
4	土師部 底	(24.2)	(15.2)	-	長家型, 体部外面に斜毛目, 内面へラナデ, 口縁部コナデ。	にぶい・煎灰(5YR6/4)	石灰 白色細砂粒	不良	No.1	上半のみ残
5	土師部 底	(22.0)	(7.4)	-	胴部外面へラナデ, 内面へラナデ。	にぶい・煎灰(7.5YR6/3)	石灰、細砂粒 細砂粒	良好	No.2	口縁部1/4段
6	土師部 底	(21.4)	(10.8)	-	口縁部コナデ, 胴部外面へラナデ。	外・にぶい・煎灰(7.5YR6/4) にぶい・増色(7.0YR2/3) 内・にぶい・灰濁(10YR6/4) 灰濁(10YR5/2)	細砂粒 雲母	良好	埋土中	1/10段
7	土師部 底	-	(3.0)	(8.8)	胴部外面へラナデ, 内面へラナデ。	外・にぶい・煎灰(7.5Y7/4) 内・灰濁(10YR6/2)	長石 粗砂粒	普通	埋土中	底部1/2段

第10表 S123出土土器観察表

No.	部類	口径	高さ	底径	形状と装飾の特徴	色調	含有物	焼成	出土位置	備考
1	土師部 坪	(20.8)	(10.0)	-	体部わずかに線を有する, 体部外面に斜毛目, 内面は段状時にへラナデ。	外・灰濁(10YR8/4) にぶい・増色(10YR6/3) 内・灰濁(10YR5/1)	砂粒 白色砂粒	良好	No.3	2/5段
2	土師部 底	-	(11.0)	-	胴部底は丸みをもち, コナデ, 外面へラナデ, 内面へラナデ, 斜毛目。	外・にぶい・煎灰(7.5YR7/3) 内・煎灰(5YR6/6)	石灰 白色細砂粒	良好	No.8	胴部のみ残

第11表 S131出土土器観察表

No.	部類	口径	高さ	底径	形状と装飾の特徴	色調	含有物	焼成	出土位置	備考
1	土師部 坪	(15.5)	4.7	-	丸底, 口縁部コナデ, 体部外面へラナデ, 内面へラナデ, 内面にも白色細砂粒。	外・灰濁(10YR8/4) にぶい・増色(10YR6/3) 内・灰濁(10YR5/1) 内・増色(2.5YR5/6)	細砂粒 雲母	良好	No.1	3/4段
2	土師部 底	-	(12.8)	6.5	球状型, 胴部外面へラナデ, 内面へラナデ。	灰濁(10YR8/3)	砂粒 白色細砂粒	良好	No.1	1/3段

第12表 SDO1出土土器観察表

No.	部類	口径	高さ	底径	形状と装飾の特徴	色調	含有物	焼成	出土位置	備考
1	土師部 坪	(0.4)	8.8	3.8	内面へラナデ, 内面へラナデ, 口縁部コナデ, 内面にも白色細砂粒。	外・灰濁(7.5YR4/2) 内・泥(7.5YR2/1)	石灰、長石、雲母 細砂粒	普通	埋土中	1/2段
2	土師部 小皿型	(13.8)	12.4	-	ほぼ丸底, 胴部外面へラナデ, 内面へラナデ, 内面にも白色細砂粒。	外・灰濁(5YR6/6)	石灰、長石 白色細砂粒	普通	埋土中	1/2段
3	土師部 底	(12.2)	(6.0)	-	胴部外面へラナデ, 内面へラナデ。	外・にぶい・煎灰(7.5YR6/3) 内・灰濁(10YR4/1)	石灰、細砂粒 細砂粒、長石	良好	埋土中	口縁部1/4段
4	土師部 底	-	(8.8)	6.7	丸底を有する平底, 胴部外面へラナデ, 内面へラナデ。	外・にぶい・増色(5YR5/4) 内・灰濁(5YR5/2)	石灰、長石、雲母 細砂粒、細砂粒	良好	埋土中	下半のみ残

第13表 SI01出土石器計測表

No	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地点
1	打製石斧	10.5	6.6	2.4	194.48	黒沢石	埋土中
2	スクレイパー	5.0	3.3	1.4	17.82	砂岩	埋土中

第14表 SI02出土石器計測表

No	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地点
1	打製石斧	(4.3)	2.0	1.1	19.09	緑色岩	埋土中

第15表 SI03出土石器計測表

No	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地点
1	石鏃	(2.3)	1.8	0.3	0.83	チャート	埋土中

第16表 SI04出土石器計測表

No	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地点
1	打製石斧	10.1	7.1	1.5	183.63	黒沢石	埋土中

第17表 SI05出土石器計測表

No	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地点
1	剥片石鏃	2.8	2.1	0.8	5.01	チャート	埋土中
2	磨製石斧	(11.3)	(4.9)	2.4	238.89	緑色岩	No.1

第18表 SI06出土石器計測表

No	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地点
1	打製石斧	(4.5)	2.1	0.9	12.65	砂岩	埋土中
2	打製石斧	8.1	5.4	1.4	91.14	流紋岩	埋土中

第19表 SI09出土石器計測表

No	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地点
1	石鏃	2.3	1.6	0.4	1.03	チャート	埋土中

第20表 SI10出土石器計測表

No	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地点
1	石鏃	2.9	(1.9)	0.6	1.90	チャート	埋土中
2	石鏃	2.8	1.6	0.5	1.31	チャート	埋土中
3	石鏃	(2.8)	(1.0)	0.35	1.16	チャート	埋土中
4	石鏃	2.5	2.1	0.8	2.91	黒曜石	埋土中
5	石鏃	2.2	(1.7)	0.5	1.10	チャート	埋土中
6	石鏃	(2.2)	(1.4)	0.4	0.82	玄武岩	埋土中
7	石鏃	2.1	(1.8)	0.5	1.41	珠貫頁岩	埋土中
8	石鏃	2.1	2.0	0.2	0.68	安山岩	埋土中
9	石鏃	(2.1)	(1.7)	0.4	0.99	チャート	埋土中
10	石鏃	2.0	2.0	0.5	1.39	チャート	埋土中
11	石鏃	1.9	1.7	0.3	0.72	珠貫頁岩	埋土中
12	石鏃	1.9	1.5	0.3	0.59	チャート	埋土中
13	石鏃	1.9	(1.0)	0.4	0.47	チャート	埋土中
14	石鏃	1.8	1.2	0.3	0.49	チャート	埋土中
15	石鏃	(1.6)	(1.9)	0.35	1.00	チャート	埋土中
16	尖頭鏃	3.9	1.5	0.4	2.04	珠貫頁岩	埋土中
17	尖頭鏃	3.9	2.1	0.6	3.95	珠貫頁岩	埋土中
18	尖頭鏃	3.2	2.25	0.9	5.39	黒曜石	埋土中
19	尖頭鏃	3.1	2.25	0.85	4.66	チャート	埋土中
20	尖頭鏃	3.0	1.9	0.45	2.33	チャート	埋土中
21	尖頭鏃	2.8	1.7	0.6	2.49	砂岩	埋土中
22	尖頭鏃	2.7	1.6	0.3	1.29	黒曜石	埋土中
23	尖頭鏃	2.2	1.2	0.5	0.96	チャート	埋土中
24	石鏃	5.7	1.4	0.4	2.36	黒曜石	埋土中

25	石鏃	2.7	1.0	0.4	0.89	チャート	埋土中
26	打製石斧	13.7	8.1	3.1	493.33	流紋岩	No.42
27	打製石斧	9.8	6.2	1.8	138.58	安山岩	埋土中

第21表 SI11出土石器計測表

No	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地点
1	石鏃	(25.7)	21.4	9.1	4900	安山岩	No.2

第22表 SI12出土石器計測表

No	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地点
1	石鏃	2.2	1.5	0.4	0.76	チャート	埋土中
2	石鏃?	2.4	1.7	0.7	2.05	珠貫頁岩	埋土中
3	石鏃?	2.1	1.2	0.35	0.53	チャート	埋土中
4	石鏃	3.2	2.15	0.8	4.89	チャート	埋土中
5	尖頭鏃?	3.1	2.8	1.1	7.96	流紋岩	埋土中
6	石鏃	7.2	6.4	1.4	38.07	珠貫頁岩	埋土中
7	磨製石斧	8.2	4.6	2.1	137.38	流紋岩	No.7
8	磨製石斧	(6.9)	4.0	(2.0)	86.82	流紋岩	埋土中

第23表 SI13出土石器計測表

No	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地点
1	石鏃	2.4	2.0	0.5	1.64	砂岩	埋土中
2	石鏃	2.2	(1.8)	0.38	0.89	砂岩	埋土中
3	石鏃	2.1	1.5	0.28	0.65	チャート	埋土中
4	石鏃	2.1	(1.0)	0.4	1.13	流紋岩	埋土中
5	石鏃	1.9	(1.0)	0.3	0.53	珠貫頁岩	埋土中
6	石鏃	(1.8)	1.7	0.4	0.62	チャート	埋土中
7	石鏃	1.6	1.3	0.3	0.42	チャート	埋土中
8	石鏃	(1.6)	1.5	0.4	0.51	黒曜岩	埋土中
9	石鏃	(1.6)	(1.4)	0.3	0.55	チャート	埋土中
10	尖頭鏃?	2.8	2.3	0.8	5.18	黒曜岩	埋土中
11	石鏃?	(2.4)	(0.6)	(0.5)	0.59	チャート	埋土中
12	剥片石鏃	3.0	2.7	0.7	7.08	チャート	埋土中
13	打製石斧	14.6	10.2	3.1	422.01	安山岩	埋土中
14	打製石斧	11.8	6.7	2.0	211.35	安山岩	埋土中
15	磨製石斧	(9.8)	5.8	2.4	295.98	流紋岩	埋土中

第24表 SI15出土石器計測表

No	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地点
1	剥片石鏃	2.3	2.1	0.6	3.16	チャート	埋土中
2	打製石斧	10.3	6.7	0.8	109.81	安山岩	埋土中

第25表 SI20出土石器計測表

No	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地点
1	石斧	31.55	22.4	6.4	4370	砂岩	No.13

第26表 SI22出土石器計測表

No	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地点
1	打製石斧	10.8	6.6	1.4	115.19	黒沢石	No.14
2	磨石	12.6	8.3	4.2	829.39	安山岩	No.47
3	石鏃	29.5	26.3	10.2	7480	安山岩	No.46

第27表 SI23出土石器計測表

No	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地点
1	打製石斧	14.3	9.1	2.5	361.45	安山岩	No.16
2	石鏃	(25.7)	26.0	13.0	7840	黒沢石	No.14

第28表 SI24出土石器計測表

№	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地点
1	石鏃	2.3	1.6	0.6	1.27	チャート	上層

第29表 SI25出土石器計測表

№	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地点
1	石鏃	3.25	2.55	1.0	7.16	チャート	埋土中

第30表 SI26出土石器計測表

№	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地点
1	打製石斧	10.3	7.8	1.8	177.99	安山岩	№12
2	石皿	39.5	25.0	11.0	10.4kg	安山岩	№28

第31表 SI30出土石器計測表

№	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地点
1	磨石	13.6	8.0	4.8	786.36	安山岩	№17
2	石皿	(13.3)	(15.9)	7.3	2050	安山岩	№15

第32表 SI31出土石器計測表

№	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地点
1	石皿	(38.0)	25.6	11.0	9255	安山岩	南群

第33表 SD01出土石器計測表

№	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地点
1	石鏃	1.9	1.9	0.6	1.71	チャート	埋土中

第34表 土坑出土石器計測表

№	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地点
1	磨製石斧	(10.2)	(5.2)	3.6	314.11	灰岩	SK168a17
2	ヌクタイバー	(5.8)	2.5	0.7	10.63	灰岩	SK21埋土中
3	打製石斧	12.5	7.3	2.1	226.11	凝灰岩	SK21埋土中
4	打製石斧	12.4	8.6	1.7	245.11	凝灰岩	SK21埋土中
5	打製石	2.2	1.2	0.4	0.76	流紋岩	SK28埋土中
6	石鏃	(1.8)	(1.5)	0.3	0.47	紅色岩	SK28埋土中
7	流紋石斧	(12.0)	(5.0)	3.2	315.36	砂岩	SK28埋土中
8	打製石斧	11.4	7.6	1.7	142.70	凝灰岩	SK32埋土中
9	磨石	4.8	5.0	1.9	47.32	砂岩	SK32埋土中
10	石鏃	2.35	1.7	0.5	1.46	チャート	SK46埋土中
11	石鏃	2.8	1.8	0.45	1.00	チャート	SK53埋土中
12	磨石	16.2	8.6	3.9	895.05	凝灰岩	SK59埋土中
13	石鏃	2.6	1.6	0.4	1.16	チャート	SK67埋土中
14	磨製石斧	10.8	5.2	3.6	341.47	砂岩	SK83№1
15	磨石	35.3	20.0	12.5	9330	砂岩	SK95
16	石鏃	2.7	1.5	0.4	1.13	流紋岩	SK101埋土中
17	石皿	(42.1)	(26.4)	20.5	17.6kg	凝灰岩	SK102№1
18	石鏃	5.2	(3.7)	0.7	8.18	チャート	SK107上層
19	石鏃	2.3	1.6	0.4	0.80	チャート	SK116上層
20	磨石	14.3	8.9	5.5	1030	安山岩	SK135№17
21	石鏃	(2.3)	1.9	0.4	1.20	チャート	SK143埋土中
22	石鏃	2.5	1.5	0.4	1.22	玉髄	SK144埋土中
23	石皿	(13.2)	18.5	7.4	2292	砂岩	SK150
24	石皿	(16.8)	(10.3)	12.1	1325	凝灰岩	SK150№3
25	石皿	(14.4)	17.8	6.0	2375	凝灰岩	SK150№1

第35表 遺構外出土石器計測表

№	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石質	出土地点
1	石鏃	2.85	(10.3)	0.3	0.84	チャート	A埋土中

2	石鏃	2.4	1.6	0.4	0.84	チャート	武蔵
3	打製石斧	13.0	8.8	2.8	312.13	砂岩	B2区埋土中
4	打製石斧	13.5	6.9	1.0	179.78	安山岩	B3区埋土中
5	打製石斧	12.7	7.7	1.6	219.24	凝灰岩	B1区埋土中
6	打製石斧	12.6	7.6	1.8	243.17	凝灰岩	B2区埋土中
7	打製石斧	11.3	6.5	1.5	179.63	安山岩	B2区埋土中
8	打製石斧	10.8	6.2	10.6	127.44	安山岩	B2区埋土中
9	打製石斧	10.4	6.9	2.1	152.00	凝灰岩	B1区埋土中
10	打製石斧	(10.4)	7.1	3.5	335.52	凝灰岩	B1区埋土中
11	打製石斧?	10.3	4.1	2.0	105.80	凝灰岩	B2区埋土中
12	打製石斧	9.1	5.7	1.1	108.08	安山岩	B2区埋土中
13	打製石斧	8.5	(0.2)	1.8	119.76	かんらん岩	B1区埋土中
14	打製石斧	7.9	4.8	1.6	60.74	凝灰岩	B1区埋土中
15	打製石斧	12.3	6.9	1.9	188.23	安山岩	武蔵
16	打製石斧	12.0	7.6	1.8	212.70	安山岩	武蔵
17	磨製石斧	10.85	7.2	1.8	249.64	安山岩	武蔵
18	磨製石斧?	10.45	4.65	2.7	229.89	凝灰岩	武蔵
19	磨製石斧?	(6.85)	(2.35)	1.5	35.08	砂岩	武蔵
20	磨製石斧	7.25	3.9	1.5	79.14	凝灰岩	武蔵
21	?	14.0	3.6	2.1	134.53	流紋岩	武蔵

第36表 縄文時代土坑一覧 (単位: cm)

坑	口蓋	底蓋	深さ	平面形	断面形
SK111	297×(156)	238×(147)	25	楕円形	皿状
SK01	297×(156)	238×(147)	25	楕円形	皿状
SK02	(162)×(65)	(174)×(68)	47	楕円形	袋状
SK03	(95)×(70)	(108)×(87)	41	円形?	袋状
SK04	218×(105)	216×(107)	62	円形	円筒状
SK05	180×167	233×198	72	楕円形	袋状
SK06	218×215	202×253	75	円形	袋状
SK07	(130)×(68)	(229)×(109)	74	楕円形	袋状
SK08	(191)×(169)	255×214	41	楕円形	袋状
SK09	238×155	229×177	47	楕円形	袋状
SK10	124×113	78×73	40	円形	皿状
SK11	305×209	288×276	29	円形	円筒状
SK12	186×167	197×173	69	円形	円筒状
SK13	165×162	194×191	75	円形	袋状
SK14	(245)×(129)	(243)×(132)	79	円形?	袋状
SK15	151×(73)	152×(69)	68	楕円形	円筒状
SK16	152×124	220×195	92	楕円形	袋状
SK17	136×(132)	235×231	64	円形	袋状
SK18	193×(80)	220×(98)	56	楕円形	袋状
SK19	(125)×(90)	(130)×(118)	82	楕円形	袋状
SK20	(140)×(135)	(145)×(135)	78	円形?	袋状
SK21	243×(141)	187×(134)	40	楕円形	皿状?
SK22	213×165	204×171	51	楕円形	円筒状
SK23	108×103	92×84	66	円形	円筒状
SK24	(159)×(103)	(222)×(156)	77	楕円形	袋状
SK25	193×192	236×197	79	円形?	袋状?
SK26	184×136	170×121	62	楕円形	円筒状
SK27	(110)×(84)	(232)×(218)	90	円形	袋状
SK28	213×(183)	229×(195)	87	円形?	円筒状
SK29	(58)×(56)	(52)×(51)	51	円形?	円筒状
SK30	113×104	224×196	78	楕円形	袋状
SK31	(108)×(85)	(103)×(79)	59	方形?	円筒状
SK32	156×154	218×204	93	楕円形	袋状
SK33	197×185	169×167	21	円形	円筒状

No	口径	底径	厚度	平圆形	新圆形
SK34	136×118	114×105	74	前门形	凹圆状
SK35	87×(65)	100×(68)	65	凹形?	袋状
SK36	131×128	113×112	26	凹形	凹圆状
SK37	202×192	238×213	74	凹形	袋状
SK38	148×141	267×220	64	凹形	袋状
SK39	161×147	143×133	22	前门形	凹圆状
SK40	164×138	187×168	57	前门形	袋状
SK41	144×135	243×198	84	凹形	袋状
SK42	(193)×185	(187)×162	49	前门形	凹圆状
SK43	91×82	69×58	71	凹形	凹圆状
SK44	(193)×187	(184)×169	37	前门形	凹圆状
SK45	181×179	103×155	66	凹形	凹圆状
SK46	(74)×93	(85)×124	52	凹形?	袋状
SK49	(58)×105	(54)×93	24	凹形?	凹圆状
SK50	199×(110)	126×(101)	38	凹形?	凹圆状
SK51	(130)×114	175×159	78	前门形	袋状
SK52	134×128	158×135	68	凹形	袋状
SK53	(93)×98	(123)×146	77	前门形	袋状
SK54	153×131	244×217	107	前门形	袋状
SK55	(142)×129	(133)×104	38	前门形	凹圆状
SK56	126×109	105×84	67	前门形	凹圆状
SK57	265×(195)	272×(170)	56	前门形	凹圆状
SK58	263×(235)	306×(238)	72	前门形	袋状
SK59	165×(148)	206×(164)	93	前门	袋状
SK61	124×117	88×65	42	前门形	凹圆状
SK62	98×(90)	63×(48)	33	凹形?	凹圆状
SK63	78×78	57×56	34	凹形	凹圆状
SK64	97×88	73×68	21	前门形	凹圆状
SK65	71×70	57×53	30	凹形	凹圆状
SK66	(163)×(81)	(79)×(40)	53	凹形?	凹圆状
SK67	112×103	88×83	64	凹形	凹圆状
SK68	(125)×112	(120)×94	43	前门形	凹圆状
SK69	118×(92)	91×84	46	前门?	凹圆状
SK70	202×(181)	(193)×167	45	前门	凹圆状
SK71	228×(112)	258×(143)	103	前门?	袋状
SK72	87×83	112×104	78	凹形	袋状
SK73	96×91	74×72	19	凹形	凹圆状
SK74	108×89	87×72	16	前门形	凹圆状
SK75	132×121	175×167	90	凹形	袋状
SK76	116×108	91×84	44	凹形	凹圆状
SK77	101×88	60×59	25	凹形	凹圆状
SK78	136×(87)	213×(168)	98	凹形?	袋状
SK79	116×115	91×90	21	凹形	凹圆状
SK80	96×90	62×59	45	凹形	凹圆状
SK81	96×(52)	43×(40)	42	凹形?	凹圆状
SK82	118×(65)	93×(34)	39	凹形?	凹圆状
SK83	93×85	68×53	22	前门形	凹圆状
SK84	155×142	129×112	28	前门形	凹圆状
SK85	90×86	78×68	19	前门形	凹圆状
SK86	150×(131)	132×(122)	17	凹形	凹圆状
SK87	90×77	66×57	41	前门形	凹圆状
SK88	83×82	62×59	18	凹形	凹圆状
SK89	152×(105)	106×(87)	26	前门形	凹圆状
SK90	98×93	52×47	32	凹形	凹圆状

No	口径	底径	厚度	平圆形	新圆形
SK91	223×122	190×95	17	长方形	袋圆状
SK92	(98)×(34)	(53)×(23)	12	凹形?	凹圆状
SK94	137×126	64×51	45	前门形	凹圆状
SK95	(108)×(118)	(132)×(48)	27	前门形	凹圆状
SK96	62×55	18×17	31	凹形	扁斗状
SK97	114×93	85×59	25	前门形	凹圆状
SK98	(146)×(72)	(214)×(145)	60	前门形	袋状
SK99	118×114	105×96	70	凹形	凹圆状
SK100	175×(135)	164×(135)	23	凹形?	凹圆状
SK101	237×(146)	142×(83)	67	凹形?	凹圆状
SK102	147×(113)	111×(92)	49	凹形?	凹圆状
SK103	277×181	248×164	78	前门形	凹圆状
SK104	73×68	45×42	14	前门形	凹圆状
SK105	104×87	88×59	18	前门形	凹圆状
SK107	121×(77)	186×(78)	66	凹形	袋状?
SK108	110×(64)	83×(40)	36	凹形?	凹圆状
SK109	124×(84)	96×(65)	25	前门形	凹圆状
SK110	192×128	131×107	57	前门形	凹圆状
SK111	92×71	64×47	37	前门形	凹圆状
SK112	87×78	56×50	27	凹形?	凹圆状
SK113	(146)×118	(184)×128	89	凹形?	袋状
SK114	127×118	211×205	48	凹形	袋状
SK115	(63)×94	(56)×69	33	凹形?	凹圆状
SK116	362×184	224×107	89	前门形	凹圆状
SK117	(77)×81	(60)×65	15	凹形	凹圆状
SK118	88×61	62×38	18	前门形	凹圆状
SK120	72×69	38×30	35	凹形	凹圆状
SK121	(220)×(92)	(218)×(66)	22	前门形	凹圆状
SK122	(92)×74	75×48	19	前门形	凹圆状
SK123	(90)×128	(62)×114	70	凹形?	凹圆状
SK124	136×(50)	117×(59)	15	前门形	凹圆状
SK125	(56)×73	(52)×64	86	前门形	袋状?
SK126	(118)×(117)	(105)×(90)	21	凹圆形	凹圆状
SK127	(88)×(43)	(103)×(55)	87	凹形?	袋状
SK128	(142)×(97)	(142)×(78)	18	前门?	凹圆状
SK129	111×(62)	90×(53)	43	凹形	凹圆状
SK130	180×(146)	294×237	106	前门形	袋状
SK132	302×189	328×216	94	前门形	袋状
SK133	149×145	182×173	91	凹形	凹圆状
SK134	142×127	(210)×(100)	133	前门形	袋状
SK135	207×178	(270)×231	91	前门形	袋状
SK136	234×(115)	307×(142)	86	前门形	袋状
SK137	133×128	106×107	49	凹形	袋状?
SK138	119×98	213×184	107	前门形	袋状
SK139	(107)×109	(75)×83	33	前门形	凹圆状
SK140	292×183	271×136	12	前门形	凹圆状
SK142	167×155	139×127	61	凹形	凹圆状
SK143	99×90	77×68	74	凹形	凹圆状
SK144	212×176	193×161	22	前门形	凹圆状
SK145	187×165	166×146	31	前门形	凹圆状
SK147	82×68	59×42	38	前门形	凹圆状
SK148	50×47	33×32	21	凹形	凹圆状
SK149	210×190	183×168	66	凹形	凹圆状

Ⅲ おわりに

今回の下西原遺跡の発掘調査では、道路建設幅という限られた範囲内ではあるが、縄文時代中期及び古墳時代の集落跡が重複する形で確認された。ここではそれぞれの時代の集落跡の様相を整理するとともに、若干の時期の考察等を行いまとめとすることにしたい。

1 縄文時代集落跡の様相

今回確認された遺構は、竪穴住居跡21軒と土坑約140基である。竪穴住居跡は平面形が円形もしくは楕円形のもものが中心で、確認された中で最大のものは6.55×6.54mのSI12、また最小は3.85×3.84mのSI11である。伊跡はほとんどの竪穴住居跡で確認されているが、そのうち半数近くは川原石を用いた石囲い伊である。なお竪穴住居跡どうしの重複で、遺構的な先後関係が確実に確かめられたのはSI25→SI26等わずかであるが、例えばSI14～18周辺の密集度からすると数時期に渡る建物の変遷が考えられる。

一方土坑については平面形はほぼ円形で、断面形が袋状もしくは円筒状の2種類に大別される。袋状のものは、重複や崩落の影響で原状を留めていないものも多いが、遺存状態の良いもの(SK27・113・138等)でみると、開口部径が100～120cm、底面径が210～230cm、確認面からの深さが60～110cmといった大きさで、底面径が開口部径のほぼ2倍となっている。なおこれら袋状土坑の底面には、1～3個の小ピット(直径40～60cm、深さ20～60cm)を伴う例も多くみられる。

次に出土した縄文土器の様相から各遺構の時期を考えてみたい。まず竪穴住居跡であるが、全体に出土土器が少ないながら、SI06でややまとまった資料が出土している。ほぼ完形で出土した深鉢形土器(第50図1)は、口縁部文様帯の渦巻状・楕円状モチーフの区画文及び胴部に施された懸垂文の特徴等から中期後半加曾利EⅠ式の新段階に位置付けられるものである。またSI12では発達した磨消縄文(第52図1・2)がみられることから、加曾利EⅡ式の新段階まで下るものと考えられる。なおSI05やSI15では交互刺突文を持つ中鉢系の口縁部片が出土しており、SI06より遡る様相がみられる。

これに対し土坑群からは比較的多くの土器が出土している。SK06の深鉢形土器(第58図13)は、口縁端部の直立・口唇直下の交互刺突文及び隆帯上のキザミ等、中鉢式土器の特徴を有するものであり、中期前半阿玉台IV式期に併行するものとみられる。SK138からは、口縁部に集合沈線を施すもの(第64図145)、キザミを伴う眼鏡状把手を有するもの(第64図144)、複弧文系の口縁部文様帯をもつもの(第65図146)等、加曾利EⅠ式の前段階の様相が窺われる。またSK13から出土した大型深鉢形土器(第59図43)は、SI06出土のもの(第50図1)と同様の文様構成を持つ加曾利EⅠ式新段階のものである。さらにSK52からは加曾利EⅡ式の新段階と考えられる磨消縄文が施された深鉢形土器(第62図103)が出土している。

以上のように、調査範囲内においては竪穴住居跡がやや後出する状況もみられるが、集落全体としては縄文中期前半の阿玉台IV式期から中期後半の加曾利EⅡ式の新段階まで、長期に渡って継続したものと考えられる。確認された竪穴住居跡の配置等をもとめると、土坑群との関係や時期的な分析は不十分であるが、調査区南西部(SI05・06・14・15等)や北東部(SI22・25・26・30等)において円形又は弧状を形成するまとまりが確認される。ただし集落跡全体からすると、今回の調査区は南東の

一部が確認されたのにすぎず、北西部一帯に同様な状況が展開され、拠点的な集落が形成されていた可能性が高いものと考えられる。なお本遺跡の東方約1kmには後前期葉(称名寺式～瀬之内式期)の大規模な集落跡が確認されており、縄文拠点集落の変遷を考える上で興味深い。

2 古墳時代集落跡の様相

今回の調査区では竪穴住居跡10軒が確認されたが、近隣の発掘調査(宇都宮市西州部町の大関台遺跡、同市東谷・中島地区の権現山遺跡・杉村遺跡等)成果等を参考に出土土器群を整理・分析すると以下の4時期に分けることが可能である。

第I期 SI23一軒だけであるが、中膨らみの土器器高脚部や内外面が磨かれた土器器鉢の状況等から古墳時代中期(5世紀代)のものと考えられる。なお竪穴の平面形は隅丸方形とみられる。

第II期 SI02・08・09等の土器群で、土器器杯が須恵器模倣のものが主体であることや球胴の土器器甕が一定数見られることなどから、古墳時代後期後葉(6世紀後葉)段階に位置付けられる。SI02ではTK43形式とみられる須恵器杯身が伴出している。竪穴の位置関係や方向性等からSI31・32も本時期とみられ、台地東縁部に展開する傾向がみられる。

第III期 SI01・04の土器群で、土器器杯は須恵器模倣のものが減少し、体部外面に稜をもつものや半球形状のものが中心となり、法量小さいものも目立ってくる。また土器器甕は長胴化が進んでいる。古墳時代後期末(6世紀末～7世紀初頭)段階に位置づけられ、SI01ではTK209形式とみられる須恵器杯蓋が伴出している。竪穴2軒は調査区南寄りに展開している。

第IV期 SI10・13の土器群で、土器器甕の長胴化がさらに進み口径が最大径になる段階で、古墳時代終末期(7世紀前～中葉)と考えられる。SI10では飛鳥I～II期併行とみられる須恵器杯蓋が伴出している。竪穴2軒は調査区の中央部に展開するが、SI13は数少ない東カマドである。

以上のように今回確認された竪穴住居跡群からは、古墳時代集落は少なくとも中期には開始し、若干の空白期間を挟んで、後期後葉から終末期まで継続的に営まれていた状況を確認することができた。ちなみに谷を挟んで東方約0.5kmに位置する鳥井戸遺跡では、本遺跡IV期に後続するとみられる古墳時代終末期(7世紀中葉)段階や平安時代前期(9世紀中葉)段階の竪穴住居跡群が確認されており、本遺跡周辺を一带としてみれば、少なくとも古墳時代中期頃から平安時代前期頃までは連続と集落が営まれていたものと考えられよう。

(参考文献)

芹澤清八他 1985～1987『御城田遺跡』栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
赤石澤亮・神野安伸 1989『竹下遺跡II』宇都宮市教育委員会
杉浦昭博・池田敏宏他 2001『大関台遺跡』栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
内山敏行他 2010『東谷・中島地区遺跡群10 権現山遺跡北部・杉村遺跡』栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
宇都宮市教育委員会 2021『鳥井戸遺跡』

写 真 图 版

PL1



調査区完掘状況 (西から)



調査区完掘状況 (東から)

P L 2



SI05完掘状況 (南から)



SI05磨製石斧出土状況



SI06遺物出土状況 (南から)



SI06完掘状況 (南から)



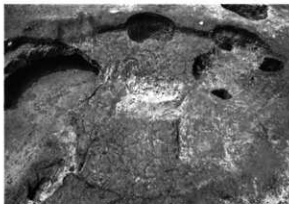
SI07完掘状況 (西から)



SI07伊勢確認状況 (西から)



SI11土層断面 (北から)



SI11完掘状況 (南東から)



SI12遺物出土状況 (南から)



SI12完掘状況 (南から)



SI14遺物出土状況 (南から)



SI14完掘状況 (南から)



SI15完掘状況 (南から)



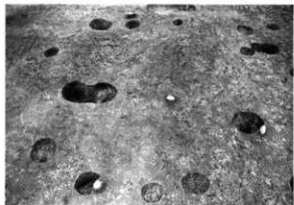
SI15炉跡完掘状況 (南から)



SI16及び周辺完掘状況 (南から)



SI16炉跡完掘状況 (南から)



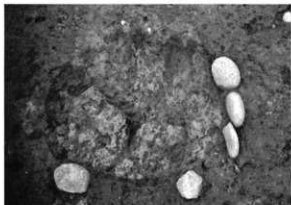
SI17完掘状況 (南から)



SI18及び周辺完掘状況 (南から)



SI19完掘状況 (南から)



SI19炉跡完掘状況 (南から)



SI22土層断面及び遺物出土状況 (南から)



SI22遺物出土状況 (南から)



SI22完掘状況 (南から)



SI22炉跡完掘状況 (東から)



SI23土層断面及び遺物出土状況 (東から)



SI24完掘状況 (南から)



SI25・26 (手前) 遺物出土状況 (南から)



SI25 (手前)・26完掘状況 (北から)



SI25炉跡完掘状況 (北西から)



SI26炉跡土層断面 (北西から)



SI27炉跡完掘状況 (南から)



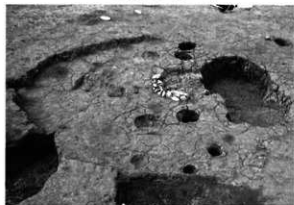
SI28完掘状況 (北から)



SI29完整状況 (東から)



SI29内部完整状況 (東から)



SI30完整状況 (南から)



SI30内部完整状況 (南から)



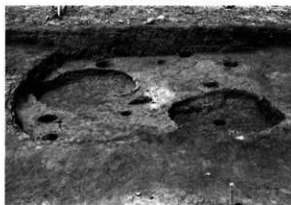
SI33遺物出土状況 (南から)



SI33遺物出土状況 (中央西部)



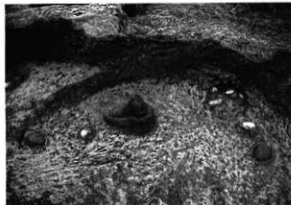
SI33遺物出土状況 (中央東部)



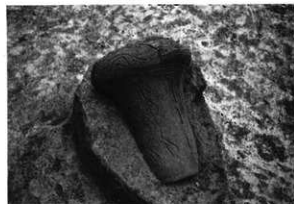
SI33完整状況 (南から)



SK01完掘状況 (北から)



SK04遺物出土状況 (東から)



SK04縄文土器出土状況



SK05完掘状況 (東から)



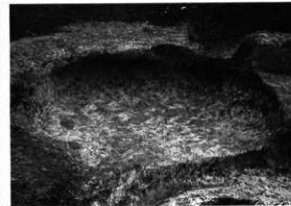
SK06完掘状況 (北西から)



SK06縄文土器出土状況



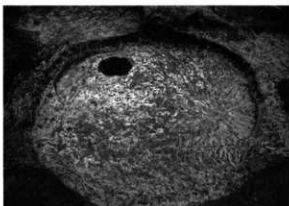
SK08完掘状況 (東から)



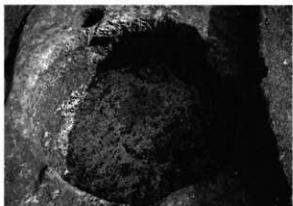
SK09完掘状況 (東から)



SK11遺物出土状況



SK11完掘状況 (東から)



SK13完掘状況 (東から)



SK13縄文土器出土状況



SK24縄文土器出土状況 (南東から)



SK27完掘状況 (東から)



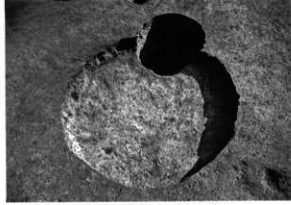
SK32遺物出土状況 (南東から)



SK36遺物出土状況 (南から)



SK38・41・42・50完掘状況（北東から）



SK39完掘状況（西から）



SK40完掘状況（南西から）



SK52縄文土器出土状況



SK56土層断面（南から）



SK57遺物出土状況（南から）



SK58・59・70完掘状況（北東から）



SK71土層断面（東から）

PL10



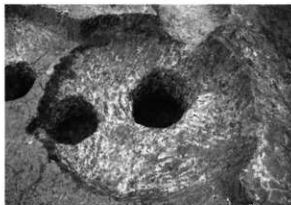
SK73・74・75完掘状況（南から）



SK76・80・81完掘状況（北から）



SK78完掘状況（北上から）



SK84完掘状況（南から）



SK86・88完掘状況（南から）



SK93・108完掘状況（南から）



SK99土層断面（東から）



SK107土層断面（南から）



SK113完掘状況 (東から)



SK113縄文土器出土状況 (東から)



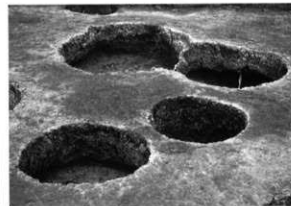
SK114完掘状況 (南から)



SK125土層断面 (南から)



SK130～132完掘状況 (北西から)



SK130～134完掘状況 (南から)



SK133完掘状況 (南から)



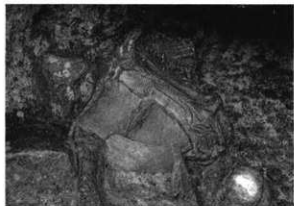
SK135土層断面 (北から)



SK138完掘状況（北西から）



SK138縄文土器出土状況（1）



SK138縄文土器出土状況（2）



SK142完掘状況（南から）



拡幅部調査区全景（南から）



SK150遺物出土状況（東から）



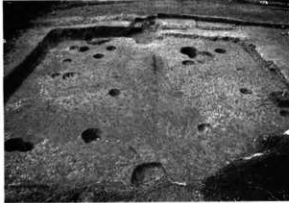
SK150完掘状況（東から）



SK151土層断面（東から）



SI01遺物出土状況 (南から)



SI01完掘状況 (南から)



SI02完掘状況 (西から)



SI04完掘状況 (南から)



SI08遺物出土状況 (南から)



SI08完掘状況 (南から)



SI09完掘状況 (南から)



SI09カマド (南から)

PL14



SI10遺物出土状況 (南から)



SI10完掘状況 (南から)



SI10カマド (南から)



SI13遺物出土状況 (西から)



SI13カマド (東から)



SI31完掘状況 (東から)



SI32完掘状況 (南から)



SI32カマド (南から)

PL15



出土縄文土器 (1)

PL16



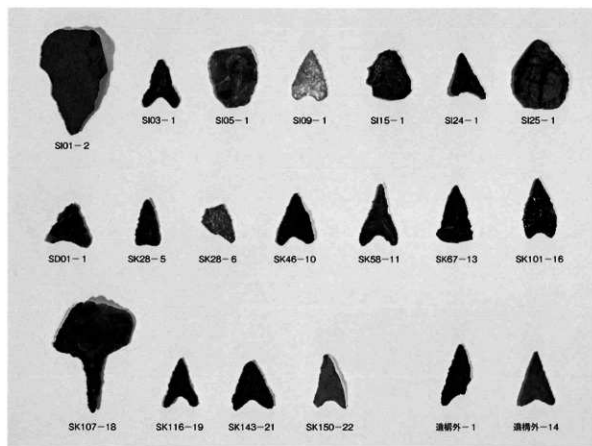
出土縄文土器 (2)



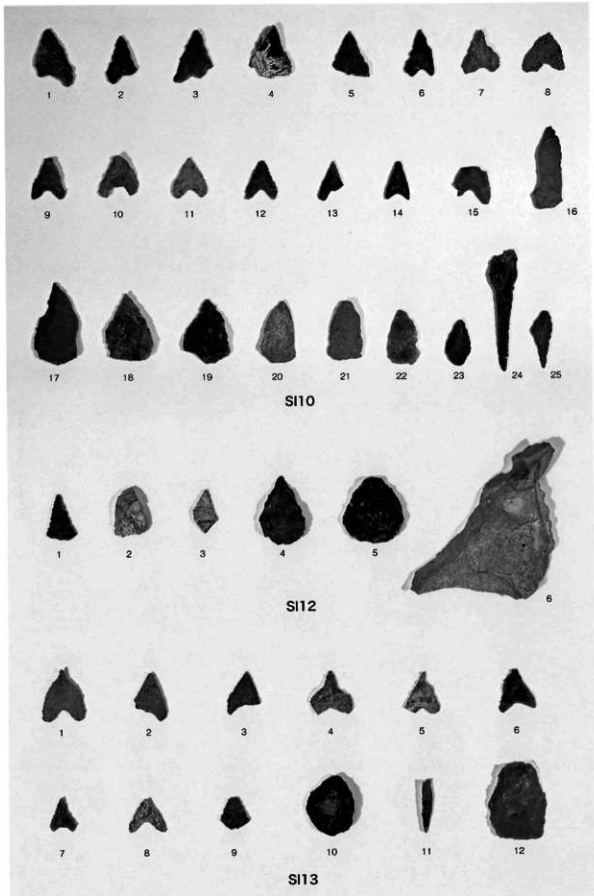
出土縄文土器 (3)



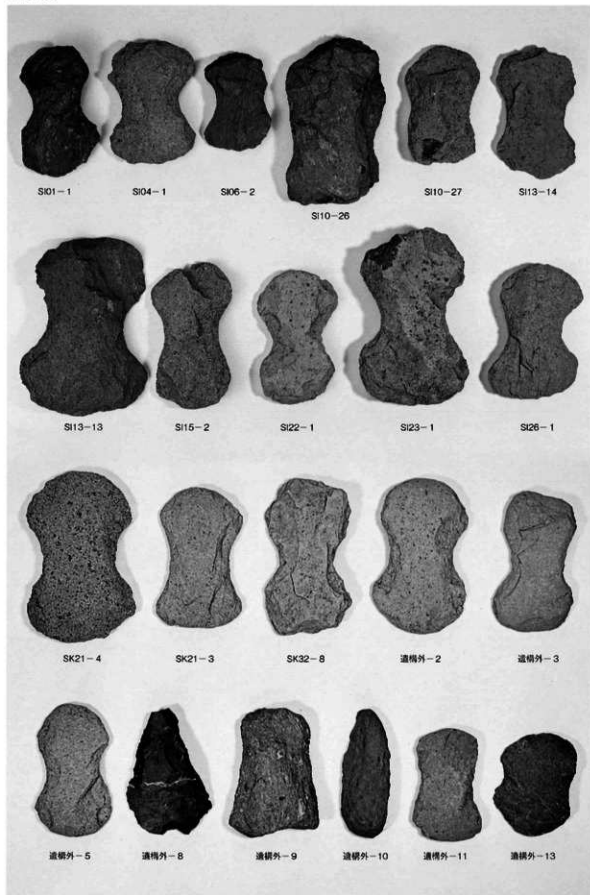
出土縄文土器 (4)



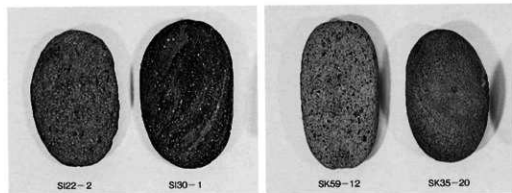
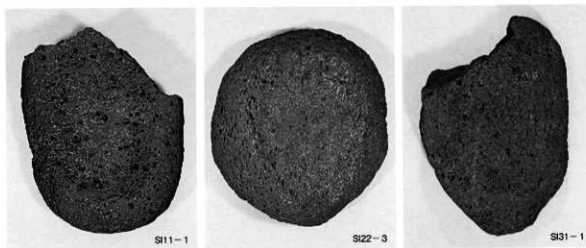
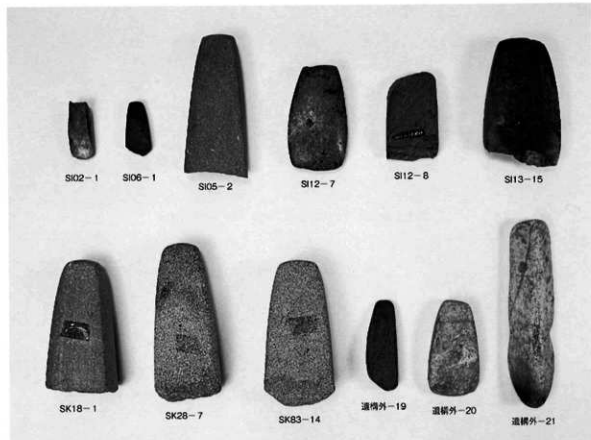
出土石器 (1)



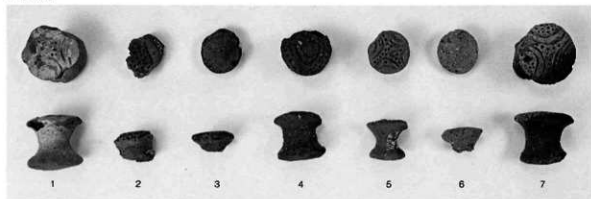
出土石器 (2)



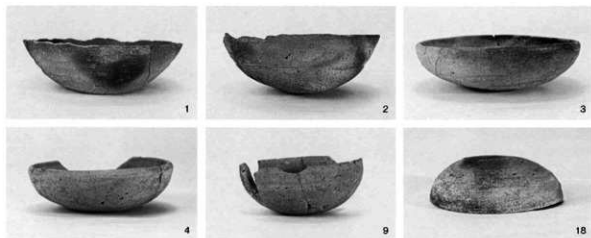
出土石器 (3)



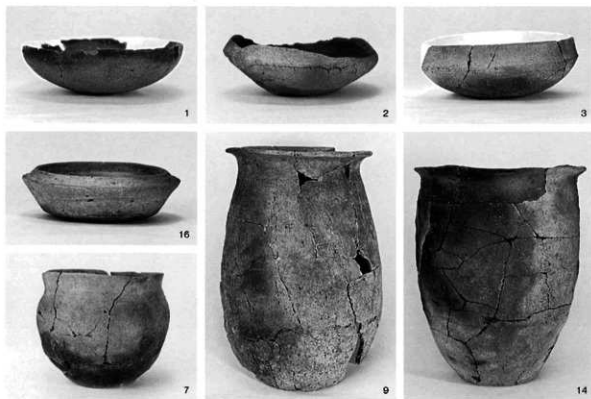
出土石器 (4)



出土土製耳飾(1-2:SI02, 3:SK38, 4~7:道轄外)



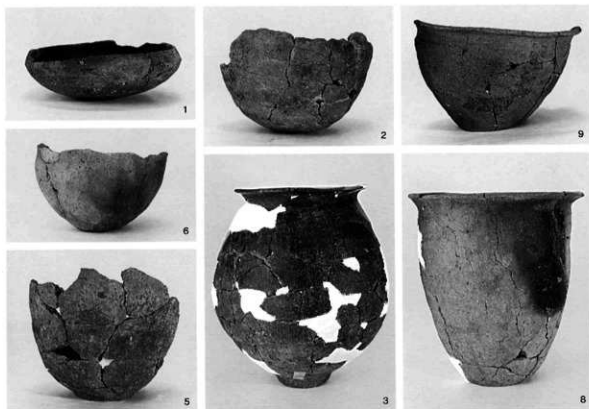
SI01出土土器



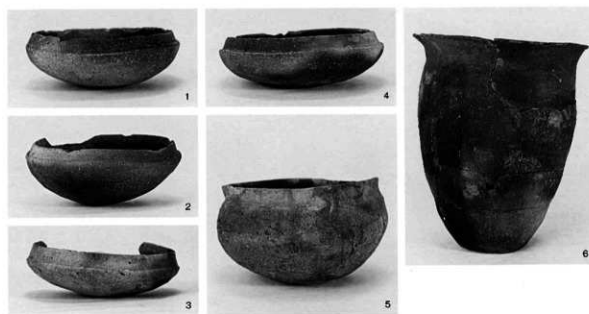
SI02出土土器



S104出土土器



S108出土土器



S109出土土器



1



4



3



2



5



6

S110出土土器



3

S113出土土器



1



1



2

S123出土土器



2

SD01出土土器



1

S131出土土器



2



出土紡錘車 (1-2:S101, 3:S102, 4:S110, 5-6:S113)



出土玉類 (7~9:SOB, 10・11:S110)

報告書抄録

ふりがな	しもにしほらいせき
書名	下西原遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第112集
編著者名	桒木 誠 田積麻友子 星野治彦
編集機関	宇都宮市教育委員会
所在地	宇都宮市旭1丁目1番5号 Tel028-632-2764
発行年月日	西暦 2023年(令和5年) 3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しもにしほらいせき 下西原遺跡	うつごみやし 宇都宮市 あさひのやま 上麓谷町	09201	3376	36度 30分 31秒	139度 58分 3秒	20071126 ～ 20170328	3,555	市道改良

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下西原遺跡	集落跡	縄文時代 古墳時代	縄文中期の竪 穴住居跡21軒、 土坑約150基 古墳後期の竪 穴住居跡10軒	縄文土器、石器、 土製耳飾、土師器、 須恵器、紡錘車、 玉類等	確認された縄文集落は、 中期中葉(阿玉台式IV 期)～後葉(加曾利EII 式期)まで継続する拠 点的な集落跡

宇都宮市埋蔵文化財調査報告書 第112集

下西原遺跡

発行 宇都宮市教育委員会

編集 宇都宮市教育委員会

宇都宮市旭1丁目1番5号

TEL 028-632-2764

発行日 令和5年3月31日発行

印刷 有限会社 印刷親友社

宇都宮市瑞穂3-9-11

TEL 028-656-3655
